

事業報告 第7号-I

平成17年度
教育相談室事業報告

平成17年度

教育相談室事業報告

大阪市教育センター

2006.3

大阪市教育センター

目 次

序

<相 談>

1 教育相談	1
2 養護教育相談	5
3 適応指導教室	9
4 スクールカウンセラー活用事業	14
5 メンタルリーダー訪問援助事業	19
6 電話教育相談	21

<研 修>

1 教育相談研修	23
2 養護教育相談研修	26
3 学校園等への派遣	29

<調査・研究>

・養護教育に関する研修「養護教育専門講座」 ー受講者評価と企画者評価から研修を考えるー	31
・養護教育相談に来談する幼児及び児童・生徒の「個別の教育支援計画」の作成に 関わって	40
・(資料) 個別の指導計画作成における「指導目標」の設定 ーカリフォルニア州Irvine学区のI.E.P.(Individualized Education program)からー	58

はじめに

平成11年度の教育委員会の機構改革により、教育委員会の各部門が関わっている教育相談に関連する事業をすべて統括され、教育センター教育相談室となって7年が経ちました。スクールカウンセラー配置校の拡充に伴って、「心の教室相談員」事業は平成16年度末をもって終了し、現在、来所による教育相談、障害のある子どもたちの養護教育相談、スクールカウンセラー活用事業、メンタルリーダー訪問援助事業、適応指導教室、電話教育相談の6つの事業を実施しています。

これまでの7年間、各事業間の有機的な連携を図り、市民に役立つ教育相談事業を進めてきました。この事業推進による効果の一例としまして、不登校の児童・生徒数の減少が挙げられます。全国的に見ましても、また、本市におきましても不登校の児童・生徒数がわずかではありますが減少してきています。その減少の背景として、教職員の真摯な取り組みとともに、スクールカウンセラーの配置による効果とそれによる学校教育相談機能の充実によるものと、文部科学省等において分析されています。

しかし、不登校の児童・生徒数が減少したと言って、決して安心できるものではありません。「減少」と言うよりも「微減」であり、「増加をやっとくい止めた」と表現した方が正確かもしれません。「課題を解決した」と決して言えるものではありません。むしろ次の課題が明確になってきました。教育相談室の当面の課題として、次の2点が挙げられます。

一つは、スクールカウンセラーの力量の向上です。今、学校という“土俵”でスクールカウンセラーの相談の力量をより一層発揮することが求められています。平成16年度より「学校文化を知る」というテーマで研修会を実施していますが、今後とも工夫していく必要があります。

もう一つは、特別支援教育への対応です。平成19年度より特別支援教育が本格実施されます。平成18年度は養護教育課と連携し、「特別支援教育コーディネーター養成研修」を実施する予定ですが、他機関との連携を推進し、総合的な支援体制を構築していく必要があります。

今後とも、子どもの幸福を最優先に、山積する課題に取り組んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、この間、京都大学の岡田康伸教授、京都女子大学の山口俊郎教授には来所相談のスーパーバイザーとして、大阪人間科学大学の服部祥子教授には医療相談の顧問医師として、京都大学の藤原勝紀教授、東京大学の倉光修教授、教育センター前所長の浜田邦男先生にはスクールカウンセラーのスーパーバイザーとして、常に変わらぬ温かいご指導を賜りましたことを心より厚くお礼申し上げます。

教育相談室長 谷 坂 昇

教育相談

1 相談の概要

(1) 目的

大阪市内に在住する幼児から高校生までの性格・行動上の問題や、学業の悩みなどの相談を受け、心理と教育の両面から来所による相談を行う。

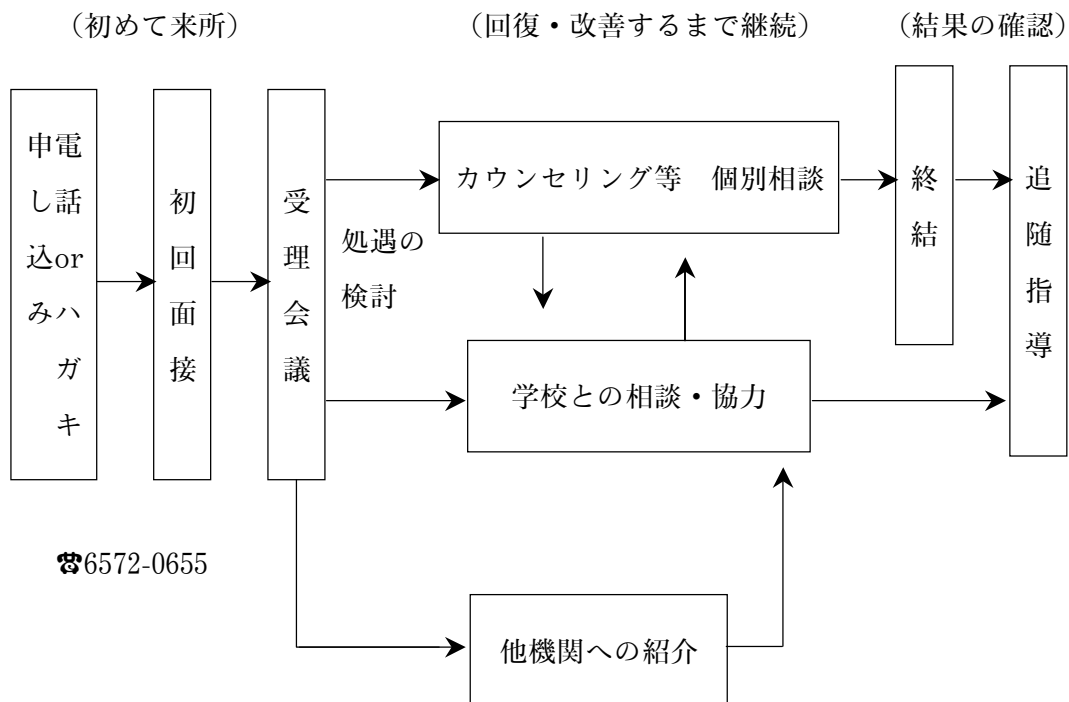
(2) 業務内容

ア 子どもや保護者への教育相談・カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、描画療法等の心理療法を行う。

イ 保護者・教職員への指導・助言を行う。

ウ 思春期の精神医療面の問題に関して、精神科医による医療相談を行う。

(3) 相談の流れ



(4) 相談体制

現在の来所教育相談スタッフは、次のとおりである。

- ・常勤：室長1名、総括指導主事1名、主任指導主事1名、所員4名
- ・非常勤：スーパーヴァイザー1名、精神科医1名、嘱託臨床心理士16名（1日5名×週5日）、嘱託相談員5名、適応指導教室指導員2名

当教育相談室の特徴は、「教育職の相談員と臨床心理士がペアを組んで相談活動にあっている」ところにある。これは「心理の知見を活用して教育の分野に厚みを持たせる」ことにつながっている。また、相談期間が比較的短く終結することができているのは、臨床心理士による「専門的カウンセリング」と教育職相談員による「保護者や学校との連絡調整やきめ細かい相談援助」等、相談活動の効果があがってきているからと思われる。相談方法では教師の全てと保護者の約半数に対して、当面の子どもに対する接し方など指導助言を含めた教育相談（コンサルテーション）を行っている。保護者と子どもが共に来所しているケースは、保護者には教育相談及びカウンセリング、子どもにはカウンセリングや心理療法を行うことが多い。さらに、相談員の指導にあたるスーパーヴァイザーとして京都大学の岡田康伸教授と、思春期の子ども等々の心と体の精神医療面で、大阪人間科学大学の服部祥子教授（精神科医）にも加わっていただいております、総勢は30名となっている。

(5) 相談室使用の現状

相談申込みケースが増加してくると、カウンセリングや心理療法のための部屋が不足がちになってくる。そこで、教育センター設立当初には倉庫であった箇所を間仕切りしてカウンセリング室を2室増設したのをはじめ、地下駐車場を「スポーツ活動の空間」として使用したり、家庭科研修室を適応指導教室の調理実習で使用したりするなどして、現在は8つのカウンセリング室をはじめとして、19室を活用している。

それにもかかわらず、なお相談のための部屋が不足しており、7階にある「フリールーム」（適応指導教室のためのホームルーム）も適応指導教室の開かれていない時間帯に、「ゲームやパソコンもできる第3プレイ室」的に使用せざるを得ない状況にある。

平成15年度より、8階にある「第6研修室」を「適応指導教室第2室」とし、主に適応指導教室小学部の部屋として使用している。

2 相談状況

(1) 主訴別にみた相談件数、相談人数、延べ回数（平成17年度）

区分	不登校	学 習	発 達	性格行動	神経症的	非 行	その他	計
件 数	315 (46.7%)	9 (1.3%)	28 (4.1%)	213 (31.6%)	5 (0.7%)	7 (1.0%)	98 (14.5%)	675 (100%)
人 数	362 (47.4%)	10 (1.3%)	32 (4.2%)	247 (32.3%)	8 (1.0%)	7 (0.9%)	98 (12.8%)	764 (100%)
延 べ 回 数	4,329 (69.5%)	35 (0.6%)	35 (0.6%)	1,612 (25.9%)	108 (1.7%)	7 (0.1%)	102 (1.6%)	6,228 (100%)

※性格・行動（緘黙、引っ込み思案、反抗的・乱暴、落ち着きがない等）

※神経症的（チック、習癖等）

(2) 年齢別相談件数（平成17年度）

年 齢	不登校	学 習	発 達	性格行動	神経症的	非 行	その他	計	
幼 児	6	0	2	12	1	0	4	25	
小 1	5	1	3	17	1	0	7	34	334
小 2	18	0	3	28	1	0	9	59	
小 3	20	2	3	24	0	0	6	55	
小 4	12	2	3	23	1	0	6	47	
小 5	25	1	2	30	0	1	11	70	
小 6	26	0	5	26	1	2	9	69	
中 1	36	0	4	13	0	0	16	69	222
中 2	61	2	3	20	0	0	8	94	
中 3	46	1	0	5	0	0	7	59	
高 1	33	0	0	6	0	1	8	48	87
高 2	18	0	0	6	0	3	1	28	
高 3	6	0	0	2	0	0	3	11	
その他	3	0	0	1	0	0	3	7	
合 計	315	9	28	213	5	7	98	675	

不登校にかかわる相談が多く、割合も非常に高くなっている。（全相談件数の46.7%、昨年度は65.0%）また、他の主訴にかかわる相談の平均相談回数が5.3回であるのに対し、不登校の平均相談回数は13.7回となっている。不登校にかかわる相談の長期化傾向が一層顕著になってきており、数年にわたるケースもある。

3 研究・研修

(1) 意義

私たちの研究スタイルは「事例研究」である。事例研究とは、日常の教育相談業務にたずさわりながら深める研究である。つまり、相談そのものから得られる研究であり、その研究のスタイルとしては臨床的方法に基づくことになる。事例研究をすること自体も相談への役立ちとなる。事例研究を貫く考え方は、「人（子ども）をかけがえのない存在と見て、その人自身の歩んできた道にそって、問題のありようと援助の方向を考察する」ものであり、その意味で来談者のプライバシーの保護（秘密の保持）を第一義的に考える。

また、事例研究の支柱は「事実をどれだけ忠実に追えるか」ということであるが、事実には客観的事実と主観的事実がある。ある人にとってはそれが事実であったとしても、他の人にはそうでない場合がある。したがって、事実を追うといっても、現象の事実を追う

のみでなく、内面の事実を中心に追うものであり、こうした一見地味に見える作業を積み重ねることにより、来談者の立ち上がりが見えてくる。つまり、「個」の追究の中にこそ、普遍性の獲得があり、人との出会いによって生じる感動があると考えている。

(2) 室内研修

こうした事例研究を基本として、様々な室内研修を行っている。私たちは「心理臨床の知見を教育の中に取り入れることは、教育の枠組みを豊かに広げていくことにつながる」ことを実際に経験している。そこで、「延べ 100 時間に及ぶ着任者研修」をはじめ、日常的に自らの相談力量を高めるために、室内研修として「ワークショップ」や「事例研究会」を2週間に1回の割合で開催している。この研修では、京都大学の岡田康伸教授にスーパーヴァイザーとして指導を仰いでいる。

(3) カウンセリング研修講座・新任教員への「カウンセリングの基本」研修会

全市校園の全ての教職員に「カウンセリングの心」の体得をめざして始まった新任教員への「カウンセリングの基本」研修会も本年度で17回目を迎えた。1日の研修ではあるが、講師の西林幸三郎先生（大阪市立五条小学校長）に対しては、「具体的な事例が講義の中にあってよかった。自分自身が人間的に成長できていない部分がある中で、学校での指導に生かせるだけではなく、自分が成長できそうな、そんな話が聞けてよかった。」「カウンセリングの話は、日常とつながっていることがたくさんありとても勉強になった。コミュニケーションをとることの大切さや全ての仕事が子ども理解へとつながることなど、大切なことを改めて感じることができた。」との感想も寄せられるほど、受講者には好評をもって受けとめられた。

また、毎年夏に開催される「カウンセリング研修講座」では「ワークショップ」として、「箱庭療法」「描画療法」「コラージュ療法」等を体験する演習やロールプレイングでのカウンセリング体験など、学校教職員のニーズに合った研修を実施している。

(4) 研究相談（教育相談事例への援助）

日常的に学校で起こる様々な事例に対して、教育相談の経験を生かした「研究相談」を行っている。教職員の学校での実践を大切に共有することにより、子どもへの対応をより豊かなものにできるよう心掛けている。

次に、「教育相談」や「子ども理解」に関するテーマで教育相談の指導主事が講師として担当した研修会の受講者（教職員・保護者・大学生等）延べ人数を下表にあげておく。

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
3,522	4,268	3,865	6,829

養護教育相談

1 相談の概要

(1) 目的

大阪市内に在住し、障害があるか、もしくはその疑いのある幼児・児童・生徒の教育・保育に関して教員や保護者を支援していく。

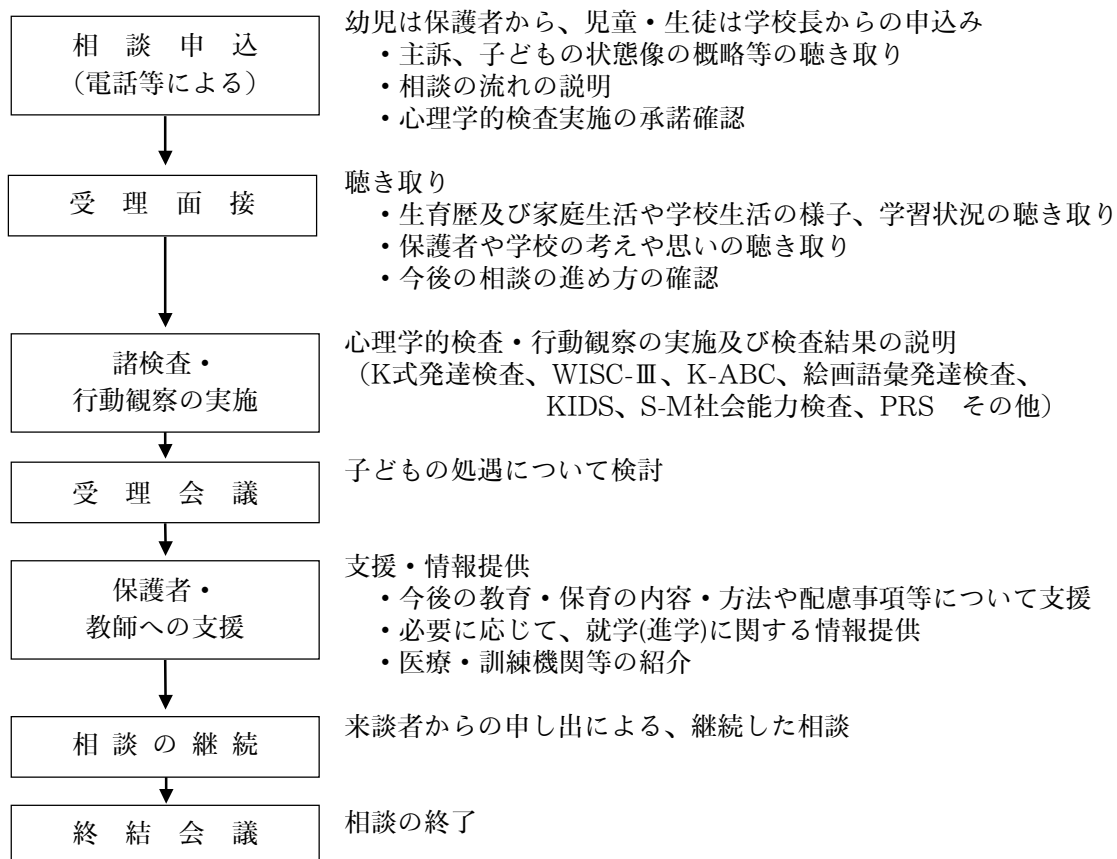
(2) 業務内容

ア 児童・生徒の指導上の問題(教育内容・方法・配慮事項、教材・教具等)に関する支援や情報提供を行う

イ 幼児の保育上の問題(保育内容・方法・配慮事項等)に関する支援や就学に関する情報提供を行う

ウ 教育、療育、福祉関係等に関する情報を提供する

(3) 相談の流れ



(4) 相談体制

相談は、首席指導主事、主査、指導主事、研究官、所員、非常勤特別嘱託員で行う。また必要に応じてスーパーバイザーの指導・助言を受ける。

2 平成17年度養護教育相談の概要

(1) 相談件数・延べ回数・延べ人数等

※903件の内、157件は前年度からの継続分

(平成18年3月末現在、以下同じ)

件数	相談延べ回数	相談延べ人数		
		幼児・児童・生徒・保護者	教員等	計
903	7,552	5,563	1,536	7,099

相談実件数は903件であり、昨年度と比較して約19%の増加となっている。また相談延べ回数は約16%減、相談延べ人数は約5%増となり、件数増に対応するため延べ回数・人数が共に増加している。

過去10年間の学齢期別相談実件数の推移は図1のとおりである。

相談件数は、平成7年度を境として年々増加している。とりわけ平成12年度から児童・生徒の相談件数は増加傾向が続いている。

このような現状から幼児の定期的な継続相談について17年度は、年長児で平均月1回程度の相談の実施が困難な状態になってきている。なお、平成17年度の相談件数の内、年度内の最終件数は402件、次年度への継続件数は228件であった。

図2は過去10年間の延べ相談回数・延べ人数の推移を表している。平成14年度から減少していたが、平成17年度は再び増加の傾向にむかっている。

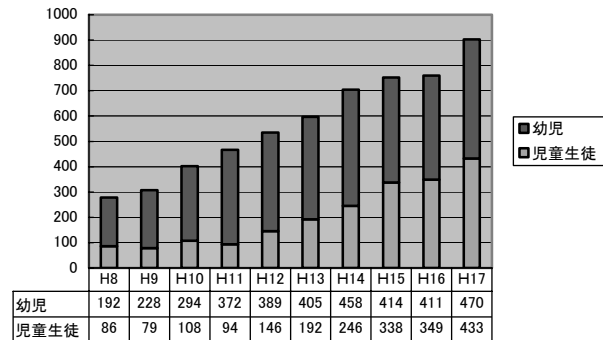


図1 過去10年間の相談実件数の推移

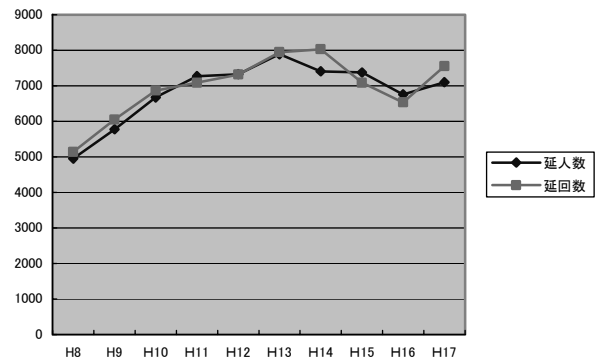


図2 過去10年間の延べ相談回数・人数の推移

(2) 年齢別相談件数

年齢	幼 児					児 童						生 徒						合計
	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
件数			1	145	324	104	73	74	50	64	45	8	10	5				903
比率			52.0			45.4						2.6						

幼児の相談件数が約52%を占めている。とりわけ就学を目前にした5歳児の相談が全体の

約69%となっている。また児童・生徒の相談の増加が著しく、平成16年度と比べると、約24%の増加となっている。

(3) 主訴別相談件数

教育・保育相談	進路相談	就学時精密検査	合計
757件	50件	96件	903件

教育・養育の相談は、約84%を占めている。幼児の場合の主訴の大部分は、我が子の成長・発達の様子を心配しながら、「みんなと一緒に円滑な学校生活が過ごさせるために、就学までに少しでも子どもの成長を促しておきたい」という親の思いで教育・訓練内容・方法等についての助言を求めて来所している。また児童生徒の場合は、発達の様子とそれに応じた教育内容・方法や教材教具の助言を求めての相談、及び、それらをもとにした個別の指導計画の作成についての助言を求める相談である。

(4) 障害別相談件数

障害別の相談件数は、下記のとおりである。

知的障害のある子どものケースは約62%であるが、高機能自閉症やアスペルガー症候群等の広汎性発達障害のケースも漸増の傾向にある。

主 障 害		従 障 害										重 複 率 (%)
障 害 名	件 数	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	知 的 障 害	肢 体 不 自 由	病 ・ 虚 弱	情 緒 障 害	言 語 障 害	L D	そ の 他	合 計	
視覚障害	1				1						1	100.0
聴覚障害	1											
知的障害	531	1			7		79	4			91	17.1
肢体不自由	13			7					1		7	53.8
病・虚弱												
情緒障害	97			5	3						8	8.2
言語障害	3			1							1	33.3
L D	15											
そ の 他	242											
合 計	903	1		13	11		79	4	1		108	12.0

障害の分類については、医療機関や判定機関等での診断情報や心理学的検査の結果に基づいて行った。「情緒障害」については、医療機関や判定機関等で自閉症と診断・判定された者を計上した。「その他」は、全般的な発達上の遅れは認めにくい、発達上の偏りや行動上の課題があるケースを計上した。これらの中には高機能広汎性発達障害と考えられるケースも多く含まれている。医療機関でADDやADHDと診断されたケースについては、ここでは主障害として計上していない。

※ 上記件数の内数として、ADD/ADHDと医療機関で診断された者の件数は26件、高機能自閉症とアスペルガー症候群が35件であった。

(5) 来談の経緯

図3は、平成17年度に来所した幼児のケース470件の来談経緯の内訳である。最も多いケースは中央児童相談所や母子通所及び家庭児童相談室等の相談機関から就学が近づいたので教育センターでの相談を紹介されてケースである。就学予定先の小学校の紹介、既に来所している人からの紹介がそれに続く。医療機関からの紹介の多くは大阪市総合医療センターであり、医療と教育の相互紹介が増加してきている。

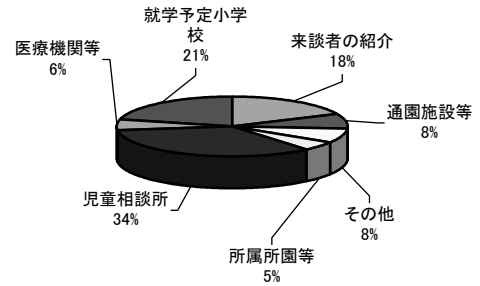


図3 来所の経緯別件数(幼児)

なお、児童・生徒の相談は、原則として保護者と学校職員及び相談担当者の3者によりすすめているため、すべて所属校園長の申込みとなっている。

(6) 主訴別件数

図4、5は、主訴別の相談件数である。ここでは幼児と児童・生徒の場合に分け、相談の主訴を概観する。なお本統計では来談者の主訴が二つ以上ある場合はそれらもカウントし、延べ数として計上した。

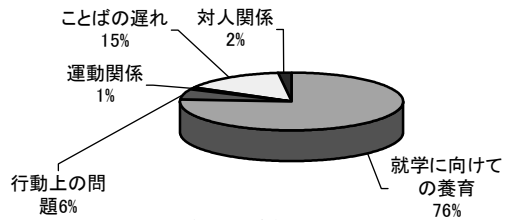


図4 主訴別件数(幼児)

《幼児》

ことばの遅れを主訴とする相談の内容は発語の獲得以前の相談から会話がうまくできないケースまで広範囲に及んでいる。「就学に向けての養育について」が大半を占める。内容的には、発達遅れがあり、どう養育していけばよいかといった養育全般について及び小学校との相談をどのようにしていけばよいかという主訴である。行動上の諸問題の内容は、「多動、自傷・他傷、こだわり等」である。対人関係では、「集団の中に入れない、場面にあった行動ができない」等の内容である。

《児童・生徒》

主訴の約74%は学習の遅れに伴っての相談である。これらのケースは「児童・生徒の発達の様子と今後の指導内容・方法等」についての相談である。LD/ADHDでは、LDやADHDと医療機関等で診断され、教育的な助言を求めてくる場合と、LDやADHD等の疑いで来所するケースである。対人関係では「友達とのトラブル、集団の中に入れない、場面にあった行動ができない等」であり、行動上の問題では「多動、自傷・他傷、こだわり等」が具体的な主訴である。また、平成11年度頃から、障害のある児童・生徒の不登校に関わる相談も見られるようになってきた。

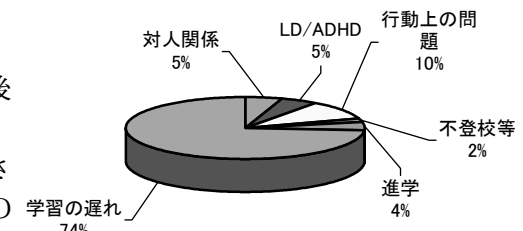


図5 主訴別件数(児童生徒)

(7) 児童・生徒の在籍学級別件数

児童・生徒の在籍学級別の相談件数は、図6の通りである。

昨年度は養護学級の在籍が半数を超したが、平成17年度は再び通常の学級に在籍する児童・生徒のケースが過半数を越える状況となった。



図6 在籍学級別相談件数

適応指導教室（通称・フリールーム）

1. はじめにー活動の概要ー

当相談室の「適応指導教室（以下フリールームとする）」は、週4回（月・火・木・金）開設している。本年度は、11名の入級者であった。入級対象者は、当センター教育相談室に不登校の主訴で相談に通う児童生徒（小4～中3）のうち、小集団での活動が可能で入級を希望する者である。

本年度は4月以降、小学生部は在籍がなく、実質は中学生部だけの運営になった。中学3年生が多いため（8名）、進路についての悩みもあるので、中学2年生、1年生との関わり以上に配慮が必要であった。

グループ活動や学習活動を通して、人との交わりを経験し、仲間とのやり取りに慣れ、学習への関心や意欲を高めるきっかけを得て、結果としての再登校を目指すものである。

担当者は、専任の指導員と曜日ごとに学習指導等にかかわる教員籍の心理相談員である。当フリールームの特色は、週4日間の通級活動を重ねながら、並行して心理相談員との週1回の個別カウンセリングを行い、適応への細やかな対応、支援が行われることにある。

2. 活動の実際

(1) 活動場所；

ホームルームを行う中学生部の「フリールーム室」（7階）。小学生部の「フリールーム第2室」（8階）。地下1階の運動場所。家庭科実習室（7階）。音楽実習室（8階）。3階屋外ベランダ（栽培活動）。

これら以外に、センター外部に出かけての活動がある（港区・中央区・北区など）。

(2) 年間行事（前期；4月～7月 中期；9月～12月 後期；1月～3月）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開始日・終了日	14			11		9			13	16		14
フリールームパーティー				11					13			9
調理実習（年8回）		○	○	○		○	○	②			○	
社会見学・社会体験(年5回)		○	○				○	○			○	
サマーキャンプ・遠足	8月18-19日			10月25日			3月29日					
保護者会・学校連絡会	4月12日, 7月14・15日,			12月19・20日,			3月22日					

(3) 標準週時程（4月～3月）

- ・担当者；「フリータイム」「HRタイム」は、専任の指導員（2人）がホームティーチャーとして全日担当。また、「自主タイム」でも個別に対応する。曜日ごとの国語等の教科、総合的な学習の指導は、教員籍の心理相談員（4人）が当たる。
- ・ここでは、学習が第一義的な目的ではなく、同年齢集団との関係作りが重要である。個々人の実態に即して、教科等の学習時間と並行して「自主タイム」を選べるようにしている。

(4) 入級児童生徒のようす（本年度の入級中学生11名）

- ・内訳は、中学1年1名（女1）、2年2名（男1、女1）、3年8名（男3、女5）
- ・入級は本人の意思に基づくが、仲間への入り方は人それぞれである。初めは黙ったまま座

り続けている場合も少なくない。

- どのように集団の中で心を開き、関係を作っていくかについて、この10数年間専任の指導員として子どもたちとかがわってきた大谷指導員はその過程を4段階に分けて整理している。

①指導員と子どもの2者関係、②指導員が中継する子どもどうしのつながり、

③指導員と子どもたちとの3者関係、④子どもたちの相互関係の成立発展。

- 集団の中で心を開き、ことばをやり取りできる関係を通して、自分の言動の傾向や特徴を学んでいく。落ち込んだり、回復したりしながら子どもどうしの中で成長し、意欲や自信を回復していく。その時助言したり、方向付けたりして支えていく指導員の役割は欠かせない。

- 3年生8名は、それぞれの進路を決めている。定期テストを受けに行ったり、登校を始めた子には、時々来室して、現状の報告をすることが心の支えになっている。3年生は互いに触発される相互関係性のなかで進路を決めていくような成長がみられる。

(5) 室外での活動

ア. 社会体験・社会見学として港区・中央区・北区へ。また、自分たちで決めたカラオケなどに指導者と一緒に行き経験する。

(他に、教育相談室としての以下の行事に参加する。)

イ. サマーキャンプ；平成17年8月18～19日・大阪市立信太山青少年野外活動センター

ウ. 秋の遠足；平成17年10月25日、「ハーベストの丘」(大阪府堺市)

エ. 春の遠足；平成18年3月29日 神戸市立須磨海浜水族園

3 まとめ

- フリールームが子どもたちの「心の居場所」となり、自分を見つけ、回復し、仲間との交わりを通して成長していく姿が確かめられる。とりわけ中学3年生が進路を定める過程での仲間の役割は大きい。
- こういった生きる力の回復を、生活全体の変容や登校へとつなげていくことが、今後もいっそう大事な課題となっている。
- そのためにも、7月、12月の2回の学校連絡会に、多くの学校から担当者の参加が得られたことはよかった。学校での取り組みや子ども理解とフリールームの子ども理解とを照合し、捉えることが出来た。
- 年3回の保護者会実施は、家庭との相互理解、連携の必要性を改めて確認できた。

平成17年度フリールーム前期（4月～7月）の活動内容

	月	火	木	金
	総合(1)	国語	数学	英語
	スポーツ活動	総合(2)	スポーツ活動	表現創作活動
4月			14 数学プリント学習 ゲーム 卓球	15 自習プリント学習 卓球 絵画
	18 草抜き	19 フリートーキング 漢字プリント学習 野菜の苗植え	21 数学プリント学習	22 英語プリント学習
	野菜の苗の買い出し 卓球		バドミントン	木工制作
	25 水遣り 自習プリント学習 卓球 バドミントン	26 詩を詠みタイトルをつける 漢字プリント学習 5月の壁面制作	28 数学プリント学習 バドミントン	29 みどりの日
5月	2 水遣り 木工作品作り バドミントン	3 憲法記念日	5 こどもの日	6 英語プリント学習 粘土制作
	9 自習プリント学習 水遣り 卓球	10 詩を詠みタイトルをつける 漢字プリント学習 スイカ・花苗植え	12 社会見学 バッティングセンター	13 英語プリント学習 木工制作
	16 水遣り 自由課題制作 バドミントン	17 国語テスト範囲学習 調理実習メニュー相談 6月の壁面制作	19 フリートーキング キャッチボール バドミントン	20 英語プリント学習 粘土・木工制作
	23 自由課題制作・学習 バドミントン 竹馬	24 調理実習 たこやき 明石焼き フルーツポンチ	26 フリータイム バドミントン	27 フリートーキング
	30 フリートーキング バレーボール ドッジボール	31 詩を詠みタイトルをつける 漢字プリント学習 6月の壁面制作	2 数学プリント学習 ドッジボール	3 英語プリント学習 避難訓練 フェルト制作
	6 野菜の手入れ 自由課題制作 卓球 フェルト制作	7 詩を詠みタイトルをつける 漢字プリント学習 消しゴム印作り	9 調理実習 豚のしょうが焼き こんにゃく明太子和え マカロニサラダ	10 英語プリント学習 英語プリント学習
	13 野菜の手入れ 卓球 絵を描く	14 詩を詠みタイトルをつける 漢字プリント学習 7月の壁面制作	16 数学プリント学習 卓球	17 英語プリント学習 創作活動 絵・フェルト・折り紙
20 社会見学 所蔵名品展 大阪市立近代美術館	21 詩を詠みタイトルをつける 漢字プリント学習 7月の壁面制作	23 数学プリント学習 卓球 ゲーム・壁面制作	24 英語プリント学習 うちわ作り 調理実習メニュー相談	
27 工作 自由課題・絵 ドッジボール・卓球 絵	28 物語を朗読する 漢字プリント学習 詩にイラストをつける	30 数学プリント学習 卓球	1 調理実習 ハンバーグ だし巻きたまご	
7月	4 フリータイム	5 物語を朗読する 漢字プリント学習 七夕飾り制作	7 数学プリント学習 ドッジボール 卓球	8 大掃除 フリータイム
	フリータイム			
	11 フリールーム パーティー 前期終了			

平成17年度フリールーム中期（9月～12月）の活動内容

	月	火	木	金
	総合(1)	国語	数学	英語
	スポーツ活動	総合(2)	スポーツ活動	表現創作活動
9月				9 英語プリント学習 創作活動 ギター・あやとり・ビーズ
	12 野菜土作り	13 詩を詠みタイトルを考える 漢字プリント学習	15 数学プリント学習	16 英語プリント学習
	卓球	中期予定の話し合い 社会見学・保育所訪問	卓球 調理実習メニュー相談	工作活動 ビーズ・看板作り
	19 敬老の日	20 詩を詠みタイトルを考える 漢字プリント学習 社会見学の話し合い 壁面飾り作り	22 数学プリント学習	23 秋分の日
	26 野菜の種まき キャッチボール	27 詩を詠みタイトルを考える 壁面飾り作り	29 調理実習 オムライス サラダ ワカメスープ	30 英語プリント学習 工作活動 カレンダー・小物入れ
	10月	3 調理実習メニュー相談 草抜き キャッチボール ドッジボール	4 社会見学 市立科学館 施設見学 プラネタリウム鑑賞	6 数学プリント学習
10 体育の日		11 詩を詠みタイトルを考える 漢字プリント学習 保育所へのプレゼント 作り	13 数学プリント学習	14 英語プリント学習 英語カルタ 創作活動小物作り フェルト・ビーズ
17 調理実習 クレープ		18 詩を詠みタイトルを考える タイトルから詩を作る 作った詩を作品に仕上 げる	20 数学プリント学習	21 英語学習 プリント・カルタ・歌 調理実習メニュー相談 アイロンビーズ
24 球根買い出し ドッジボール		25 秋の遠足 ハーベストの丘	27 数学プリント学習 卓球	28 英語プリント学習 カレンダー作り
31 ラディッシュ収穫 チューリップ植付け 卓球 レゴブロック		1 詩を詠みタイトルを考える タイトルから詩を作る 漢字プリント学習 体験学習の話 プレゼント作り	3 文化の日	4 調理実習 肉じゃが・味噌汁 ごはん・おひたし サラダ
11月		7 野菜種まき・収穫 卓球・自主活動	8 避難訓練 詩を詠みタイトルを考える 漢字プリント学習 プレゼント作り	10 数学プリント学習
	14 制作活動 フリートーキング	15 体験学習 磯路保育所訪問	17 数学プリント学習 卓球・ゲーム	18 英語プリント学習 クリスマスカード・リー ス・マスコット作り
	21 花の苗の購入・植付け 卓球・自主活動	22 漢字プリント学習 保育所訪問の感想 調理実習のメニュー相談 冬の壁面飾り作り	24 数学プリント学習 ウノ・卓球 フルーツバスケット	25 英語プリント学習 クリスマスリース作り
	28 野菜・花水遣り 七宝焼 七宝焼	29 調理実習 アップルパイ クッキー	1 数学プリント学習 卓球 カードゲーム	2 英語プリント学習 英語会話学習 楽器・ドレミの歌 ハンドベル演奏
	12月	5 七宝焼	6 詩を詠みタイトルを考える タイトルから詩を作る 漢字プリント学習	8 数学プリント学習
スポーツ活動		冬の壁面飾り作り パーティー準備	卓球 カードゲーム	リース作り 音楽実習
12 大掃除 フリートーキング		13 フリールーム パーティー 中期終了		

平成17年度フリールーム後期（1月～3月）の活動内容

	月	火	木	金
	総合(1)	国語	数学	英語
	スポーツ活動	総合(2)	スポーツ活動	表現創作活動
1月	16 大根の収穫 七宝焼の準備	17 四字熟語カード	19 数学プリント学習 数独	20 英語プリント学習 アルファベットカードゲーム
	スポーツ活動卓球	フリートーキング	カードゲーム 坊主めくり・ウノ	創作活動 ビーズ・リリアン
	23 陶芸七宝焼の形成	24 四字熟語カルタ 漢字プリント学習	26 数学プリント学習	27 英語プリント学習 英会話カルタ
	スポーツ活動 卓球	いろはカルタ作り	カードゲーム ウノ	創作活動 布で小物作り
	30 陶芸 七宝焼の形成 調理実習のメニュー 相談	31 いろはカルタ作り 壁面制作	2 数学プリント学習 スポーツ活動 卓球・ウノ	3 社会見学 相互音楽鑑賞
2月	6 フリータイム かるた作り	7 詩を詠みタイトルを考える 漢字プリント学習 いろはカルタ取り 壁面制作	9 フリートーキング	10 英語プリント学習 創作活動 ミシン・ビーズ
	13 調理実習のメニュー相談 七宝焼の形成 ドッジボール バスケットボール	14 詩を詠みタイトルを考える 漢字プリント学習 紙芝居作り 「きりなしうた」	16 数学プリント学習 フリートーキング ゲーム	17 英語プリント学習 しりとり 創作活動 紙芝居・縫い物・詩
	20 陶芸の仕上げ 太鼓作り バスケットボール ドッジボール	21 詩を詠みタイトルを考える 詩を作る	23 数学プリント学習 ドッジボール	24 ビデオ（ネバーエンディングストーリー）鑑賞 英語プリント学習 創作表現（個人課題）
	27 調理実習 オムライス・コーン スープ・フルーチェ マカロニサラダ	28 漢字プリント学習 ペディア学習 ポストカードでフリートーキング	2 数学プリント学習 ウノ・坊主めくり 卓球	3 ビデオ（ネバーエンディングストーリー）鑑賞 英語プリント学習 創作表現（個人課題）
	6 ラディッシュの収穫 プランターの草抜き ドッジボール バスケットボール	7 フリートーキング 大掃除 お茶会	9 フリールーム パーティー	10 終了式 茶話会
3月	13 陶器作り フリートーキング	14 フリートーキング アサーション 後期終了		

スクールカウンセラー活用事業

1. 事業の趣旨

いじめや校内暴力の問題、不登校や高校中退等の学校不適応など、学校教育をめぐる様々な問題の対応においては、子どもたちの心のケアが必要であり、学校におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることが重要な課題となっている。

このため、児童・生徒の臨床心理に関して専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を、学校という身近な場所に派遣し、直接子どもや保護者の相談に応じるとともに、生活指導上の問題について、教職員への助言・援助を行う。

2. 事業の経過

本市では、「こころひらく教育相談—スクールカウンセラーの設置—」事業として、平成8年度よりいじめや不登校等の問題の解決のために、スクールカウンセラー事業を始めた。平成9年度には24行政区に各1校、平成10年度には25校、そして、平成11・12年度は28校のセンター校を設けた。平成13年度からは文部科学省の補助事業として49校、平成14年度は68校、平成15年度は88校、平成16年度は107校の配置校を設置し、配置校を除く全中学校に巡回相談をするため、スクールカウンセラーを派遣してきた。そして、平成17年度には、129校全中学校を配置校にした。

3. 事業の概要

- (1) 平成17年度は129校の配置校を設置した。
- (2) 配置校では、週1日の来所相談を行い、区内の幼・小・中・高・養護教育諸学校を中心に、幼児・児童・生徒とその保護者、教職員を対象に相談・援助を行う。相談の受付は、電話予約による。(電話予約の受付時間は 9:30 ~ 18:30)

4. スクールカウンセラーの職務等

- (1) 資格：臨床心理士：延べ65名(週2日勤務)
- (2) 職務：区内の幼児・児童・生徒やその保護者、教職員を対象に、相談・援助を行う。
- (3) 配置方法：配置校での来所相談(週1日)を行う。
- (4) 勤務形態：週2日、全日勤務(8:30~ 17:15)とする。

5. スクールカウンセラーの選考等について

- (1) 財団法人日本臨床心理士資格認定協会の認定を受けた臨床心理士をスクールカウンセラーとして選考する。
- (2) 選考にあたっては大阪府臨床心理士会に登録された臨床心理士の中から推薦を受け、大阪市教育委員会が決定する。
- (3) また本市教育の発展に寄与し、多年にわたって教育的識見と教育力量を豊かに持ち、かつ児童・生徒の教育相談にあたった経験を持っている者をスクールカウンセラーとして採用する。
- (4) スクールカウンセラーは、週2日程度の全日勤務が可能な者とし1年毎に更新する。
- (5) スクールカウンセラーとして選考しようとする者に対しては、本事業の趣旨や職務内容について説明し、学校教育についての理解を得るため、事前の研修を行う。

7. 相談活動の概況

(1) スクールカウンセラーの活動内容

- ① カウンセリングルームなどでの児童生徒に対する個別カウンセリングのほか、休み時間の相談・声かけなど日常的な場面での相談活動。
- ② 教職員や保護者の指導上の悩みや不安に対し、臨床心理の専門家の立場からのコンサルテーションを実施するなどの助言・援助活動。
- ③ 教職員や保護者に対して、カウンセリング等により得られる児童生徒の悩みや不安の傾向・地域特性などについて、教職員と連携する中での情報提供等の活動。
- ④ 教職員を対象にした研修会等でのカウンセリングについての理解の促進。

(2) 配置校及び巡回相談校における相談実施状況

① 配置校

相談件数

年 度	相 談 件 数	校 種 別 相 談 件 数				相 談 内 容 別 件 数		
		小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	そ の 他	不 登 校	い じ め	そ の 他
平成14年度	1,283	163	1,054	62	4	495	59	729
平成15年度	1,830	246	1,527	52	5	594	85	1,151
平成16年度	2,034	278	1,662	92	2	719	74	1,241
平成17年度	2,138	332	1,726	79	1	716	80	1,342
	割合 100(%)	15.5	80.7	3.7	0.1	33.5	3.7	62.8

相談回数

年 度	相 談 回 数	相 談 者 別 回 数			相 談 内 容 別 回 数		
		児 童 生 徒	保 護 者	教 職 員	不 登 校	い じ め	そ の 他
平成14年度	10,998	5,827	3,539	1,632	5,397	417	5,184
平成15年度	14,462	7,976	4,155	2,331	6,496	408	7,558
平成16年度	15,378	7,887	5,064	2,427	7,428	476	7,474
平成17年度	18,065	9,408	6,057	2,600	8,626	315	9,124
	割合 100(%)	52.1	33.5	14.4	47.8	1.7	50.5

② 巡回相談校（平成16年度まで実施）

相談件数

年 度	相 談 件 数	相 談 内 容 別 件 数		
		不 登 校	い じ め	そ の 他
平成14年度	1,504	505	56	943
平成15年度	1,096	369	26	701
平成16年度	970	421	34	515
	割合 100(%)	43.4	3.5	53.1

※「その他」の相談内容は、友人関係、部活動での人間関係、進路の悩み勉強の悩み、親子関係の問題、子育て・しつけ、無断外泊、深夜徘徊、自傷行為、強迫神経症（強迫的）、拒食・過食症、対人恐怖症、家庭内暴力、学習障害（LD）、注意欠陥（多動）障害（ADD, ADHD）等。

相談回数

年 度	相 談 回 数	相 談 者 別 回 数			相 談 内 容 別 回 数		
		生 徒	保 護 者	教 職 員	不 登 校	い じ め	そ の 他
平成14年度	2,842	1,399	577	866	1,107	115	1,620
平成15年度	2,071	1,020	412	639	806	84	1,181
平成16年度	1,974	990	440	544	836	47	1,091
	割合 100(%)	50.1	22.3	27.6	42.3	2.4	55.3

8. 相談活動での成果

(1) カウンセリングでの効果

①児童・生徒側から

カウンセリングにおけるスクールカウンセラーの児童心理への専門性に裏打ちされた受容の態度によって、子どもたちの中に自己を理解してくれているという安心感が芽生え、その結果、自らを真摯に振り返り、自己解決しようと努力するようになる。また、第三者的存在であるスクールカウンセラーの方がリラックスして心情を訴えることができる。

②教職員側から

スクールカウンセラーがコンサルテーション（助言・援助・情報提供等）に関して専門性を有していることから、児童・生徒に対する指導の進め方について、教職員に適切な支援を行うことができる。教職員の子どもたちと接する際の意識が変わるとともに、一人一人が自信を持って指導にあたることができるようになる。また、教職員にとっても、同僚の教職員に話しにくいことでも、気軽に相談することができる。

③保護者側から

カウンセリングを受けることにより、子どもの問題行動等に対する心理学的側面からの理解と受容を深めることができ、その結果、心理的に余裕を持って対応できるようになる。さらに、保護者にとって、第三者的存在であるスクールカウンセラーからの助言の方が受け入れやすい場合もあり、スクールカウンセラーを介して家庭と学校との連携が円滑になり、その結果、保護者が学校に対する信頼を深めることができる。

(2) スクールカウンセラーの相談活動で効果（解決・改善）があった件数

下の表は、配置校（129校）のスクールカウンセラーから平成17年度末段階で報告された件数の合計をのせたものである。

	解 決			改 善			合計／全件数	割合%
	不登校	いじめ	その他	不登校	いじめ	その他		
合計件数	151	32	385	272	42	463	1,345／2,138	62.9
総 合 計	568			777				

(3) 効果のあった具体的内容

①不登校について

「登校できない、または断続登校の状態から、毎日登校できるようになった」

「全く登校できなかった子どもが、断続登校するようになった」

「担任と全く会わなかった子どもが、担任と会って話ができるようになった」

「保健室登校等、別室登校ができるようになった」

②いじめについて

「早期に生徒の不安を取り除くとともに、担任との関係をサポートし、学年及び個別での

対応を積極的にすすめた結果いじめの解決をみた」

「いじめがなくなり、友人関係が改善された」

「母親自身の中での不安が軽減され、対応の方針が見えてきた」

③「その他」の相談について

「担任へのコンサルテーションで、心身症や神経症等を有する生徒への対応や見通しができ、生徒への対応についての不安が緩和された」

(4) 「その他」(いじめ・不登校以外)の相談内容

問題行動(例:無断外泊、深夜徘徊等)、自傷行為、親子関係の問題、子育て・しつけ、親への反抗、進路の悩み、勉強の悩み、友人関係、部活動での人間関係、強迫神経症(強迫的)、拒食・過食症、対人恐怖症、家庭内暴力、学習障害(LD)、注意欠陥多動障害(ADHD)など。

9. スクールカウンセラーの研修会

スクールカウンセラーの資質向上の目的で事例研究を中心に、以下のような研修を実施した。

日 時	研修会の内容及び講師等
4月11日(月) 15:00～17:00	連絡協議会 第1部:委嘱式 第2部:研修会(人権教育について、事務連絡等)
5月20日(金) 18:00～20:00	研修会 事例研究等(スーパーヴァイザー 倉光 修先生)
6月17日(金) 18:00～20:00	研修会 事例研究等(スーパーヴァイザー 藤原勝紀先生)
7月8日(金) 18:00～20:00	研修会 事例研究等(スーパーヴァイザー 倉光 修先生)
9月16日(金) 18:00～20:00	研修会 事例研究等(スーパーヴァイザー 藤原勝紀先生)
10月21日(金) 18:00～20:00	研修会 事例研究等(スーパーヴァイザー 倉光 修先生)
11月11日(金) 18:00～20:00	研修会 事例研究等(スーパーヴァイザー 藤原勝紀先生)
12月16日(金) 18:00～20:00	研修会 事例研究等(スーパーヴァイザー 倉光 修先生)
1月13日(金) 18:00～20:00	研修会 事例研究等(スーパーヴァイザー 藤原勝紀先生)

メンタルリーダー訪問援助事業

1. 事業の経過

本市では平成8年度より、いじめ・不登校等の問題の解決のために、スクールカウンセラー派遣事業を実施し、平成9年度には24行政区に各1校、平成10年度には25校、平成11年度からは合計28校のスクールカウンセラー・センター校を設けた。平成13年度は国の補助事業として合計49校、平成14年度は68校、平成15年度は88校、平成16年度は107校の配置校を設置し、平成17年度には129校全中学校に、スクールカウンセラーを派遣してきている。

しかし、不登校の実態を見ると、家庭に閉じこもっている児童・生徒は、カウンセラーに会うことができないままになっている。このため、平成10年度よりスクールカウンセラー事業を補完し、このような「閉じこもり」状態の不登校の児童・生徒を対象に、「メンタルリーダー訪問援助事業」を実施してきている。

2. 事業の目的

メンタルリーダーが家庭訪問を実施して「閉じこもり」状態の児童・生徒の「心の友」となり、児童・生徒が抱えているこだわりや悩みを和らげ、失っている自由さや意欲・気力を回復させるためのかかわりをするを役割とする。このことによって児童・生徒がスクールカウンセラーに会えるようになったり、登校できるまでの元気を取り戻すことができることを目的とする。

3. 事業の概要

- (1) メンタルリーダーの活動は大学生または大学院生のボランティア活動とする。
- (2) メンタルリーダーは「閉じこもり」状態の不登校児童・生徒を対象に、保護者の了解を得て週1回程度家庭訪問を行う。
- (3) 教育相談室はメンタルリーダーの報告を受け、児童・生徒の状況を判断して、指導部担当指導主事とも連携しながら学校やカウンセラーとの連絡・調整を図る。

4. 実施手順と留意事項

- (1) 学校が、保護者並びに児童・生徒と十分に相談したうえで、教育センター教育相談室に派遣要請をする。
- (2) 派遣要請の後、教育相談室で十分に検討し、必要な情報の提供を学校に依頼する場合もある。
- (3) 学校は派遣実施にあたり、連絡窓口の担当者を決め家庭との連絡・調整を行う。

5. メンタルリーダーの登録、研修、配置等

- (1) 選考・登録は応募書類と面接により、教育委員会が行う。
- (2) 訪問援助活動に入るまでに、「閉じこもり」型不登校等について事前研修を行う。
- (3) 教育相談室で対象児童・生徒の状況を判断して、メンタルリーダーとの組み合わせを決定する。

※ 「閉じこもり」とは、子ども自身に登校する意志や気持ちがありながら、家から外へ出にくくなり担任等の家庭訪問に対しても会うことができないといった状態をいう。

6. メンタルリーダーの募集と研修

(1) 募集・登録

4月初旬、2大学（大阪教育大学、大阪市立大学）の協力を得て募集を行った結果、登録してもらった大学生・院生は男8、女20の計28名だった。

(2) メンタルリーダーの研修

メンタルリーダーの研修会について、今年度は以下のように実施した。

<事前研修会>

- ・平成17年5月9日（月）・10（火）・11（水）・13（金）14:00~17:00
- ・平成17年5月26日（木）14:00~17:00

<個別研修会>

訪問援助活動がスタートした場合、2～3ヵ月に1回定期的にスーパーバイザーからの指導や助言を受けるメンタルリーダー個別研修を実施している。

7. 訪問開始後の子どもの変化について

それぞれのメンタルリーダーが訪問を開始した後、子どもと関係を築き上げていく過程で、子どもの心のエネルギーの階段に沿って、その変化の様子の一般的なものをあげてみると次のようになる。

(1) 【レディネス期】

メンタルリーダーと会えるようになる。

(2) 【安定期】

情緒的に安定し、メンタルリーダーとの関係が深まる。

(3) 【主体性の芽生え期】

自分のしたいことやしなければならないことを決定したり考えたりしはじめる。

(4) 【チャレンジ期】

辛いことや困難なことに実際取り組みはじめる。

(5) 【再登校期】

学校行事など、自分の外出しやすい日や時間帯には登校できるようになる。また、ほぼ毎日か断続的に登校できるようになる。

8. メンタルリーダーを派遣した児童生徒の内訳

4月18日付けで、本市小学校・中学校・養護教育諸学校の校長宛に、「メンタルリーダー訪問援助事業 実施要項」（申し込み手順等）を配付した。その後、学校長からの申し込み（前年度からの継続も再申し込み）をもとに、5月から派遣を開始した。申し込みがあり、実際に派遣した件数は、下表のように小学校が9件、中学校が19件の計28件であった。

派遣を実施児童生徒の内訳一覧表

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男	0	0	1	0	1	1	1	4	5	13
女	0	0	0	1	1	4	1	6	2	15
計	0	0	1	1	2	5	2	10	7	28

電話教育相談

1 電話教育相談の基本的な考え方

本市の学校教育指針・人権教育基本方針・同和教育基本方針の主旨を基底とし、次の事項を重視して相談にあたる。

- ア. 電話をしてくる相談者の気持ちを十分受け止め、受容し、共感することを相談・助言の出発とする。
- イ. 「人間の尊厳（人権・生命）」にかかわる悩みの相談は、特に厳しく受け止める。
- ウ. 相談にあたっては、個人の秘密を守ることを基本とする。
- エ. 相談の過程で、相談者との信頼関係が十分につくれるように努める。
- オ. 相談者である保護者は、時として自分を客観視できにくい場合がある。そのため、保護者は、子どもの自立を促す配慮が不足したり、過干渉になったりすることがあるので、そのことをふまえて相談・助言にあたる。
- カ. 本人の立ち上がりによって、自ら解決させるようにし、さらに他の人を受容することの大切さも助言する。
- キ. 相談の内容によっては、他の専門機関を紹介し、必要に応じて関係機関とも緊密な連携を図る。
- ク. 電話相談で受け付けた相談について、内容別に分類・整理し、今後の支援や助言にいかす。

2. 電話教育相談の概要――相談の内容と傾向――

今年度の相談の内容は、昨年度に引き続き、どの校種においても「交友関係の悩み」「学校・教員への苦情」が上位をしめている。子ども・保護者それぞれに、級友・担任等との関係のとりかたに悩んでいる姿が現れている。それに加えて、学校関係者の誠意ある対応が、保護者に伝わっていない現状が認められる。学校での指導等をそのつど保護者に伝えるなど、丁寧な対応がより一層求められる。

小学生に関する相談では、子ども同士のトラブルやそれに付随しての親同士の揉め事、また学習内容が理解できない子どもへの対応に、教員の問題解決能力・指導力不足への指摘が多く見られる。

中学生に関する相談は、小学校同様、教師の指導力の不足、進路に関する不満等担任と生徒、担任と保護者の信頼関係の希薄があげられる。また、不登校の対応については、学校関係者とスクールカウンセラーとのより一層の協力が求められる。

高等学校では、例年と変わらず不登校と進路指導が上位をしめている。その中でも目立つのは、私学での生徒指導・進路指導にたいする学校関係者の対応への不満である。

子ども等からの相談は、交友関係への悩みが半数近くを占めている。「先生が相談に乗ってくれない」「親がなにもししてくれない」「友達がいじめられているが、何もしてあげられない」等、教員・保護者が子どもの悩みのサインに気づいていない時に、思い悩んだ末、電話相談に救いを求めてくる場合が多いようである。

電話教育相談件数総括表（平成 17 年度）

種 別	1 心理的傾向		2 学習・成長		3 性格・行動		4 問 題 行 動				5 環 境 的 要 因			6 就 学 ・ 進 路		7 他		小 計	合 計	
	ア 発病 達 障 害弱	イ 容情 姿 身 体緒	ウ 習自 立 慣心	エ 学学 力習	オ 神気 経 症力	カ 性悩 の み ・ 問 く 題せ	キ 問 題 行 動	ク 粗 暴 行 為	ケ 不 登 校	コ い じ め	サ 交 友 ・ 集 団	シ 家 身 庭の ・上 地相 域談	ス 学へ 校の ・教 員情	セ 進 路 指 導	ソ 本 人 ・ 家 族	タ 提 問 い 合 わ せ	小			合
就学前	男	1										1	1		10	13	35			
	女	2			1				1		1		1		16	22				
小 学 校	1	男	1	16	5	3		3		2	1	11	2	8	1	10	63	128		
		女	1	1	7		2		1	9	3	11	6	12		12	65			
	2	男	3		6	3	1		2		1	1	6	2	11		6	42	95	
		女			4	7			1		7	2	3	4	13		12	53		
	3	男	3	1	6		2		1	1	5	7	2	10			8	46	93	
		女		1	2		1		1		2	4	13	5	6		1	11		47
	4	男	1		5	7			1	1		6	8	4	14		2	5	54	103
		女	2	1	3	4			7		2	4	10	3	3		10	49		
	5	男		1	3	1	1		2	2	4	3	9	1	14		1	13	55	116
		女	1	2	3	4			1	2	3	20	5	10	2		8	61		
	6	男	1		2	1	2		1	2	4	10	16	2	20	3	12	76	105	
		女			1	1			1	1	1	1	6	2	7		8	29		
中 学 校	1	男	1		2	4	2	3	2		5	4	4	5	12		1	5	53	133
		女	1	1	1	9	2		3	1	5	11	14	8	12	2	1	9	80	
	2	男	1	2	4	2		2	7	1	8	4	6	4	11	3	2	18	75	125
		女		1	1	1			1	1	7	2	8		10	1		17	50	
	3	男		1			1		2		6		3	3	3	6		15	40	75
		女		1	4				3	1	9		3	3	1	1		9	35	
高 学 校	1	男		1		2	3	3	2		2		1	10	5	5	3	14	51	82
		女			1	1			2	1	7		5		1	3	1	9	31	
	2	男		2	1		3	2	3	1	2	3	2		1	5		19	44	83
		女		1	3			1	4		3	1	1	8	2	4	1	10	39	
	3	男							3		1	1		3	3	1	2	13	27	39
		女			1				1				1	1		1		7	12	
成 人	男	1											1	1		18	21	31		
	女															9	10			
合 計		20	17	76	53	23	11	52	15	91	69	169	84	191	41	15	316	1243	1243	

研 修

1 教育相談

(1) カウンセリングの基本

新任教員に「カウンセリングの基本」に関する講義と演習を行うことにより、幼児・児童・生徒理解と指導に役立つ基本的な考え・方法を習得させ、実践的指導力の深化に資する目的でこの研修会を実施した。

日	時 間	内 容
7月21日 (木) 及び 7月22日 (金)	9時30分～ 10時20分～12時 15時45分	オリエンテーション ガイダンス 「大阪市が行う教育相談事業について」 教育相談室長 谷坂 昇 講義「カウンセリングの基本」 大阪市立五条小学校長 西林幸三郎 施設見学

(2) カウンセリング研修講座①～③

教職員が事例研究や演習、研究協議等を通じて、カウンセリングや心理療法等についての基礎的、基本的な知識や技法を学び、子ども理解の深化と実践的指導力の向上を図る目的で、このカウンセリング研修講座（3回）を実施した。

No	日	時 間	内 容
①	7月28日 (木)	10時～12時	オリエンテーション、 講義「教育活動におけるカウンセリングの心」
		13時～16時	演習1（箱庭療法・描画療法・コラージュ）
②	7月29日 (金)	10時～12時	事例報告、研究協議
		13時30分～16時30分	演習2（カウンセリングのロールプレイング）
③	8月1日 (月)	10時～12時	講演「現代における心のエコロジーについて」 大谷大学専任講師 廣瀬幸市
		13時30分～15時30分	研究相談（研究相談申し込みの方のみ）

(3) いじめ・「不登校」等研修会①・②

不登校等の児童生徒への理解と対応についての研修を深め、教職員の指導力の向上に資する目的でこの研修会を実施した。

No	日	時 間	内 容
①	9月6日 (火)	15時30分～17時	講話「適応指導教室について」 教育相談室 主任指導主事 坂部俊次 実践報告「子どもたちの『出会い』と『つながり』を サポートすること」 適応指導教室指導員 大谷眞砂子 佐藤澄子
②	11月14日 (月)	15時30分～17時	講演「いじめ・不登校等の子ども理解と対応について」 － スクールカウンセラーの立場から － 大阪市スクールカウンセラー 中道泰子

(4) 研究協力委員会の研修会

当室では、教育相談の研究に関わって、学校現場の教職員の方々を協力委員として募集し、研究協力委員会を組織している。平成17年度の研究協力委員会では、教育相談の研究及び普及という目的で下表のような研修会を実施した。

No	日	時 間	内 容
①	6月8日	15時30分～17時	研究協力委員会総会 研究協力委員の委嘱 教育相談の現状と課題についての説明 今年度の研究協力委員会の運営についての説明 自己紹介（意見交換）
②	7月12日	14時～16時	講演「軽度発達障害の理解と対応について」 大阪人間科学大学教授 服部祥子
③	8月30日	14時30分～16時	グループ研究（事例研究）
④	11月28日	15時30分～17時	センター事例研究
⑤	1月20日	15時30分～17時	グループ研究（事例研究）

(5) 研究・研修

教育相談活動は、相談員の深い人間理解が必要である。相談員は、厳しく自己の人間理解の目を磨き、相談の力量をつけることが要請される。また、教育相談活動から子ども理解や指導のあり方について様々な知見を学ぶことができる。学んだ知見を各相談員の資質の向上に生かし、相談の力量を高めるため、相談員研修と事例会議を実施している。

①相談員研修

月 日	研 修 テ ー マ	月 日	研 修 テ ー マ
5月6日	カウンセリング理論	5月27日	カウンセリングロールプレイ
6月3日	箱庭療法	6月24日	遊戯療法
10月7日	コラージュ療法	11月11日	描画療法
12月2日	心理テスト1（発達検査）	1月20日	相互色塗りとスキュグル
2月24日	フォーカシング	3月17日	ワークショップ

②事例会議

相談内容及び経過について検討し、個々の事例について考察を深めるとともに、効果的な相談のあり方についての共通理解を図ってきた。平成17年度は8回実施した。

2 養護教育相談

(1) 研修講座

管理職研修、教員基本研修、課題・分掌等研修の内、養護教育に関する研修会を以下のとおり実施した。平成17年度の養護教育に関する研修講座は8種類35回である。内容は養護教育の現状を踏まえた上で、今後学校園に求められる障害のある子どもへの理解、支援システム、支援方法等を企画した。

	研 修 名	日 時	内 容
1	校園長課題別研修会(1) (養護教育)	6月30日(木)	「特別支援教育-個々のニーズに応じた支援」 国立特殊教育総合研究所総括主任研究官 藤本裕人
2	教頭・幼稚園主任課題別 研修会(2)(養護教育)	7月8日(金) 10:00~12:00	「校内の支援体制を考える」 愛媛大学教育学部教授 花熊暁
3	養護学級新担任研修会	5月6日(金) 15:00~17:00	「養護学級経営の基本的理解」 教育委員会・教育センター指導主事
4	養護教育実践講座 「個別の指導計画」(1)	6月27日(月) 15:00~17:00	「個別の指導計画の作成(1)」 兵庫教育大学講師 井澤信三
5	養護教育実践講座 「個別の指導計画」(2)	8月22日(月) 10:00~17:00	「個別の指導計画の作成(2)~(3)」 兵庫教育大学講師 井澤信三
6	養護教育実践講座 「個別の指導計画」(3)	8月23日(火) 10:00~17:00	梅香中学校教諭 西野謙三 住之江養護学校教諭 富田淳 五条小学校教諭 白樫光徳 教育センター 指導主事・研究官・所員
7	養護教育実践講座 「個別の指導計画」(4)	11月7日(月) 15:00~17:00	「個別の指導計画の作成(4)」 兵庫教育大学講師 井澤信三
8	養護教育実践講座「気になる子どもの行動の理解と支援」(1)(2)	8月18日(木) 10:00~17:00	「自閉症・高機能自閉症の理解と指導-気になる行動の理解と支援-」 兵庫教育大学助教授 井上雅彦
9		8月19日(金) 10:00~17:00	
10	養護教育実践講座 「ADHD」	7月25日(月) 13:30~15:30	「ADHDの理解と支援」 兵庫県立のじぎく養護学校教諭 梶正義
11	養護教育実践講座「LD」 (1)	7月26日(火) 10:00~12:00	「LD概論-子どもの示すつまずきを考える-」 高槻市立高槻小学校通級指導教室教諭 植村美栄子

	研 修 名	日 時	内 容
12	養護教育実践講座「LD」	7月26日（火） 13:15～15:30	「LD及びその周辺の子どもたちへの指導の実際」 通級指導教室 長居小学校教諭 中山秀雄 九条東小学校教諭 山口敬子 南小学校教諭 上村堅一
13	養護教育実践講座「軽度 発達障害のソーシャルス キル」	9月7日（水） 15:00～17:00	「高機能自閉症・アスペルガーの子どものソー シャルスキルトレーニング」 アルクラブ統括ディレクター 高橋和子
14	養護教育専門講座 「アセスメント」(1)	8月2日（火） 10:00～17:00	「子どもの実態把握-アセスメント-」 教育センター 指導主事・研究官・所員
15	養護教育専門講座 「アセスメント」(2)	8月3日（水） 10:00～17:00	
16	養護教育専門講座 「個別の指導計画」(1)	8月22日（月） 10:00～17:00	「個別の指導計画の作成(1)～(2)」 兵庫教育大学講師 井澤信三 梅香中学校教諭 西野謙三 住之江養護学校教諭 富田淳 五条小学校教諭 白樫光徳 教育センター 指導主事・研究官・所員
17	養護教育専門講座 「個別の指導計画」(2)	8月23日（火） 10:00～17:00	
18	養護教育専門講座 「気になる子どもの行動 の評価と支援」	9月14日(水) 15:00～17:00	「気になる行動の評価と支援」 茨木養護学校教諭 槇場政晴
19	養護教育専門講座 「他機関との連携」	10月21日(金) 15:00～17:00	「他機関との連携、コーディネーターの役割」 高槻養護学校教諭 閑喜美史
20	養護教育専門講座 「事例研究」	1月19日（木） 15:00～17:00	「事例研究」 教育センター 指導主事
21	養護教育諸学校寄宿舍指 導員研修会	8月29日（月） 15:00～17:00	「文部科学省寄宿舍指導員講習会伝達」 聾学校寄宿舍指導員 講演「障害のある児童生徒の寄宿舍における指導 について」 五条小学校校長 西林幸三郎
22	養護教育基礎研修会 (1)～(5)	6月7日(火) 15:00～17:00	視覚障害教育 「視覚障害教育について」「点字指導」 「歩行訓練」 盲学校教員
23		6月24日（金） 15:00～17:00	聴覚障害教育 「小学部の教科指導」「中学部の教科指導」 「聴覚障害の基礎的理解」 聾学校教員

	研 修 名	日 時	内 容
24	養護教育基礎研修会 (1)~(5)	7月5日(火) 15:00~17:00	知的障害教育「知的障害のある子どもの理解と支援」「特別支援教育－教育相談活動から－」 思斉養護学校・住之江養護学校教員
25		9月13日(火) 15:00~17:00	肢体不自由教育「医療的ケア・自立活動・進路指導について」 光陽養護学校・西淀川養護学校教員
26		10月25日(火) 15:00~17:00	病弱教育「自立活動」「寄宿舍教育」 貝塚養護学校教員・寄宿舍指導員
27	養護教育諸学校新任教員 研修会(1)~(9)	6月7日(火) 15:00~17:00	視覚障害教育 「視覚障害教育について」 「点字指導」「歩行訓練」 盲学校教員
28		6月24日(金) 15:00~17:00	聴覚障害教育 「小学部の教科指導」「中学部の教科指導」 「聴覚障害の基礎的理解」 聾学校教員
29		7月5日(火) 15:00~17:00	知的障害教育「知的障害のある子どもの理解と支援」「特別支援教育－教育相談活動から－」 思斉養護学校・住之江養護学校教員
30		9月13日(火) 15:00~17:00	肢体不自由教育「医療的ケア・自立活動・進路指導について」 光陽養護学校・西淀川養護学校教員
31		10月25日(火) 15:00~17:00	病弱教育「自立活動」「寄宿舍教育」 貝塚養護学校教員・寄宿舍指導員
32		10月7日(金) 9:30~12:45	授業研究「肢体不自由教育」 光陽養護学校新任教員
33		11月1日(火) 14:30~17:00	授業研究「病弱教育」 貝塚養護学校新任教員
34		1月27日(金) 13:15~17:00	授業研究「知的障害教育」 難波養護学校新任教員
35		1月31日(火) 9:15~12:00	授業研究「視覚障害教育」 盲学校新任教員

3 学校園等への派遣

教育相談室の業務には、各校園等から研修会や研究会等への講演や指導助言等の要請がある。教育相談及び養護教育相談の平成17年度の状況について次に記す。

(1) 教育相談

研修会や講演会の講師依頼の9件の内訳は、各校園から2件、地域諸団体・PTAから3件、校長会・教育研究会から1件、市役所相談業務関係から1件、大学関係から2件であった。

校園関係では、子ども理解・不登校などに焦点を絞ったテーマが多かった。地域諸団体・PTA関係では、「親子関係」「地域と子ども」など健全育成が主なテーマであった。

大学関係は、大阪市と関係大学の連携事業として、大阪教育大学で「生徒指導と心理学」、大阪市立大学で「教育相談の役割」のテーマで講義をした。

(2) 養護教育相談

校園等からの講演依頼や指導助言の要請等は33件あった。(昨年度より14件増)

1) 校園種別毎の派遣先(図1)

小学校関係(研究会を含む)が約3分の1弱で、次いで中学校、養護教育諸学校である。昨年度0であった中学校からの要請の増加がみられる。その他は養護教育関係の研究機関や児童相談所等であった。

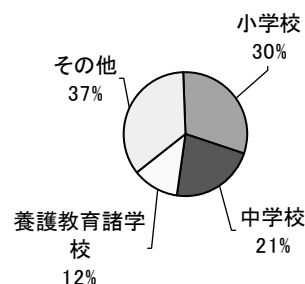


図1 校園種別毎の派遣先

2) 要請の形態及び内容(図2、図3)

要請の形態を分類すると、講義形式が約91%、研究発表・実践報告等への指導助言の要請が9%であった。講義形式での要請の中で、演習、実習を取り入れるものが増加している。

講義形式の要請の主たる内容は、特別支援教育に関するものが8件、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)等に関する障害の理解や指導に関するものが13件、WISC-III等心理検査に関するものが3件、その他生活単元学習や養護教育全般にわたる指導内容や指導方法に関するものが9件であった。また、検査法に関する講義要請は養護学校等からであった。

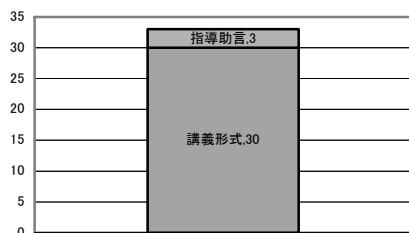


図2 要請の形態

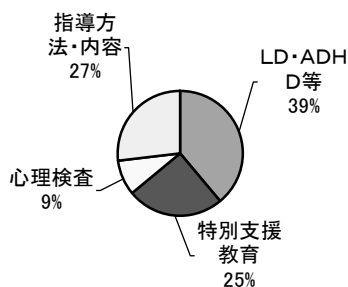


図3 講義要請の内容

養護教育に関する研修「養護教育専門講座」

—受講者評価と企画者評価から研修を考える—

養護教育相談 森田 雅子

1 はじめに

平成15年3月、文部科学省調査研究協力者会議による「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」において、従来の「特殊教育」の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めて障害のある児童・生徒の教育的ニーズを把握し、必要な支援を行うこと、そのためには障害のある子どもについて「個別の教育支援計画」を策定していくこと、そして、盲・聾・養護学校は障害種別にとられない特別支援学校、地域の特別支援教育のセンター的役割を担う学校として機能していくこと等の特別支援教育の枠組みが示された。

平成17年12月に、中央教育審議会で検討されてきた「特別支援教育を進めるための制度の在り方について（答申）」が出された。これを受けて学校教育法等の一部を改正する法律案が文部科学省から国会に提出され、平成19年4月1日に制度上の特別支援教育体制が整うと言われている。

一方、平成17年4月に発達障害者支援法が施行された。この法律においては、発達障害が「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害」と定義された。また、発達障害発現後のできるだけ早期からの支援が国及び地方公共団体の責務とされ、学校教育においても発達障害児（18歳以上の発達障害者であって高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在学する者を含む。）の障害の状態に応じ、適切な教育的支援を行うことが義務付けられた。

以上の様な障害のある児童・生徒の教育をめぐる諸情勢の変化等を踏まえ、今後の大阪市の特別支援教育の在り方を見据えた組織的、計画的な研修が求められている。

教育相談室養護教育相談では、市内の校園対象に養護教育に関する研修会を企画・実施しており、平成17年度は8種35回の研修会を実施した（P.26参照）。

研修会終了後、研修の充実発展を図るため受講者の研修評価、研修に対するニーズをアンケートで把握してきた。今年度実施した35回の研修の中から、今後の特別支援教育推進のための地域のセンター校的役割を果たす教員の資質向上をめざした「養護教育専門講座(1)～(7)」について、受講者の研修に対する評価を整理するとともに、研修目的等からこの研修の総括を企画者側の研修評価としてまとめて報告する。

2 養護教育専門講座

(1) 目的

障害のある児童・生徒のニーズに応じた支援を行えるよう、受講者の専門性の向上を図る。

障害のある児童・生徒のアセスメントの演習を行い、それをもとに個別の指導計画を作成する。また、校内の支援体制を構築するうえで、コーディネーターとしてのスキルについて研修する。

(2) 対象

大阪市立盲・聾・養護学校各校2名の教員、小学校通級指導教室担当教員を対象とし、受講申し込みのあった盲・聾・養護学校教員19名、小学校通級指導教室担当教員6名の計25名で研修を実施した。

(3) 内容

この研修会は7回連続受講を原則とし(表1)、研修内容として障害のある子どもの支援を行うため「アセスメントする力」「個別の指導計画を作成する力」「コーディネートする力」をキーワードとした。大阪市立盲・聾・養護学校では地域の校園を支援する取組みが始まっている。また、通級指導教室は他校から通級する児童・生徒の指導をしている。そういう現状から、各受講者が所属校で担当している子どもの障害や指導について限定した内容の専門性を高める研修ではなく、今後地域支援として様々な相談等を受ける時に必要と思われるスキルを研修内容とした。

表1 養護教育専門講座(1)～(7)の内容

回	専門講座 研修名	日時	内容	講師
1	「アセスメント」 (1)	8月2日(火) 10:00～17:00	講義「アセスメントとは」 「WISC-Ⅲについて」	教育センター 指導主事 研究官 所員
2	「アセスメント」 (2)	8月3日(水) 10:00～17:00	演習「WISC-Ⅲを中心に」 実施方法 分析 解釈	
3	「個別の指導計画」 (1)	8月22日(月) 10:00～17:00	演習「個別の指導計画の作成」 グループで一人の事例につ いての個別の指導計画を作 成する。	兵庫教育大学講師 井澤信三 梅香中学校教諭、住之江養護学校 教諭、五条小学校教諭、教育セン ター指導主事・研究官・所員
4	「個別の指導計画」 (2)	8月23日(火) 10:00～17:00		
5	「気になる子どもの 行動の評価と支援」	9月14日(水) 15:00～17:00	講義「気になる子どもの行動の 評価と支援」 行動の評価、ストラテジーシート ソーシャルストーリー 視機能の評価	茨木養護学校教諭 槇場政晴
6	「他機関との連携」	10月21日(金) 15:00～17:00	講義「府立養護学校のコーディネーターとして」 役割、 情報交換	高槻養護学校教諭 閑喜美史
7	「事例研究」	1月19日(木) 15:00～17:00	演習「事例研究の進め方」 校内で支援を考えるための 会議の進め方	教育センター 指導主事

3 研修の評価

研修の評価について、受講者から見た評価と、研修企画者から見た評価を整理する。受講者からの評価はアンケートの記入内容からまとめた。一方、研修企画者の評価の観点は表2とし、出席状況、研修内容、理解度、各研修会後の受講者アンケート(6回目は時間の関係で未実施)を合わせて考えた。

表2 養護教育専門講座(1)～(7)の評価の観点

回	評価の観点
1	(a) アセスメントの意義・必要性、方法について理解できたか。
2	(b) WISC-Ⅲの実施方法、結果の分析、解釈の仕方が理解できたか。
3	(c) 個別の指導計画作成のプロセスを理解できたか。
4	(d) 一人の子どもの事例でグループミーティングをし、個別の指導計画を作成できたか。
5	(e) 子どもの示している行動について、評価方法、支援方法について研修できたか。
6	(f) 地域の学校園をどのように支援していくのか、コーディネーターの役割について考えることができたか。
7	(h) 事例研究会の進め方が理解できたか。

(1) 受講者からの研修評価

事前アンケートと最終アンケートを整理し、受講者からの評価とする。

①事前アンケートから

ア 心理検査実施経験

事前に受講者から、心理検査経験の有無とこの専門講座への希望を聴取した。心理検査の実施経験がない受講者は25名中12名、実施経験者は13名であり、そのうちWISC-Ⅲ実施経験者は9名(検査結果を詳細に考察するプロフィール分析までの経験があるのは5名)であった。

イ 専門講座への希望

記述されていた講座への希望をまとめたのが表3である(複数回答あり)。アセスメント(検査、面接、観察等の方法で子どもに関する情報を収集し分析するプロセス)、心理検査について知りたいという希望が9名と多かった。またアセスメントを個別の指導計画にどのように活かしていくのかについて具体的に研修したいという希望が4名あった。そして、現在担当している子どもについての指導方法、教材、教具があれば知りたいという希望も2名あった。その他に「子どもに直接指導するのではなく、指導する先生にアドバイスする時の配慮や工夫が知りたい」「通常の学級担任や保護者への具体的な説明の仕方等を研修したい」「関係機関の連携については個人情報の問題もあり難しい面を感じる。この点についても研修を深めたい」等のコンサルテーションに関する希望も見られた。

表3 専門講座への希望

アセスメント、心理検査について	9名
個別の指導計画の具体例について	4名
コンサルテーションについて	3名
指導方法、教材、教具について	2名

以上の事前アンケートから、心理検査経験が少なく、それについて研修したいという受講者が多いことがわかった。

②最終アンケートから

7回の研修会最終日にこの養護教育専門講座についてアンケートを実施した。7回の研修会で、受講者が「よかった研修」「よくなかった研修」「あればよかった研修」と回答したものとその理由をまとめたのが表4である（複数回答あり）。

表 4 7回の研修内容についての受講者の記述

よ か っ た 研 修 内 容	<p>アセスメント 11名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要不可欠なので何度うけても勉強になる。 ・解釈については多くを聞くことがよい。 ・初めてであったが実施・分析・結果から検査の大切さを認識できた。 ・校内でどうつなげていけるかが課題であるが、少しずつ広げて行きたい。 ・アセスメントの意義と重要性について学べた。 ・WISC-Ⅲ演習がよかった。毎年してほしい。 ・具体的に児童を客観的に見ることができる手法を学べた。 ・非常に役立った。他で受けたこともあるがこの研修が一番よかった。 ・検査をすることはほとんどなかった。最近検査にかかる生徒も何人か入学してきているので軽度の生徒の指導に役立てたい
	<p>個別の指導計画 5名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場に直接つながる内容だったから。 ・本校の今後の個別の指導計画のあり方や今後の特別支援計画につなげていける。 ・しんどかったけど実際の指導計画を書く上で役立った。 ・アセスメントで学んだ内容を生かして具体的に個別の指導計画の作成について知ることができた。 ・時間がたつのを忘れるくらい。他の校種の人と話し合うのは得られるものが多い。 ・演習が多く自分で考えるという状況に追い込まれ、座って聞くよりも身についたような気がする。報告者になったことは日々の指導を整理でき、自分にとって大変よかった。グループでの話し合いもよかった。
	<p>事例研究 3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在相談されている問題を考えていく方法の手がかりになった。 ・行動の理由を考え対応を検討していくという方法が少しわかった。
	<p>他機関との連携 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の実際がわかった。 ・コーディネーターとしてのスキルの違いを失礼ながら講師と比較し、よい意味で刺激を受けられた。
	<p>気になる子どもの行動の評価 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視知覚トレーニングについて初めて知った。 ・具体的でわかりやすかった。
	<p>その他 2名 ・それぞれよかった。</p>

<p>よくなかった研修内容</p>	<p>個別の指導計画 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任をしていないので書きにくかった。 ・書き方について理解が深まらなかった。 <p>他機関との連携 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像していた内容とすこし違った。 <p>気になる子どもの行動の評価 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマと内容が合っていなかった。 <p>アセスメント 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくなかったというのではないが、受講者の経験が違うので研修計画を進めていくのが難しいと感じた。
<p>あればよかった研修内容</p>	<p>アセスメントに関する研修 6名 ・新版K式発達検査、K-ABC、PEP-R等</p> <p>その他 8名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みが進んでいる学校の様子を知りたい。 ・卒業後、地域でどう支援しているか現在の状況について。 ・特別支援教育・校内委員会の持ち方や進め方、保護者への対応・聴取方法、支援について一緒に考える時の注意点等。 ・保護者から相談をうけた時の担任の受容と対処について。 ・今日のような事例研究がもっとあればよい。・今回のような参加・演習型のものを多くして欲しい。 ・通常の学級での軽度発達障害児への支援（模擬授業など）。 ・通常の学級における指導時の問題点と解決方法（個別対応と学級内対応の両面）。

よかった研修内容としては11名が「アセスメント」をあげており、『何度も受けたい』『毎年してほしい』『非常に役立った』等、記述している。次に5名が「個別の指導計画」をあげており、『学校ですぐつなげることのできる内容』『他の校種の人と話し合うのは得られるものが多い』等という記述があった。少数ではあるが「事例研究」「他機関との連携」「気になる子どもの行動の評価」もあげられている。また、2名が『どの研修もそれぞれよかった』と記述している。

よくなかった研修としての記述からそれぞれ受講者のイメージとちがっていたということが読み取れる。2名から「個別の指導計画」があげられ、『担任をしていないので書きにくかった』『書き方について深まらなかった』との記述があった。また、「他機関との連携」が1名、「気になる子どもの行動の評価」が1名であった。「アセスメント」については、『受講者の経験が違うので進めていくのが難しいと感じた』という記述があった。

あればよかったという内容として、6名が「アセスメントに関する内容」をあげている。『WISC-Ⅲをさらに深めたい』『他の検査（例えば新版K式発達検査やK-ABC等）を研修したい』という記述があり、検査法へのニーズが高いことがわかった。また、その他具体的な事例研究、問題の解決方法、校内委員会の持ち方や進め方、保護者から相談を受けたときの対応等の記述から、受講者にとってコーディネーターの役割、校内の支援体制の構築が課題になっていると思われた。

(2) 研修企画者の研修評価

① 出席状況から

養護教育専門講座(1)～(4)の「アセスメント」「個別の指導計画」は演習中心にそれぞれ全日（6時間）で4日間実施した。(5)～(7)は2時間の研修を3日間とした。研修はできるだけ参加しやすい日程を考え、7回のうち(1)～(4)は夏季休業中に、(5)～(7)を業中（9・10・11月）に実施した。出席状況は表5のとおりである。7回連続受講で申し込みを取ったが、校務の関係等で全出席者は半数以下という状況であった。

表5 出席状況

出席日数	人数
7(回)	9(人)
6	8
5	4
4	5

② 評価の観点(表2)から

ア「アセスメント」の評価

(a) アセスメントの意義、必要性、方法について理解できたか。

事前アンケートで受講者からアセスメントへのニーズが述べられており、意義、必要性については理解できていると考えた。アセスメントの方法については、情報を収集し分析するプロセスであり、背景情報収集、行動観察、心理検査が必要であり、心理検査で数値を出すだけではないということを講義で強調した。

(b) WISC-Ⅲの実施方法、結果の分析、解釈の仕方が理解できたか。

2日間にわたって実施方法、結果の分析、解釈についての講義と演習を行った。2人1組で検査用具を使用し、全下位検査の演習を行い、解釈までを一通り研修した。プロフィール分析については手順がわかればできるが、どう解釈するのかということが困難であると思われた。講師が提供した事例についての詳細な解釈が理解され、「これがあって初めて検査の意味があるのを実感した」「実践するしかない」「あとは数をこなしていくしかない」「解釈の手順等、きちんと説明をしていただきよくわかりました。早速利用したいという気持ちになりました」とアンケートに記入があった。そこで、次回の研修会までにWISC-Ⅲを各自で実施し、データを1例提出してもらうことを課題とした。これは検査実施法に少しでも習熟するためであり、教員同士で練習する等子どもへの実施でなくてもよいとした。実施後の検査用紙を提出してもらい、受講者全員が研修会以外で検査する機会を持ったことを確認した。2日間の研修では他の検査も知りたいという受講者からの希望があったが、まずはWISC-Ⅲをアセスメントに使えることを狙った。

イ「個別の指導計画作成」の評価

(c) 個別の指導計画作成のプロセスを理解できたか。

大阪市立盲・聾・養護学校では現在個別の教育支援計画を作成中であり、個別の指導計画はすでに各校の書式で作成して指導にあたっている状況である。したがって個別の指導計画作成のプロセスについては理解されてものと考え、各校で作成している

- 書式に評価を記入したものを所属長の了解のもと、提出してもらうことで評価とした。
- (d) 一人の子どもの事例でグループミーティングをし、個別の指導計画を作成できたか。

「個別の指導計画」の研修では4グループに分かれ、受講者から提供してもらった事例について、2学期の個別の指導計画を作成した。事例提供者にはあらかじめ背景情報等をまとめて報告してもらったが、他の受講者は実際に子どもを見ていないのでなかなかディスカッションが進まないグループもあった。アンケートには『他の学校の人が立てている指導計画に無責任なことは言えない』『どうしてこのようなグループで作成するのかわからない』という記述が見られた。事例提供者には作成した指導計画を2学期実施し、7回目の研修会の時に実施後の様子を発表してもらった。グループディスカッションを通して、一人では見えなかった指導目標や方法を得られたこと、目標の達成状況等についても述べられ、この個別の指導計画の作成ではグループで話し合うことと、Plan-Do-Seeの流れを実際に研修してもらうことができた。しかし、今回提供された事例の障害は様々であったので、もっとシンプルな事例を研修企画者が準備した方が、グループでミーティングする意味を理解してもらえたであろうと考える。

ウ「気になる子どもの行動の評価と支援」の評価

- (e) 子どもの示している行動について、評価方法、支援方法について研修することができたか。

行動面の支援方法（ストラテジーシート、ソーシャルストーリーの作成）等を、また視機能の評価（眼球追視運動）の具体的な講義を受けた。この研修は今後受講者が地域のセンター校として受ける相談の中には軽度発達障害の子どもが増えてくることから考えられることから企画したものである。評価方法は理解してもらえたと思うが、受講者の評価からは軽度発達障害の子どもの示す行動をイメージできたかどうかは把握できなかった。

エ「他機関との連携」の評価

- (f) 地域の学校園をどのように支援していくのか、コーディネーターの役割について考えることができたか。

「アセスメントの重要性を再確認できた」「他機関と連携していくためには一人のコーディネーターと多くの教員の協力が必要であると感じた」「有意義であった。アセスメントスキルの必要性など自らの課題等考えさせられた」「本校ではまだ意識を持って引っ張っていかうという人材が不足している。話を聞いて刺激を受けた」等アンケートに記述があり、講師の話からコーディネーターの役割についての理解が得られたものと思われる。

また、地域のセンター校として機能していくためにどういうことが必要であるかという質問には「校内の体制作りは大変だがすぐに必要だと思う」「全校での委員会等、

職員の組織の確立」「専門的な知識、技能を持った教員の育成ができるような体制づくり」「研修（軽度発達障害のアセスメント）」等が記述されており、講義から所属校の校内支援体制づくりを進めていくために必要なことを考えることができたと思われる。

オ「事例研究」の評価

(g) 事例研究会の進め方が理解できたか。

学校で子どもの事例を考える時の話し合いの進め方について研修した。テーマとして「似た漢字を混同して書いたりする。最近宿題をしてこなくなったため注意をすると泣いてしまった」という子どものエピソードを取り上げ、その子どもの示している「漢字が書けない」「宿題をしてこない」「泣く」という行動の原因と対応をKJ法で整理した。4グループに分かれて演習し、グループからの発表をまとめたものの一部分が表6である。校内で支援を要する子どもについて話し合う時に、まず教員がその子どもの行動を「・・・できない」と言うだけでなく、その行動の原因を考え、具体的な対応を考えることが校内の支援体制で重要な作業である。この「事例研究」の研修会では話し合いを通して、受講者が様々な原因や対応を考えることができた。

表6 考えられる原因と対応

	考えられる原因	対 応
視 知 覚	<ul style="list-style-type: none"> 細かい形をとらえる力が弱い 似た漢字を混同するのは空間認知に弱さがある 線の交錯しているところが見えにくい 部首、へん、つくりなどの形が認識できていない 細かい線の数や部分に注目できない 図形の認知が難しい 画数の多い漢字が覚えられない 	<ul style="list-style-type: none"> 空書き 指書き なぞり書きをさせる 点つなぎ なぞり書き 図形模写 迷路 板書を大きく、線の色を変える（色チョークの使用） 漢字の間違い探し 個別に書く教材を用意する 板書の代わりに横に手本を置く
視力	<ul style="list-style-type: none"> めがねが合ってなくて字が見えにくい 近視になっていて文字が覚え難い 	<ul style="list-style-type: none"> 視力検査をする 席を前にする
テ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> テストで間違えるのが嫌 テストに抵抗がある テストで文が読めず意味が取れない 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題で出したものをテストする 挿絵を入れ、内容をつかませる 一緒に音読してやる
自 尊 感 情	<ul style="list-style-type: none"> できないことへの劣等感を持っている 宿題をしたくない理由をうまく言えない 課題ができないことを知られたくない 	<ul style="list-style-type: none"> 人前で叱ることを極力避ける できる課題を与え褒める場面を作る（宿題の出し方）

4 終わりに

この養護教育専門講座の目的は「障害のある子どものニーズに応じた支援を行えるよう、受講者の専門性の向上を図る」であり、実践的な研修を通し、アセスメントをし、個別の指導計画を作成すること、校内の支援体制の構築におけるコーディネーターとしてのスキルについて研修するということであった。限られた研修の時間枠の中だけでその目的を達成することはできない。研修会受講がきっかけとなり、それを所属校に持ち帰り、他の教員に伝達講習する、校内で研修会を実施してみるということが重要である。受講者が所属校で研修内容を活かしていけるような方向で研修を企画していかなければならない。事後アンケートでこの専門講座で研修したことを今後どのように活かしていけると思うかについて聴取した。記述されたものを「子どもの指導に活かす」「校内の支援体制構築に活かす」「その他」に分けて整理した（表7）。

表7 研修した内容を今後どのように活かしていけると思うか

<p><u>子どもの指導に活かす（5名）</u></p> <ul style="list-style-type: none">• 個々の児童生徒の実態を違う角度で見ることや指導方法の見直し• 個別の指導計画の様式の見直し、作成に活かして行きたい（2名）• ことばの教室での指導に活かしたい• アセスメント、視知覚トレーニング、今日の事例研究のような手法も可能ならぜひ実施したい
<p><u>校内の支援体制の構築のために活かす（7名）</u></p> <ul style="list-style-type: none">• 校内委員会・特別支援教育検討委員会で役立てたい（2名）• 本校の支援を必要とする児童の実態把握• 学んだ手法を学部や校内の研修で使うようにしたい（3名）• 研修で軽度発達障害へのアプローチをどんどん研修していかなければならないと思った
<p><u>その他（4名）</u></p> <ul style="list-style-type: none">• いつ役立てられるかは正直わからない• スキルや知識が足りていないことを嫌というほど見せ付けられたのでよい刺激として残ると思う• これからの教育活動に実際利用していける内容がたくさんあり役に立ったと喜んでいる• 現任校は重度の肢体不自由校なのであまり活かしようがない 今後学校の体制が変わっていれば必要になることもあるだろう

受講者の校務分掌等などの位置づけがない現状の中で7名の「校内の支援体制構築に活かす」内容の記述は、この研修会の目的が達成されたとして評価したいと考える。

研修企画者は受講者のニーズを把握し、ニーズにあった研修会を企画することは言うまでもない。しかし受講者が「よかった」というだけでなく、企画者は研修目的がどう達成できたかを整理し次の研修を考えることが大切である。研修会後にテストするような方法で、内容の理解度を数字で出すことは狙わなかったので十分な評価はできていないが、次年度の研修を企画するにあたり、評価の観点をできるだけ明確にし、受講者に伝えていきたいと考える。

養護教育相談に来談する幼児及び児童・生徒の「個別の教育支援計画」の作成に関わって

藤木 コズエ・三好 祐二

はじめに

「個別の教育支援計画」に関わる国の施策については、平成15年度事業報告「表1 国と大阪市の施策等」のとおりであるが、その後の「小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）」（文部科学省，2004）では、特別支援教育を支える上での具体的な仕組みとして「個別の教育支援計画」の策定をあげ、「一人一人のニーズを把握して、関係者・機関の連携による適切な教育的支援を効果的に行う」ために必要であると述べている。また、「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」（中教審，2005）においては、特別支援学校（仮称）の教育課程について「個別の教育支援計画」との関係を検討することが必要とし、「（センター的機能の具体的内容として）「個別の教育支援計画」の策定に当たり、福祉、医療、労働などの関係機関等との連絡・調整を行う」ことについて触れている。

特殊教育から特別支援教育への移行を前提としたこれらの国の施策を受け、養護教育諸学校等において様々な取り組みが始められている。また、養護教育相談における相談内容からもこうしたニーズの高まりを実感するところである。

以上の経緯をふまえ、平成15年度事業報告に掲載した“「個別の教育支援計画」作成資料—基本的な考え方と作成事例の紹介—”に基づき、養護教育相談に来談する幼児及び児童・生徒の実態把握を参考に「個別の教育支援計画」を作成した。内容については、子どものすべての教育内容についてではなく、教科・領域等に特化した内容による作成を試みた。

作成例（1）では、小学校の養護学級に在籍する高学年の児童を想定した。作成にあたっては、学校生活だけでなく家庭生活や地域生活についての情報を収集し、「進学に向けての課題」を明らかにしていった。これらの課題や諸検査の結果をまとめ、保護者の希望と優先順位を確かめながら「小学校卒業までの重点課題」を整理した。さらに、これらの情報を整理することにより、学校における「年間指導計画」の作成や「個別の指導計画」作成につながり「進学先への引き継ぎ」が円滑に行われることを意図してまとめた。

作成例（2）では、就学前の幼児を想定した。当室の相談では、保護者からの聴取や子どもの発達検査などによるアセスメントを行い、家庭での養育や就学に向けてのアドバイスをしている。就学を目前にして不安や心配を抱えている保護者と子どもが、安心して就学の日を迎えられるためには学校での具体的な支援につながっていく手だてが必要と思われる。そこで作成にあたっては「個別の教育支援計画」の内容を基本にしながら、どのように情報を収集し整理していけばよいかを考え、就学先で「個別の指導計画」の作成のための資料となることを願い、特に、「幼稚園・保育所などの生活から、小学校の生活へ」という視点でまとめている。

「個別の教育支援計画」作成例（１）

この作成例は、大阪市内の小学校に在籍する高学年の児童を想定し、小学校から中学校への移行が円滑に行われることを目的に作成した。

必要な情報を収集し情報フォーマットに順次記入していった。さらに、課題を整理しながら保護者の希望や優先順位をふまえて目標の整理を行った。情報収集から目標の整理までの流れについては作成手順の概略図に示したとおりである。また、ここで用いた情報フォーマットは、平成15年度事業報告で紹介したものと同一フォーマットを使用した。

想定した児童は、幼児期に「自閉症」の診断を受けている。排泄後の処理や食事等、日常生活動作に課題があり保護者のニーズが最も高い。また、3語文程度の日常的にくり返される言葉は理解できるが、発語がないためトーキングエイドを使用した代替手段によるコミュニケーション指導を実践している段階である。さらに、中学校への進学を控え、地域生活や余暇活動を充実させるための交通機関や公共施設の利用についても課題となっている。

さらに、詳細に情報を収集し整理しながら、諸検査の結果に照らして課題を検討し、学校で指導している教科（国語と算数）、領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導）に特化した内容で目標を整理したものを「個別の教育支援計画」の作成例として紹介する。

作成手順の概略図

（情報収集から目標の整理まで）

- I. 基本情報
- II. 学校生活上の情報
 - 1 学校生活の様子
 - 2 学習の様子
- III. 保護者からの情報
 - 1 生育歴、医療・相談歴
 - 2 家庭生活の状況
 - 3 地域生活の状況
 - 4 一日の過ごし方
 - 5 生活地図
- IV. 関係機関からの情報
- V. 課題の整理
 - 1 家庭生活での課題
 - 2 地域生活での課題
 - 3 学校生活での課題
 - 4 諸検査の結果のまとめ
 - 5 保護者の希望
- VI. 目標の整理
 - 1 教科、領域等への整理
（国語、算数、日常生活の指導）
 - 2 教科、領域等の指導目標を整理

年間指導計画の作成（長期目標の決定）、
指導プログラムの作成（短期目標の決定）
につなげる。

（次年度「個別の指導計画」作成へ）

1-1 基本情報

児童名	A男	保護者名	〇〇〇〇
生年月日	平成7年〇月〇日	性別	男
担任	T1	実施担当者	T1、T2
指導期間	1年間	評価予定日	
作成メンバー	担任 (T1)、養護学級担任 (T2)、保護者		
<学校での様子・学習内容の概略> <ul style="list-style-type: none"> • 重度の知的障害がある自閉症である。 • 食事の際は援助が必要である。 • 発語がなく、拒否の際にはしゃがみ込んで叫び声を出す。 • 発語の際は、側に付いて指示することが必要である。 • 着脱衣の際は、側に付いて指示することが必要である。 • 排泄時には言葉が必要である。排泄後の拭き取りには介助が必要。 • 教室から出ていくことは出来ないが、指導者が離れるとろうろう歩き回る。 • 平仮名のなぞり書きができる。 • 平仮名文字を見分け、指示された文字を指すことができる。 • 10までの数の合成分解ができる。 • 九九を覚えており、式をみて答えを出すことができる。 			
記入日	H17. 5	記入者	T2
		保護者確認	(済み)

1-1 学校生活上の情報 1：学校生活の様子

身辺	食事 一度にたくさん口に入れようとして手づかみになる。「いただきます」の挨拶まで待てないことがあるため、援助が必要。			
処	衣服の着脱 着脱スキルはほぼ達成している。着脱の習慣については、個々の動作(準備、片づけ、場所等)を順に促すことが必要。			
理	排泄 排便後の拭き取りを介助。ファスナーの開閉ができない。パンツを全部脱いで排便する。促されるとトイレに行く。			
	整容 服の前後ろが反対になっていても気づかない。			
作	準備			
業	後片付け 道具を元の場所に戻すよう促すことができる。			
	文房具等の使用			
	掃除 椅子を下ろす。			
自己管理	健康管理			
	持ち物管理			
	スケジュール管理 予定表を提示し、終わったものから取り除いていく。			
コミュニケーション	要求表現 音声/視覚 発声する、単語を書く			
	指し理解 音声/視覚 3語文			
	補助代替手段 トーキングエイドを使って単語で伝える。(要求・応答)			
	報告			
	挨拶 促されると頭を下げて発声する。			
	会話			
移動	目的地の理解 校内で活動する場所はすべて覚えている。			
	目的地への移動 担任または女だちと一緒に移動する。			
集団生活	通常の学級で過ごすことはできが、席を離れることがある。			
休憩時間の過ごし方	水筒のお茶を飲み、教室で過ごしている。			
記入日	H17. 6	記入者	T1、T2	保護者確認

11-2 学校生活上の情報2：学習の様子（教科）

生活	達成状況	状況	学習の場 担当者
生活	話すこと・聞くこと	語文程度の指示を理解。 平仮名文字が読め、文字盤を指で指すことができる。平仮名文字で描かれた単語がわかる。	
	読むこと		
	書くこと	平仮名文字・画数の少ない漢字をなぞる。筆圧はしっかりしているが、運筆が安定せず角が描けない。	養護学級 養護学級担任
	その他	トーカーのエイドの音声で絵カードの命名ができる。金種（硬貨）を弁別することができる。	
算数	数と計算	10までの加減算と九九（半分）の解答ができる。具体物を使って繰り上りの計算ができる。	
	量と測定		
	図形	形の弁別ができる。	
	数量関係	10以下の具体物を1対1対応で数えられる。	

記入日	H17. 6	記入者	T 1、T 2	保護者確認
-----	--------	-----	---------	-------

11-2 学校生活上の情報3：学習の様子（領域）

前年度の目標・学習内容	達成状況	状況	学習の場 担当者
道徳			
特別活動		学校行事の参加はできているが、運動場の長い活動は回避しようとする。	
自立活動	健康の保持	給食後は必ず手洗いをしている。	
	心理的な安定	予定表を確かめてから、学習課題に取り組み。課題が終わると予定表から除くことにより「終わり」の見通しをもたせる。	
	環境の把握	日時や天気を毎日確かめる。黒板に数字カードと曜日カードと天気カードを貼る。	
	身体の動き		
コミュニケーション		拒否を伝える際には指で×をつくらせて示すことができる。欲しい物があると、両手で「ちょうだい」のサインができる。	

記入日	H17. 6	記入者	T 1、T 2	保護者確認
-----	--------	-----	---------	-------

II-2 学校生活上の情報4：学習の様子

(領域・教科を合わせた指導)

前年度の日標・学習内容	達成状況	学習の場担当者
日常生活の指導	朝のあいさつをする。定時排尿をする。日直当番は給食時に「いただきます」の動作をする。給食後は必ず手洗いをする。清掃活動は、椅子を下ろすことができる。	
遊びの指導		
生活単元学習		
作業学習		

記入日	H17. 6	記入者	T 1、T 2	保護者確認
-----	--------	-----	---------	-------

III-1 保護者からの情報1：生育歴等

生育歴	胎生期／周産期：異常なし 乳児期：運動発達に遅れはみられなかったが、発語がなかった。 幼児期：発語はない。文字と絵カードのマッチングやジェスチャーができる。			
医療	疾病／診断	知的障害を伴う自閉症		
	服薬	なし		
	補助具等	なし		
機関	受診歴			
	医療機関名	期間	処遇	主治医
	○市○小児科	3歳～7歳	言語訓練	○医師
	○大学附属病院	7歳	診断	児童精神科医師
療育・相談関係	機関名	期間	処遇	
	中央児童相談所	8歳～現在	判定 療育手帳A交付	
福祉関係情報	療育手帳	等級 A	H15年○月○日取得	H○年○月更新予定
	身体障害者手帳			
	利用サービス			

記入日	H17. 6	記入者	T 2	保護者確認	(済み)
-----	--------	-----	-----	-------	------

III-2 保護者からの情報2：家庭生活の状況

食事	箸を使って食べられるが、目を離すと手づかみで食べる。飲み物をコップに注ぐ時には介助が必要。
衣服の着脱	個々の動作を順に促されると着脱ができる。
排泄	排泄を促されることができ、便の拭き取りは介助が必要。
入浴	父と入浴。自分で体を洗うことができる。
整容	促されると自分でする。
家事	箸・茶碗を食卓に並べる。
家事	ゴミをゴミ置き場に出す。
家事	場面に応じた行動
健康管理	帰宅後すぐに手洗いを促され、習慣が身についている。
持物管理	指示されると持ち物の出し入れをする。
スケジュール管理	前日の夜、一日の予定を伝えている。
金銭管理	
睡眠	11時前後に就寝する。
要求表現	発声と指さし
指理解	3語文程度の言葉と文字
補助代替手段	かな文字、トーキングエイド
会話	
挨拶	発声と動作で表現
電話	
手帳	
移動	目的に応じた家庭内の移動 自立
移動	場所の名前の理解 トイレ、お風呂、洗面所、台所等
移動	物品の場所の理解 テーブル、ソファ、タンス、冷蔵庫、ゲーム機等
余暇活動	家族で車に乗って買い物に行く。デパートのゲームコーナーで、父と一緒に遊ぶ。

記入日	H17. 9	記入者	T 1	保護者確認	(済み)
-----	--------	-----	-----	-------	------

III-3 保護者からの情報3：地域生活の状況

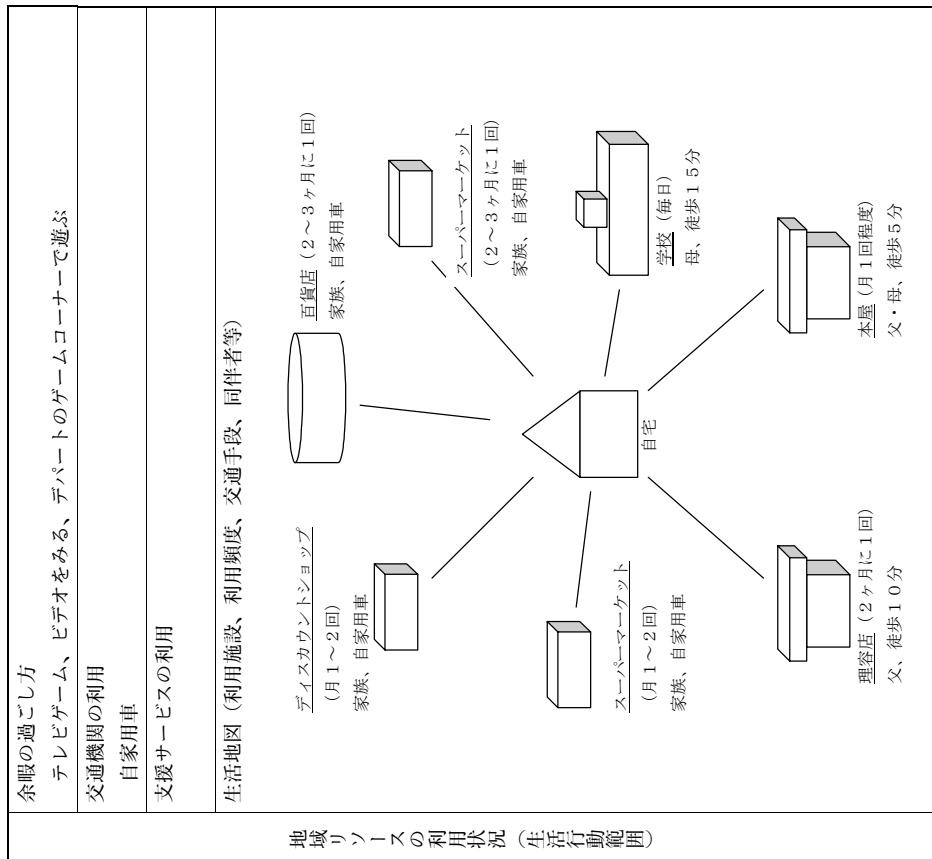
適切な服装の選択	自分のタンスから衣服を選んで着る。
雨具	傘の使用が可能。
飲食店の利用	メニューの中から好きなものを選択できる。
公衆トイレの利用	促されると手洗いをする。
理髪店等の利用	父親の付き添いで、近くの床屋が利用できる。
買い物	自分の欲しいおやつを選んで買い物かごに入れる。
本屋	興味のある本を選ぶ。
郵便局	
銀行	
病院の利用	
持物管理	
スケジュールの管理	
お金の使用	
店や施設の人との応答	
援助を求める	
道を尋ねる	
緊急時の対応	
挨拶	促されると発声しながらジェスチャーする。
電話	
補助代替手段	
交通機関の利用	
交通ルール	信号機に従うことができる。
目的地の理解	
地図	
買い物	デパートに買い物
スポーツ	
文化活動	本屋に買い物
地域施設の利用	

記入日	H17. 9	記入者	保護者	保護者確認
-----	--------	-----	-----	-------

III-4 保護者からの情報 4：1日の過ごし方

平日	休日
時間	時間
7:00 起床 排泄、歯磨き、洗顔を一人でする 朝食、更衣	午後から2～3時間家族で買い物に出かける。母親が買い物をしている間に父親と一緒にゲームコーナーである遊ぶ
8:00 登校 登校班と一緒に登校する	
14:30 (15:30) 下校 保護者が迎えにいく 帰宅 手洗い、更衣を済ませおやつを食べる (再度手洗いをする)	
16:30 宿題	
17:00 自由時間 テレビ・DVDをみる、テレビゲームをする	
19:00 夕食 食後は手を洗う	
20:00 自由時間 テレビ・DVDをみる、テレビゲームをする	
21:30 入浴 歯磨きをして、脱いだ服を洗濯籠に入れ、父と入浴する	
22:30 就寝	

III-5 保護者からの情報 5：生活地図



記入日	H17. 9	記入者	保護者	保護者確認
-----	--------	-----	-----	-------

記入日	H17. 9	記入者	保護者	保護者確認
-----	--------	-----	-----	-------

IV 関係機関からの情報

職 種	機 関 名	検 査 結 果	診 断 / 所 見	助 言 / 指 示 内 容
医 師	小児科医 ○大学附属病院 児童精神科		言語発達の遅れ 自閉症	
理 学 療 法 士				
作 業 療 法 士				
言 語 聴 覚 士	小児科医			絵カードと文字 カードのマッチ ング
視 能 訓 練 士				
心 理 士				
ソ ー シ ョ ヲ ル ワ ー カ ー				
保 育 士				
指 導 員				
心 理 判 定 員	中央児童相談所		重度の知的障害	
相 談 機 関	教育センター		発語はないが、 日常生活で使用 する簡単な言葉 は理解できてい る。色や形の弁 別ができる。	文字カード、 トーキングエイ ドを活用して意 思伝達のスキル を身につける指 導が必要。遊び のレパートリー を広げ、余暇を 楽しく過ごす。

記入日	H17. 9	記入者	T 1、T 2	保護者確認
-----	--------	-----	---------	-------

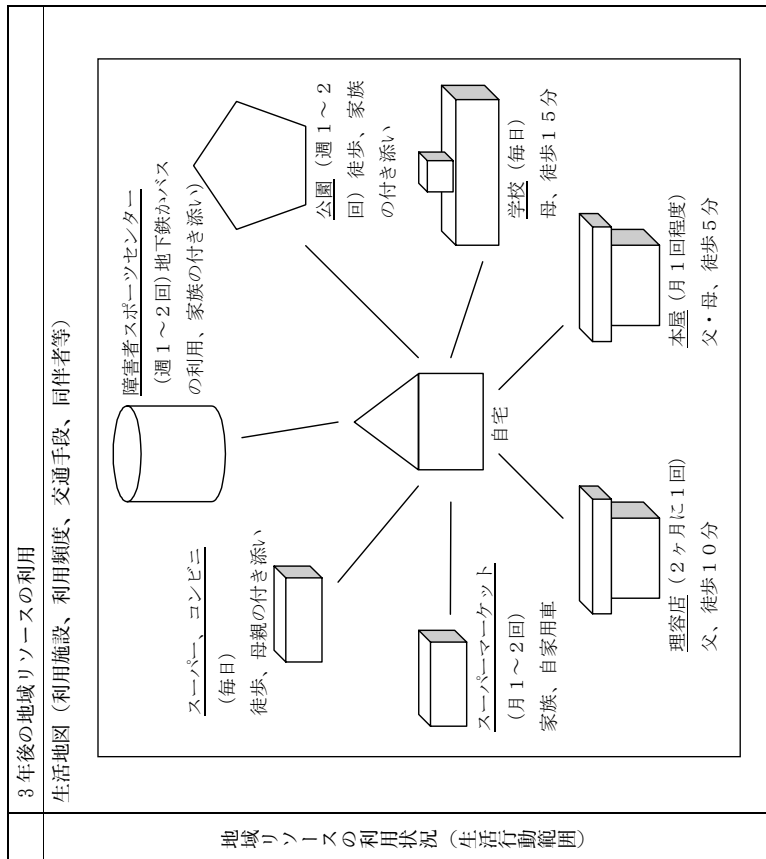
V-1 課題の整理1：家庭生活での課題

3年後の生活（平日）		3年後の生活（休日）	
時 間	活 動	時 間	活 動
7:00	起床 洗面 朝食 歯磨き 更衣 登校 下校 (15:30) 帰宅 更衣 片づけ	8:00	事前に休日に行く場所と目的についで写真等を活用して伝える。 起床 洗面 朝食 歯磨き 更衣 促されなくても自分でする。 洗濯物干し等の家事を手伝ってから自由時間にする。 昼食
16:30	買い物 おやつ 家庭学習 排泄	10:00	母親と一緒に買い物に行き、おやつを選ぶ。 拭き取りの自立
17:00	おやつ 家庭学習 排泄	12:00	家族で出かける。 ・近くの公園に行く (移動は徒歩) ・買い物 (移動は自家用車) ・スポーツセンターの利用 (移動は地下鉄) 帰宅 手洗い おやつ 自由時間 排泄 夕食 (以降は平日と同じ)
19:00	夕食	13:00	
20:00	入浴 歯磨き 自由時間 就寝準備 就寝	16:00	
22:00	着替えをすませ、目覚まし時計を自分でセットする。	19:00	

現在の課題	将来の希望
○食べ終わるまで、スプーン・フォークを使用できず手づかみになることがある。	○食べ終わるまで、箸やスプーン・フォークを使えるようになって欲しい。
○排泄後の拭き取りは大人の介助がいる。	○排泄後の拭き取りができるようになって欲しい。
○ゲームをして過ごすことが多く、他の事をさせようとしても融通がきかない。	○ゲーム以外の楽しみをみつめて欲しい。

記入日	H18. 1	記入者	T 1、T 2	保護者確認
-----	--------	-----	---------	-------

V-2 課題の整理2：地域生活での課題



現在の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○帰宅後は家から出ることが殆どなく、地域での生活経験が限られている。 ○買い物へ行ってもゲームコーナーで遊ぶので、余暇の過ごし方を広げられない。 ○近くの公園へ行くことができない。 ○障害者スポーツセンター等のリソースを利用したことがない。
将来の希望	<ul style="list-style-type: none"> ○家以外の場所でも過ごすことも楽しめるようになって欲しい。 ○近くのスーパーやコンビニで買い物ができるようになって欲しい。 ○近くの公園へ行って、遊べるようになって欲しい。 ○障害者スポーツセンターなどのリソースを活用できるようにしたい。

記入日	H18. 1	記入者	T 1、T 2	保護者確認
-----	--------	-----	---------	-------

V-3 課題の整理3：学校生活での課題

	現在の課題	将来の希望	1年後
学 習	<p>[国語]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意思伝達が難しい。 ○理解言語が少ない。 ○平仮名の書字は、見本をなぞることはできるが運筆のコントロールが難しい。 ○平仮名文字による単語は読める（理解できる）が、文になると読めない。 <p>[算数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○繰り上がりの計算はおはじき等の具体物が必要。 ○時計が読めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文字やシンボルを活用して意思伝達ができるようになる。 ○文字やシンボルが理解できるようになる。 ○運筆のコントロールができるようになり、平仮名文字で単語が書けるようになる。 ○平仮名文字による2～3語程度の短い文が読めるようになる。 ○時計を見て現在の時刻が読めるようになる。 ○地下鉄やバス停の時刻表が読めるようになる。 ○買い物の代金や、交通機関の利用賃金を事前に計算できるようになる。 ○朝会や集会活動に最後まで参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○トレーニングやドヤシンボルを使って要求ができる。 ○絵や写真と文字、絵や写真とシンボルのマッチングができる。 ○点結びや、直角に曲がった線が描けるようになる。 ○四角形や三角形が描ける。 ○平仮名文字で2語文以上の短文が読める（理解できる）ようになる。 ○「ちょうど〇時」の時刻が数字で表記できるようになる。 ○金種（硬貨）を分類し、品物の代金とマッチングができるようになる。 ○回避せず参加できる回数を増やす。
	<p>領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝会や児童集会の参加を回避しようとすることが多い。 <p>[日常生活の指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○排便後の拭き取り ○着脱動作の順に言葉がけが必要。 ○教室移動には介助が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○排便後の拭き取りができる。 ○着脱衣の自立 ○教室移動が一人でできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○拭き取りに必要なスキルを身につける。 ○着脱動作の順を絵や写真で示し、切り替えをスムーズにし、習慣化する。 ○近い場所から始め、一人で移動できる場所を増やす。

記入日	H18. 1	記入者	T 1、T 2	保護者確認
-----	--------	-----	---------	-------

V-4 課題の整理 4：諸検査の結果のまとめ

領域	検査の種類と結果	所見	助言
教	新版K式発達検査2001 P-M3;10題 C-A2;11(28) L-S2;3(22) 全2;7(25) 絵画語い発達検査 VA 3歳10月 (SS1)	知的発達の違いがある。検査項目によって大きな差がみられる。 言葉については簡単な名詞と動詞が理解できる。 表出言語は、指さし行動とジェスチャーである。 見本のある課題は遂行しやすい。	目の前に提示された物との関係性から言葉の指示(名詞+動詞)を理解することができ。大きい・小さい等の簡単な形容詞を理解することが望まれる。形状を模倣して線を描こうとするが、直線の終筆が流れる。運筆を止めて角を描くことができず、4本の直線で描かれた四角形になる。運筆のスキルを高める必要がある。10までの数を数えることは定着しているが比較概念等を含む数の概念形成が望まれる。
科			
身辺処理	S-M社会生活能力検査 6：6	排便後の拭き取りに介助が必要。	基本的な身辺処理技能の完成。
移動	S-M社会生活能力検査 3：9	自宅以外の場所へは一人で行くことがなく、行動範囲が限られている。	買い物等、外出経験を増やす。
作業	S-M社会生活能力検査 5：1	缶ジュースのふたを取るこ とやひもを結んだりほい たりすることが難しい。	
コミュニケーション	S-M社会生活能力検査 2：10	表出言語が指さし行動と ジェスチャーで、伝達できる 状況や相手が限られている。	補助代替手段を活用した表 出言語の形成。理解言語の拡 大。
集団参加	S-M社会生活能力検査 3：7	遊びへの参加が困難。 大人が介在することで活動 の場に参加できる。	活動内容を見て分かるよう に事前提示する。参加可能な 方法を設定する。
自己統制	S-M社会生活能力検査 3：6	動作のひとつひとつに指示 が必要。要求が通らないと刺 戟を起こす。	次の動作が見て分かるよう に提示し、習慣化する。 活動レパトリーの拡大。

記入日	H18. 1	記入者	T 2	保護者確認	(済み)
-----	--------	-----	-----	-------	------

V-5 課題の整理 5：保護者の希望

現在の課題	将来の希望
排便後の拭き取りが自分でできるようになってほしい。 食事の際の手づかみをなくしたい。 自分の意思が伝えられるようになってほしい。 制止の言葉がきけないときがあるので、理解できるようにしてほしい。 ゲームやビデオ以外の遊びを楽しめるようになってほしい。	身辺処理の自立 トーキングエイドを使った意思伝達ができるようになってほしい。 理解言語を増やしてほしい。 一緒に買い物に行ったり、公園を散歩したりできるようになってほしい。

VI-1 目標の整理1：教科、領域等の指導内容に整理

	国語	算数	日常生活の指導
学校	<ul style="list-style-type: none"> トリーキングエイドを使った表出を拡大する。 平仮名文字で書かれた3語文を理解できるようにする。 書字スキルを高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 比較概念の基礎を形成する。 品物の代金と金種(硬貨)のマッチングができるようになる。 代金を求める計算力を高める。 千までの位を知ることできるようにする。 「ちょうど〇時」の時刻を数字で表記する。 	<ul style="list-style-type: none"> 排便後の拭き取りができるようにする。 着脱動作の切り替えをスムーズにし、習慣化する。 移動の自立に向けた取り組み。 食事を最後まで箸やスプーンで食べられるようにする。
家庭／地域			<ul style="list-style-type: none"> 身辺処理の自立。 ゲーム以外の遊びができるようにしたい。 近くの店や公園と一緒に行動できるようにしたい。
関連情報・検査等の所見	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名文字が読め、文字盤を指で指さすことができる。 トリーキングエイドの音声を聞き取れる。 指示された色や絵を選択し指さすことができる。 直線が描ける。運筆の課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名文字が読め、文字盤を指で指さすことができる。 トリーキングエイドの音声を聞き取れる。 指示された色や絵を選択し指さすことができる。 直線が描ける。運筆の課題がある。 比較概念が未定着。 10までの数を数えることができる。 硬貨の弁別ができる。 加減算式と掛け算式の意味が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 排便後の拭き取りには介助が必要。 個々の動作を順に促すと着脱ができる。 移動の際には付き添いが必要である。 食事中にたくさん口に入れるようとして手づかみになる。
必要な指導・援助・配慮	<ul style="list-style-type: none"> トリーキングエイドの使用にあたっては、伝達する相手と伝達する内容を目的に応じて設定する。 単語やカードや絵を活用して3語文の理解を促す。 点結びをして、始筆と終筆の位置がわかるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で量の比較を定着させながら、具体物の大小を比較ができるようにし、半具体物による大小比較の理解を促す。 硬貨の弁別から分類ができるようにする。 数列カードを順に並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身辺自立に関わる指導については、学校と家庭で共通した方法がとれるよう連携を取り合う。

VI-2 目標の整理2：教科、領域等の指導目標を整理

	保護者	通常の学級の担任	養護学級の担任
国語		<ul style="list-style-type: none"> トリーキングエイドを使った表出が通常の学級でできるようにする。 時計を意識し「ちょうど〇時」の時刻を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> トリーキングエイドを使った要求の表出ができるようになる。 平仮名文字で書かれた2語文が理解できるようになる。 折れの線が描けるようになる。
算数		<ul style="list-style-type: none"> 具体物の量や大小の比較ができるようになる。 時計を意識し「ちょうど〇時」の時刻を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 量や大小の比較ができるようになる。 ちょうどの代金(2桁や3桁)と金種(硬貨)のマッチングができるようになる。 2桁ちょうどの数同士の加減算ができるようになる。 2位数、3位数の数列を理解し、千の位を知ることできるようになる。 「ちょうど〇時」の時刻が数字で表記できるようになる。
日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> 排便後の拭き取りに必要なスキルを身につける。 着脱動作の順を絵や写真で示し、切り替えをスムーズにし、習慣化する。 食べ物を一度にたくさんほお張らずよく噛んで食べられるようになる。 公共施設を利用して余暇の過ごし方を広げる。 保護者と一緒におやつを買いに行くことができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 着脱動作の順を絵や写真で示し、切り替えをスムーズにし、習慣化する。 近い場所から始め、一人で移動できる場所を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 排便後の拭き取りに必要なスキルを身につける。 着脱動作の順を絵や写真で示し、切り替えをスムーズにし、習慣化する。 近い場所から始め、一人で移動できる場所を増やす。 スプーン一杯分を口に入れて、よく噛んで食べられるようになる。

情報収集の内容

「個別の教育支援計画」の作成例（2）

一 広汎性発達障害の女児（幼児）－

この作成例は、幼稚園・保育所などに通う幼児が、小学校に入学し、個別の指導計画を作成するときに必要な情報内容について整理した。特に、「幼稚園・保育所などの生活から小学校の生活へ」という視点でまとめている。

対象児は、2歳頃から、言葉の遅れ・落着きのなさ・視線が合わない等の状態が目立つようになった。3歳になって、広汎性発達障害・軽度の発達遅滞の診断を受け、言葉の指導も受けていた。4歳になり、幼稚園に通園するようになり、身辺処理については、自立してきているが、言葉の遅れやコミュニケーションの弱さがあり、先生の指示が理解できなかつたり、友達と遊べず、一人で遊ぶことが多かったり、順番がわからず泣き出してしまふなどの行動が見られた。しかし、園生活の中で様々な配慮や支援により、徐々に集団活動に意欲的に取り組めるようになってきている。就学にあたって、保護者は、小学校という新しい環境にうまく慣れていけるかを大変心配している。そこで、平成15年度事業報告で紹介した「個別の教育支援計画」のフォーマットを活用しながら、幼稚園での状況と配慮・支援内容を、課題ごとに収集・整理したものを追加してまとめた。就学後、「個別の教育支援計画」の作成の資料例として紹介する。

- I. 基本情報
- II. 保護者からの情報
 - 1 生育歴等
 - 2 家庭生活の状況
 - 3 1日の過ごし方
 - 4 地域生活の状況
 - 5 生活地図
- III. 保育所・幼稚園の生活上の情報
- IV. 関係機関からの情報
- V. 課題：園の生活での課題
- VII. 学校への希望

I 基本情報

名前	○ ○ □ ○ ○ ○ (仮想事例)	性別	男・ <input checked="" type="radio"/>
生年月日	平成○年○月○日 (△歳)		
園名	○△ ○△ 幼稚園		
作成メンバー および協力者	保護者	担任 医師	療育施設担当者 相談員
作成時期	就学まで		

II-1 保護者からの情報 1 : 生育歴等

生育歴	胎生期：特記事項なし 周産期：同上 乳児期：始歩1歳2ヶ月 言葉の遅れ、視線が合わない、落ち着きがない 幼児期：始語2歳3ヶ月、二語文3歳6ヶ月 順番が待てない、嫌だと飛び出してしまふ お絵かきが好きで、熊やウサギをよく描く。		
疾病 / 診断	広汎性発達障害		
検査結果	脳波検査は異常なし		
服薬	なし		
補助具等	なし		
医師の指示事項	特になし		
受診歴			
医療機関名	期間	処遇	主治医
A病院	3:0	診断	小児科B医師
機関名	期間	処遇	処遇
A病院	3:0~5:0	言語科でことばの指導	
C療育センター	4:0~現在	STによるコミュニケーションの指導	
中央児童相談所	3.0	判定・療育手帳交付・通園施設の紹介	
療育手帳	等級:B1	△年○月□日取得	等級 年月日更新
身体障害者手帳	なし		
利用サービス	特になし。		

記入日	H17. 4	記入者	保護者確認
-----	--------	-----	-------

11-2 保護者からの情報 2：家庭生活の状況

身辺処理	食事 衣服の着脱 排泄 入浴 整容	スポンジとフォークを使用。箸は握り箸である。偏食なし。 衣服の着脱は遅いが自分でできる。靴は左右を間違っていることがある。 自立している。時々夜尿がある。 洗体は自分でしている。洗髪は、母親が援助している。 歯磨き、洗面は自分でしている。整髪は母親がしている。
家庭	食事	調理していない。 食事前の準備していない。 後片付け 自分の食器を流しに運ぶ。 掃除していない。
	家事	洗濯 していない。 買い物 母親と一緒に行き、欲しい物は伝える。 場面に応じた行動 要求が通らないと泣くことがある。 健康管理 外から、帰ったら、手洗い・うがいをする。 持ち物管理 母親が管理している。
生活	自己管理	スケジュール管理 ボードに一日のスケジュールを書いているので、確認して行動している。 金銭管理 母親が管理している。 睡眠 9時就寝 7時起床 午睡なし 要求表現 音声/視覚 二語文レバル。 拒否は、「いや、しない、だめ」などの表現で泣くこともある。
	コミュニケーション	指示理解 音声/視覚 家庭内でのことは理解している。 代替手段 使用していない 会話 具体的に簡単な場面でのやり取りはできる。わからないときは、エコラリアになる。 挨拶 促されると挨拶する。嬉しい人には自分から声をかける。 電話 祖父母からの電話には、促されて挨拶する。 手帳 経験なし
状況	移動	目的に応じた家庭内の移動 自分でできる 場所の名前の理解 家の中は理解している。 物品の場所の理解 玩具や飲み物の場所は理解している。
	余暇活動	家族で、近くの公園に行くことが多い。月に2回程度プールに家族で出かける。家では、兄と一緒に絵を描いたり、ゲームをしたりしている。

11-3 保護者からの情報 3：1日の過ごし方

平日	時間	活動	休日	時間	活動
	7:00	起床 洗面 朝食		8:00	起床 洗面 朝食
	8:10	登園		10:00	スポーツセンター プール (父、母、兄と)
				12:00	昼食 弁当または食堂利用
				13:00	帰宅 兄と遊ぶ
				15:00	公園 (散歩) 買い物
	16:00	降園		16:00	帰宅 家族でテレビを観る
	17:00	買い物 兄と遊ぶ (お絵かきなど) テレビ、ビデオを観る		17:00	入浴 (父親と) 夕食
	19:00	夕食		19:00	テレビ・ゲーム
	20:00	入浴・テレビを観る			
	21:00	就寝準備・就寝		21:00	就寝準備・就寝

記入日	H17. 9	記入者	T 1	保護者確認	(済み)
-----	--------	-----	-----	-------	------

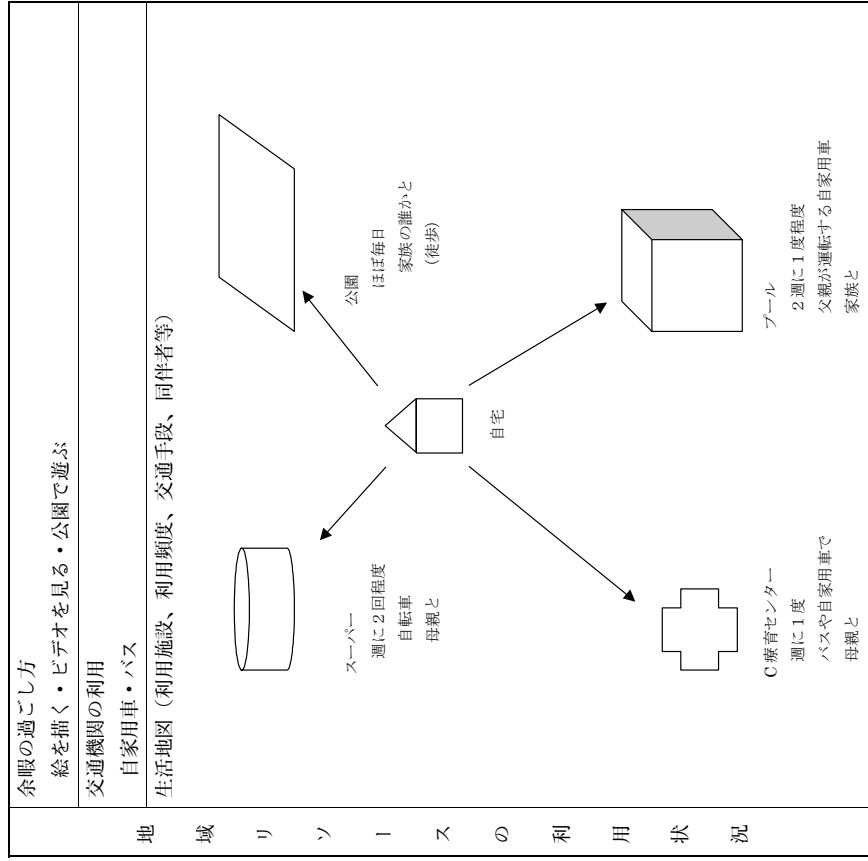
記入日		記入者		保護者確認	
-----	--	-----	--	-------	--

11-4 保護者からの情報：地域生活の状況

適切な服装の選択	自分で着る服を選ぶ。
雨具	傘の用意をする
飲食店の利用	家族とは月に1回程度利用する。食べたいものを自分で決める。
公衆トイレの利用	母親もしくは父と洋式トイレを利用する。
公衆電話の利用	経験なし。
理髪店等の利用	母親と一緒に一ヶ月に一度利用する。
買い物	母親に連れられて行く。欲しい物を言う。
郵便局	経験なし。
銀行	経験なし。
役所	経験なし。
病院の利用	母親に連れられて。
持ち物管理	母親が管理する。
スケジュールの管理	母親が管理する。
お金の使用	母親が管理している。
店や施設の人との応答	母親が行う。慣れた店では、応答することもある。
援助を求める	常に母親および家族同伴のため必要なし。
道を尋ねる	1人で外出した経験が無い。
緊急時の対応	常に母親同伴のため母親が対応する。
挨拶	親しい人には自分から、名前を呼ぶだけの時が多いが声をかける。
電話	経験なし。
代替手段	使用していない。
交通機関の利用	父親が運転する自動車。地下鉄などの公共の乗り物
交通ルール	赤信号で停止することは理解している。
目的地の理解	何度かいったところは覚えている
地図	読んだ経験がない。
買い物	必要な物は母親が買い与える。おやつは自分で選んでいる
スポーツ	月2回程度、家族でプールに行く
文化活動	特にしていない。
地域施設の利用	児童公園で遊ぶ。

記入日	記入者	保護者確認
-----	-----	-------

11-5 保護者からの情報：生活地図



記入日	記入者	保護者確認
-----	-----	-------

III. 保育所・幼稚園の生活上の情報：園生活の状況

状況	配 慮・支 援 事 項
<p>食事：スプーンとフォークを使用し一人で食べる。箸は握り箸。</p> <p>衣服着脱：衣服の前後・靴の左右を間違いない。</p> <p>移動：特になし</p> <p>排泄：洋式トイレでのみ排便を行う。自分で「トイレ」といっていく。</p> <p>粗大運動：（ボール・なわとび・サーキット課題など）</p> <p>ボールの投げ受けはできる。</p> <p>ゲームになると、理解できないので、参加しないことが多い。</p> <p>縄跳びは、一回飛びである。遊具での遊びは得意である。</p> <p>微細運動：（描画・はさみ・のり・ひも通しなど）</p> <p>はさみは、連続切りができるが、曲線を線の通り切ることが困難である。絵を書くことは好きで、キャラクターの絵を写すことが多い。人物画は、頭足人である。</p>	<p>箸については、練習用の箸を使っている。</p> <p>間違っている時に、声をかけると直すことができる。</p> <p>ルールのあるゲームの時には、一緒に入り、説明している。</p>
<p>要求表現 音声／視覚 二・三語文レベル。</p> <p>指示理解 音声／視覚 簡単な指示は理解できる。わからないとき、隣の子を見たり、教えてもらっている。</p> <p>代替手段 使用していない。</p> <p>会話 相手が聞き役になると続くが、やり取りになると続かない。質問に答えるのはできにくい。</p> <p>挨拶 慣れると、自分から先生や友達に挨拶できる。</p> <p>表現の特徴 わからないときは、エコリアになる。</p> <p>言葉 生活の中にあるものは、ほぼ理解しているが、幼児語がある。</p> <p>文字（読み書き） 短い絵本を自分で読んで楽しむ。拾い読みだが、読みも意欲は持っている。文字を書くことには興味を持っていない。</p>	<p>複雑な指示については、横について、説明を加えている。具体物をみせると大変理解しやすい。話に注目できるように、声をかけたり、話し手の近くに座るようにしている。</p> <p>話がそれるときは、もう一度ゆっくり話をして応答するようにしている。</p> <p>もう一度、説明する。</p> <p>間違いを直すのではなく、確認として、正しく復唱している。</p>

コミュニケーション・言葉

状況	配 慮・支 援 事 項
<p>描画 絵をかくことは好きで、援助なしでどんどん描いていく。時間があると、描けた物の上に重ねて描いてしまうことがある。</p> <p>テーマのある絵は、描きにくい。</p> <p>工作 描画と同様の状況である。</p> <p>室内での遊び 積み木・ブロックなどで独り言を言いながら遊んだり、お絵かきをすることが多い。</p> <p>戸外での遊び 砂場で遊ぶことが多い。2、3人でトネルを作ったり遊ぶことがある。鬼ごっこなどは、ルールがわからなくて、すぐにやめて一人になっている。</p> <p>水遊び（プール） 水をこわがり、顔を付けることができない。水遊びは好きである。シャワーは、水の勢いを弱くすると、浴びることができる。</p> <p>運動会 練習中は、先生が隣で声をかけながらしている。嫌になると座り込んでしまうが、見ている自分のことは理解している。当日は、友達の動きについていけながら、参加することができた。</p> <p>発表会 運動会と同じ</p> <p>その他（遠足） 隣の子と手をつないで歩いている。</p> <p>朝の準備・帰りの準備 自分でゆっくりだが、準備をしている。</p> <p>当番活動 友達に声をかけてもらいながら、楽しく活動している。</p> <p>全般の活動</p>	<p>描き終わるかどうか確認をしながら、できるときは、作品を預かり、余った時間は、自由書きの時間としている。描くものが決まらないときは、モデルを提示している。</p> <p>同上</p> <p>ルールのある遊びでは、先生に声をかけてもらったり、手をつないでもらっていると安心できる。</p> <p>内容に関しては、事前に写真や音楽など知らせている。練習を繰り返すと座り込んでしまうので、そのときは時間を決めて見学し、約束した時間が来ると、参加している。</p> <p>当日のスケジュールを事前に知らせている。（絵カード利用）興味のあるものを見つけると飛び出してしまいうことがあるので、近くで、様子を見ている。</p> <p>途中で遊んでしまいうことがあるので、そのときは、声をかけている。</p> <p>当番活動の流れを絵カードによって提示している。</p> <p>* 一日のスケジュールについては、ボードを活用して提示している。</p> <p>* わからないことがある時は、「わからない」「教えて」などというように声かけしている。</p> <p>* 友達とのトラブルの時には、静かな場所に着いてからゆっくり話しを聞いている。</p>
<p>遊び</p>	
<p>行事</p>	
<p>その他</p>	

IV 関係機関からの情報

職種	機関名	検査結果	診断/所見	助言/指示内容
医師	C療育センター		自閉症	
	A病院(小児科)		広汎性発達障害 軽度の知的障害	
理学療法士				
作業療法士	A病院言語科		言葉の認識 3:2 視覚識別 5:4	
	C療育センター			コミュニケーションの指導が必要 総カードなどで語彙を増やす オーバーなくらい の表現で伝える
視能訓練士				
心理士				
ソーシャルワーカー				
保育士				
指導員				
心理判定員	児童相談所	療育手帳	軽度の知的障害	
相談員	教育センター	新版K式発達検査		言語理解や表現に弱さがある。空間の位置や関係、語や文の関係がうまく捉えられない。部分から全体へ、段階的な指導が必要。語彙を増やす働きかけが必要。視覚的援助が有効。

記入日

記入者

V. 課題： 園生活での課題

	現在の課題	入学後の課題
身辺処理	<input type="checkbox"/> 箸が使える。 <input type="checkbox"/> 服の前後がわかる <input type="checkbox"/> 靴の左右がわかる	
コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 簡単なやり取りができる <input type="checkbox"/> わからないときなどに「教えて」など相手に伝えられる。	
移動	<input type="checkbox"/> 全体指導を聞いて、一人で移動する	
作業		
自己統制	<input type="checkbox"/> 興味があることがあっても、勝手に飛び出さない。	
集団参加	<input type="checkbox"/> ルールのある遊びができる。	
その他		

記入日

記入者

VI. 学校への希望

	現在の課題	入学後の課題
本人	○	○
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通常の学級でできる限りみんなと一緒に過ごさせたい。 ○ 必要なときには、個別の支援をしてほしい。 	○

(資料)個別の指導計画作成における「指導目標」 ーカリフォルニア州Irvine学区の I.E.P.(Individualized Education program)からー

栢木 隆太郎・古沢宏明

現在の養護教育は、平成19年度には、「特別支援教育」へシフトしていくと言われている。この動向は、文部科学省の施策に沿ったものであり、「21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）」（2001）・「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（2003）・「小中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童子どもへの教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）」（2004）・「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」（2005）などに示されている。

特別支援教育では、障害のある児童・生徒とともに、LD（学習障害）・ADHD（注意欠陥／多動性障害）・高機能自閉症等の児童・生徒が有する個々の教育的ニーズに応える教育が求められている。従って、通常の学級に在籍する子どもで特別な教育的支援を要する児童・生徒もその対象となる。その具体的方策としては、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいた指導の計画を立案することが前提となる。

この動向を受けて、各校園では、保護者や子ども本人のニーズに応える取り組みが進められており、「特別支援教育」を視野に入れた指導や実践をどのように展開していくかが模索されている。一方、当室の養護教育相談における各校園からの相談の状況を見てみると、多くの場合、子どもの情報や指導資料などが不十分なために、「個別の指導計画」の作成に試行錯誤の状態を示していると考えられる。

養護教育相談では、これらの動向をふまえながら、個別の指導計画の作成に資するために、米国の障害児教育におけるI.E.P.（個別教育計画）に視点をあて、それに関する資料を収集し、その内容について研究報告および事業報告に集約してきた経緯（「米国ニュー・ジャージー州における養護教育-養護教育に関わる保護者の権利とI.E.P.の様式を中心に-」（1999）・「米国ニュー・ジャージー州における養護教育-養護教育行政規則 6-A 教育第14章 養護教育-」（2000））がある。そして、一昨年度と昨年度の事業報告書においては、上記の米国の資料とともに特別支援教育への動向をふまえ、「『個別の教育支援計画』作成資料-基本的な考え方と作成事例の紹介-」（2004）示し、「養護教育における来談者及びその主訴に関する最近5年間の変化とそれに伴う今後の課題」（2005）について報告した。

そこで、本稿では、各校園で作成に困難を示している「個別の指導計画」に焦点を当てることとした。つまり、一昨年度の「『個別の教育支援計画』作成資料-基本的な考え方と作成事例の紹介-」（2004）に関連し、「個別の指導計画」の作成における、子どもの発達課題や学習課題に関する資料を提供することを目的とした。この資料は、以前収集した米国のI.E.P.（個別教育計画）に関するものであり、カリフォルニア州Irvine学区が開発したK-12（Kindergarten through 12：就学前～第12学年）のI.E.P.の「Goals & Objects」（翻訳）を紹介するものである。

「Goals & Objects」に記述されている領域と項目は、約1000項目の中から精選されたものであり、すべての項目には及んでいない。取り上げられているその内容は、小中学校の通常の学級お

よび養護学級に在籍する軽度発達障害の児童・生徒、養護学校小学部・中学部・高等部に在籍する軽度発達障害の児童・生徒を対象としたものといえる。

また、米国の文化的背景や教育制度と日本のそれらとの違いにより、活用することができない項目も一部あるが、個別の指導計画作成における指導目標の設定に採用できる内容が多く含まれている資料と考えている。

以下に、「Goals & Objects」の翻訳を紹介する

(翻訳)

第6章 目標と目的

IEP Works に記述されている「目標と目的」は、カリフォルニアIrvine地区の統合Irvine学校区により開発されたものである。その内容は、第12学年までの1000項目以上の目標課題が設定されている。以下は、IEP Worksに記述されている数多くの目標一覧から、領域のコード別に精選したものである。これらは、学校の許諾により提供されたものであり、利用するにふさわしい人であれば、誰でもどのようにでも活用が可能である。

統合Irvine学校区の 第12学年までの指導目標

CM 学級での支援

CM1.0 子どもの必要とする支援

CM1.01 失敗を記録するのではなく、達成したことと達成可能な課題を記録する。

CM1.02 試験と小テストは口頭で出題する。

CM1.03 家庭での宿題は、それが達成できるように明確で簡潔な内容に調整する。

CM1.04 文字や数字の反転や置換などは、誤りを採点するのではなく、修正を指示する。

CM1.05 授業での発表には評価と称賛を行う。

CM1.06 テストでは時間延長を行う。

CM1.07 補充学習の時間を設ける。

CM1.08 授業の講義や討論の録音を許可する。

CM1.09 他の子どものノートをコピーすることを許可する。

CM1.10 他の子どもの授業のノートをカーボンコピーすることを許可する。

CM1.11 ピア・チュータリングを活用する。

CM1.12 異年齢の子どものチュータリングを活用する。

CM1.13 制限時間や競うことのストレス場面を避ける。

CM1.14 子どもがタイプで打った、あるいは、口述した、そして、必要により他者が記述した宿題の答案用紙を認める。

CM1.15 コピーをおえた手書きの課題は返却しない。子どもの不安が高まるので、答案用紙の修正はしない。

CM1.16 授業中の子どもへの指示は必ず繰り返し、さらに、子どもにその指示を言わせて説明させる。

CM1.17 子どもへの質問の内容あるいは応答を指導者へ口述させる。

CM1.18 黒板や紙に書いた子どもへの指示には、口頭による指示を伴う。

CM1.19 課業以外の長文の読書の宿題は出さない。

CM1.20 筆記体による手書きとタイプが許容される。

CM2.0 子どもの評価基準

- CM2.1 子どもは同年齢の学年に在籍する。
- CM2.2 子どもは支援の手続きを伴って同じ学年に在籍する。
- CM2.3 子どもは基準達成／未達成の評価を受ける。
- CM2.4 子どもは出席の基準達成／未達成の評価を受ける。
- CM2.5 子どもの課題の成果がその能力に見合っていれば履修証明書を受け、成果が見られない場合は履修証明書を受けられない。

CO コラボレーション

CO1.0 校正／編集

- CO1.1 子どもは彼／彼女（自分）が書いた文書を校正する。
- CO1.2 子どもは編集した課題を再コピーする。

CO2.0 学習スキルの適用

- CO2.1 子どもは授業の講義をノートに書く。
- CO2.2 子どもは授業の課題と別途にまとめたノートを保存する。
- CO2.3 子どもは課題の記録を保存しておく。
- CO2.4 子どもは割り当てられた課題の進捗記録を仕上げる。
- CO2.5 子どもは教師の記録により評価された自分自身のコンサルテーション会議に出席する。

CO3.0 問題解決スキル

- CO3.1 子どもは適切な人物と問題について論議する。

CO4.0 職業訓練／職業意識

- CO4.1 子どもは署名されたIEP/ITPに記述

されている彼／彼女の移行計画に参加する。

HH 健康－健康スキル

HH1.0 人体の機能に関する知識

- HH1.01 体の組織を知る。
- HH1.02 食物の4つの栄養素（炭水化物・タンパク質・脂肪・ビタミン）を知る。
- HH1.03 適切な衛生上の条件を知る。
- HH1.04 病気の予防と疾病管理に関する知識を持つ。
- HH1.05 医療的な手当が必要な場合、その知識を持つ。
- HH1.06 医療的な治療機関を少なくとも2か所以上知っている。
- HH1.07 避妊法を知る。
- HH1.08 薬物・アルコール・煙草の健康への影響に関する知識を持つ。
- HH1.09 薬物・アルコール・煙草の使用と乱用の区別がわかる。
- HH1.10 薬物・アルコール・煙草の乱用がもたらす健康への害悪について知る。

IL 自立生活

IL1.0 消費者としての生活スキル

- IL1.1 買物スキルに関する知識を持つ。
- IL1.2 毎日の新聞を読み情報を活用する。
- IL1.3 公衆電話／個人の電話を使用する。
- IL1.4 交通機関の手段を知る。
- IL1.5 許可と許可証を取得する。
- IL1.6 公共交通機関の手段を知る。
- IL1.7 バスの運行表を読む／説明する。
- IL1.8 バスの運賃／乗り換えが理解できる。
- IL1.9 一人で公共交通機関を利用する。

IL2.0 自分自身と家族関係と 子どもの発達に関する理解

- IL2.01 自分の特性を知る。
- IL2.02 自他の類似／相違点に気づく。
- IL2.03 友情／異性、そして、デートすることについて論じる。
- IL2.04 結婚について感情的・経済的・法的視点から理解する。
- IL2.05 よりよい結婚に必要な条件について論じる。
- IL2.06 離婚とその意味について考える。
- IL2.07 性に対する個人的／社会的態度を身につける。
- IL2.08 生殖器官と機能について知る。
- IL2.09 性に関する選択／責任について知る。
- IL2.10 性的ライフスタイルの差異について考える。
- IL2.11 産児制限の方法を知る。
- IL2.12 家族構成の類似点／差異点を知る。
- IL2.13 家族の役割の差異について知る。
- IL2.14 対立意見への解決策を知る。
- IL2.15 その他の支援システムを知る。
- IL2.16 母親が妊娠したときの変化について知る。
- IL2.17 誕生に至る経過を理解する。
- IL2.18 幼児をうまくお世話する方法を知る。
- IL2.19 子どもの安全に関する要件を知る。

IL3.0 住居探しのプロセス

- IL3.1 地域で利用できる住居形態をリストする。
- IL3.2 選択可能な居住形態をリストする。
- IL3.3 アパートを探すときの重要な要件をリストする。
- IL3.4 借家の利点／不利な点をリストする。
- IL3.5 住居購入における利点／不利な点をリストする。
- IL3.6 住居に関する用語を理解する。
- IL3.7 賃貸に関する用語と申込書の内容を

理解する。

- IL3.8 居住者／家主の義務を理解し説明する。

IL4.0 住居の維持管理スキル

- IL4.01 キッチンの維持管理に必要な基本知識を説明する。
- IL4.02 主な電気製品を操作する。
- IL4.03 リネンを清潔にし、ベッドメイクをする。
- IL4.04 適切な衣類の手入れの仕方がわかる。
- IL4.05 浴室の基本的な維持管理の仕方がわかる。
- IL4.06 衣類の洗濯ラベルを読み、理解する。
- IL4.07 清掃に必要な物品を知る。
- IL4.08 洗濯機／乾燥機を操作する。
- IL4.09 アイロンかけが必要な衣類を知る。
- IL4.10 おおよその清掃製品とその使い方がわかる。
- IL4.11 清掃製品の危険について知る。
- IL4.12 製品を適切に使用する。
- IL4.13 製品を適切に保管・管理する。

IL5.0 整容スキルの応用

－衛生と整容－

- IL5.1 日常の基本的な整容について知る。
- IL5.2 状況や気候に応じた適切な衣服を選択する。

IL6.0 栄養の知識

- IL6.1 栄養学的知識を持つ。
- IL6.2 バランスのとれた食事を計画する。
- IL6.3 レシピ通りに調理する。
- IL6.4 キッチンの安全について説明する。
- IL6.5 食物を小分けにして準備する。
- IL6.6 食物毎に準備する。
- IL6.7 適切な食物の保管知識を持つ。

IL7.0 安全スキル

- IL7.1 基本的な応急手当の知識を持つ。
- IL7.2 家庭内の危険物をリストする。
- IL7.3 緊急時の手順について理解する。
- IL7.4 電気器具を安全に使う。
- IL7.5 処方薬／非処方薬を区別する。

LA 言語発達

LA1.0 対人コミュニケーション

- LA1.01 要求された言語指示を繰り返さなくてもそれに従う。
- LA1.02 視線を合わせる。
- LA1.03 適切な身体表現を伴う。
- LA1.04 適度の大きさの声で話す。
- LA1.05 適度の速さで話す。
- LA1.06 適度な声色で話す。
- LA1.07 話題を維持する。
- LA1.08 新しい話題を紹介する。
- LA1.09 適切な質問をする。
- LA1.10 タイミング良く質問をする。
- LA1.11 理解している／理解困難であることを表現する。
- LA1.12 必要なときには手助けを求める。
- LA1.13 会話を維持するに十分な語彙を使う。
- LA1.14 聞き手の名前を呼んで話しかける。
- LA1.15 大人／同僚へ適切な声の調子を使う。
- LA1.16 会話している人の名前を使う。
- LA1.17 一人の人との会話で自己表現をする。
- LA1.18 小グループの会話で自己表現をする。
- LA1.19 学級内で自己表現をする。
- LA1.20 礼儀正しくする。
- LA1.21 アドバイスを行う。
- LA1.22 行事を予告する。
- LA1.23 責任ある批評を述べる。
- LA1.24 理由／論理的根拠を述べる。
- LA1.25 他者を激励／賛辞する。
- LA1.26 繰り返し要求する。

- LA1.27 適切に謝罪する。
- LA1.28 適切に交渉する。
- LA1.29 許しを乞う。
- LA1.30 紹介する。
- LA1.31 適切に感情表現を行う。
- LA1.32 効果的なユーモアを使う。
- LA1.33 他者の述べたユーモアを理解する。
- LA1.34 過度の表現を控える。
- LA1.35 求められれば、決められた人のそして／または他者の立場に立って振る舞う。

LA2.0 言語表現スキル

- LA2.1 物事／行事の重要な点を述べる。
- LA2.2 話を聞き、質問に答える。
- LA2.3 論理的に筋道を立てて話／出来事を詳しく述べる。
- LA2.4 校内のある場所を正確な方角で説明する。
- LA2.5 地域内のある場所を正確な方角で説明する。
- LA2.6 電話の／聞いた／書かれたメッセージを取り次ぐ。
- LA2.7 学級全体へ正確に／十分に口頭での発表を行う。
- LA2.8 学級の教室内でインタビューする課題を実践する。

LA3.0 言語的推論スキル

- LA3.01 話されたことばの意味を説明する。
- LA3.02 関連する情報を用いて類似点／相違点を知る。
- LA3.03 情報を適切な系列順に並べる。
- LA3.04 事実／意見を知る。
- LA3.05 適切な疑問を持つ。
- LA3.06 原因と結果を推測する。
- LA3.07 教師が作成した口頭／文書の主たる考え／主旨を知る。
- LA3.08 文中に適切な単語を補う。
- LA3.09 話の終りを適切に補完する。

LA3.10 実生活場面における問題で複数の解決策を考える。

LA3.11 自分自身の行動に対して生じる結果を想定する。

LA4.0 語彙スキル（話すと読み）

LA4.1 単語の正しい定義を選択する。

LA4.2 文中に正しいことばを使う。

LA4.3 反意語と同意語がわかる。

LA4.4 同音異義語がわかる。

LA4.5 カテゴリー名と、それぞれのカテゴリーの関係を適切に命名する。

LA4.6 類推を行う。

LA4.7 比喩的な言語（慣用句、隠喩、諺）の意味を述べる

LA4.8 単語の持つ複数の意味を知る。

LN 言語—一般的言語スキル 第8学年まで

LN1.0 基本的概念の理解

LN1.01 異同概念の習熟度。（教師が作成した、そして／または、適切な評価法による測定で明らかにする）

以下、下線部と同様の場合は文末に（*）と表記する。

LN1.02 基本的な色の同定の習熟度。（*）

LN1.03 暦の知識。（*）

LN1.04 一般的な形の知識。（*）

LN1.05 大きさの概念の習熟度。（*）

LN1.06 空間概念の習熟度。（*）

LN1.07 時間概念の習熟度。（*）

LN1.08 重量概念の習熟度。（*）

LN1.09 量概念の習熟度。（*）

LN1.10 感覚の知識とその機能。（*）

LN2.0 理解スキル

LN2.1 関連する考えと事実とを同定する習

熟度。（*）

LN2.2 理解と指示に従うことの習熟度。（*）

LN2.3 事物や事象を論理的な系列順に配列する習熟度。（*）

LN2.4 情報を要約する習熟度。（*）

LN2.5 要旨を述べる習熟度。（*）

LN2.6 事実と虚構とを区別する習熟度。（*）

LN2.7 文脈の手がかりを活用する習熟度。（*）

LN2.8 物事とその考えを比較したり対照したりする習熟度。（*）

LN3.0 問題解決スキル

LN3.1 日常生活の出来事に関する問題解決の習熟度。（*）

LN3.2 結果を予測する習熟度。（*）

LN4.0 解釈スキル

LN4.1 話の雰囲気と登場人物の感情を理解する。（*）

LN4.2 資料の判断と評価をする。（*）

LN4.3 考え／成果が生じることを創造的に推敲する。（*）

MA 数学

MA01.0 消費者スキル—計算機の使用

MA01.1 計算機で四則計算を行う。

MA01.2 見積書の作成に計算機を使用する。

MA01.3 百分率を計算する。

MA01.4 計算機を使って小切手帳と銀行の貸借表の収支を正確に計算する。

MA02.0 消費者スキル

—消費者としての買い物スキル

MA02.01 年に一度の特売での物品購入で、

節約できる金額を見積もる。

MA02.02 割引率をドルに換算する。

MA02.03 衣類を購入する前に、ドライクリーニングに要する費用を、衣類に付いているラベルを読んで判断する。

MA02.04 カリフォルニア州と他州の消費税表を理解する。

MA02.05 現金支払いの領収書に記述されている内容を理解する。

MA02.06 カタログ用語とそこ（例 モンゴメリ地区のシアーズ、自動販売の店、他）で購入できる2つ以上の商品名を知る。

MA02.07 カタログの目次から、10の異なる商品が掲載されている頁の場所を示す。

MA02.08 カタログで、商品とその量（半ダース、1ダース）の価格を判断する。

MA02.09 カタログを利用し、発注見本の空欄に適切な情報（量、商品名、シリアル番号、価格）を記入する。

MA02.10 郵便料金、そして／または、送料の請求書と消費税を合計する。

MA02.11 カタログから二通りの発注方法を理解する（電話、郵便）。

MA02.12 電話で5種類の商品の発注をロールプレーする。

MA02.13 他の販売カタログと比較して、うまく販売カタログを利用することを知る。

MA02.14 販売カタログによる購入の落とし穴に気づく（必要な物とバーゲン）。

MA02.15 カタログで5種類の商品を比較して買い物をする。

MA02.16 買い物で購入した金額を計算する（食品、衣類、その他の必要な物）。

MA03.0 消費者スキル

－銀行預金の基本的スキルの理解

MA03.1 銀行預金サービスを知る。

MA03.2 小切手の計算書の操作の仕方を理解する。

MA03.3 預金に関する用語を知り、小切手の計算書と預金の書式を記入する。

MA03.4 月ごとの請求書を賄う小切手を書く。

MA03.5 小切手帳の収支を釣り合わせる。

MA03.6 手取りの収入がわかる

MA04.0 消費者スキル

－クレジットの理解

MA04.1 クレジットでの購入と金利の請求について知る。

MA04.2 クレジットの同意書を読み理解する。

MA04.3 クレジットカードを使う。

MA04.4 月ごとのクレジットの計算書を見て、それを理解する。

MA05.0 消費者スキル－ローンの理解

MA05.1 ローンの年率、百ドル当たり、10%以上の百分率の金利を計算する。

MA05.2 ローンの1年の金利、月平均の金利、百ドル当たりの金利、10%以上の金利を計算する。

MA05.3 ローンの年率、百ドル当たり、全体で10%以下、あるいは10%以下の様々な数値の金利を計算する。

MA05.4 ローンの月毎の金利あるいは年と月ごとの金利、百ドル当たりの金利、10%以下の様々な数値の金利を計算する。

MA06.0 消費者スキル

－家計の維持管理スキル

MA06.01 用語を知る。

MA06.02 様々な用語を知る。

MA06.03 所得が消費される12のカテゴリーを知る（食・住・車・家族の経費・税・衣・保険・余暇・健康・教育・その他）。

MA06.04 上記のカテゴリーに該当する内容の典型例をリストする。

MA06.05 一定所得に基づいた一週間の予算をたてる。

- MA06.06 一週間の予算を一か月予算に拡大する。
- MA06.07 連邦と州の所得税簡易書式を作成する。
- MA06.08 所得の中で家計費として割り当てる百分率を算出する。
- MA06.09 家計を維持する予算案を立てる。
- MA06.10 家計費の請求書が正しいか確認する。
- MA06.11 電気・ガス・水道などの計量器を読み理解する。
- MA06.12 交通費や旅行経費を計画する。
- MA06.13 車の維持費を理解する。
- MA06.14 車の購入の消費税を計算する。
- MA06.15 2地点間の走行距離とそれにかかる燃料費を計算する。

MA07.0 幾何学のスキル —幾何図形の理解と作図

- MA07.1 円・正方形・長方形・三角形を理解し、作図する。
- MA07.2 立体を理解する。

MA08.0 幾何学スキル— 幾何学の基本表記の理解

- MA08.1 幾何学の基本表記（点・開／閉図形）を理解する。
- MA08.2 幾何学の基本表記（直線・射線・角）を理解する。

MA09.0 測定スキル—メジャーの使用

- MA09.1 事物をそれに適したインチ・フィート・ヤードで測定し、それぞれの単位との関係を理解する。
- MA09.2 ミリメートル・センチメートル・メートルの単位で測定し、それぞれの単位を換算する。

MA10.0 測定スキル —貨幣とその関係の理解

- MA10.1 種々の硬貨の違いと名称を知る。
- MA10.2 同じ硬貨のセットを勘定する（5枚のペニー・10枚のニッケル・6枚のダイム—合価を示す）。
- MA10.3 異なった硬貨を使って50セント以下の金額を勘定する。
- MA10.4 異なった硬貨を使って1ドル以下の金額を勘定する。
- MA10.5 複数の硬貨と貨幣を計算し、その合価を示す。
- MA10.6 50セントの買物代金を使用する。
- MA10.7 1ドルの買物代金を使用する。
- MA10.8 5ドルの買物代金を使用する。

MA 11.0 測定スキル—時間を読む

- MA11.01 正時と30分読みができる。
- MA11.02 15分間隔読みができる。
- MA11.03 5分間隔読みができる。
- MA11.04 分読みと何時であるかがわかる。
- MA11.05 午前と午後がわかる。
- MA11.06 時間間隔がわかる（午前8時と午後12時の時間経過）。
- MA11.07 1日の労働時間数がわかる。
- MA11.08 1週間の労働時間数がわかる。
- MA11.09 総賃金がわかる（時給*労働時間）。
- MA11.10 時間表現がわかる。
- MA11.11 時間と時程表とを関連づけする。

MA12.0 測定スキル—液量と重量

- MA12.1 液量のカップ・ポイント・クォート・ガロンがわかり、測量し、それらの関係を知る。
- MA12.2 重さの単位、ポンド・オンスがわかり、測量する。
- MA12.3 液量の単位、ミリリットル・リットルがわかり、測量し、換算する。
- MA12.4 重さがわかり、適切な単位（ポン

ド・オンス)で測量し、換算する。

MA13.0 測定スキル—温度計

MA13.1 温度計を読み、気温との関係を知る。

MA14.0 測定スキル—暦の読み方と使用

MA14.1 1週の日曜名称を順に言う。

MA14.2 1年の月名称を順に言う。

MA14.3 週の何日目であるか、週末、様々な月名、1年がわかる。

MA14.4 適切な数字を使って日付を書く(1986年1月1日 1/1/86)。

MA14.5 祝日の名称とその月名を言う。

MA14.6 祝日とその月とが一致する。

MA14.7 暦を理解しているかどうかの質問に答える(7週間目は? 月の第一木曜日は?)。

MA15.0 数—順の理解と操作

MA15.1 同じがわかる。

MA15.2 最小から最大の順に並べる。

MA15.3 整数が最小から最大の順となっていることがわかる。

MA16.0 数—整数の基数概念の理解

MA16.1 $>$ ・ $<$ ・ $=$ を使って99までの数を比較する。

MA16.2 100までを、5ごと・10ごとで数える。

MA16.3 100までを、2ごとで数える。

MA16.4 文章の中で $>$ ・ $<$ ・ $=$ を使う。

MA16.5 1から999までの数字で、ある数字の直前と直後の数字がわかる。

MA16.6 $>$ ・ $<$ ・ $=$ を使って999までの数を比較する。

MA16.7 1から9,999までの数字で、ある数字の直前と直後の数字がわかる。

MA16.8 $>$ ・ $<$ ・ $=$ を使って9,999までの数を比較する。

MA17.0 数—整数の序数概念の理解

MA17.1 事物の1番目から10番目までの順がわかる。

MA17.2 事物の10番目とそれ以降の順がわかる。

MA17.3 1番目から31番目までを数える。

MA17.4 言われる序数がわかる。

MA18.0 数—分数

MA18.1 $1/2$ ・ $1/3$ ・ $1/4$ のモデルがわかる。

MA18.2 $1/2$ ・ $1/3$ ・ $1/4$ のモデルがわかり、それを書く。

MA18.3 $1/2$ から $1/12$ のモデルがわかる。

MA18.4 分母あるいは分子が同じ分数のモデルを比較する。

MA19.0 計算—数学の数字スキル

MA19.1 事物のセットと数字の0から9とを一致させる。

MA19.2 0から99までの整数を数え、理解し、書く。

MA19.3 1から10までを読み書きする。

MA19.4 0から999までの整数を数え、理解し、書く。

MA19.5 20までを読み書きをする

MA19.6 0から9999までの整数を数え、理解し、書く。

MA19.7 100までの整数の読み書きをする。

MA20.0 桁のスキル—計算

MA20.1 2桁の数字の順がわかり、その数字を書く。

MA20.2 3桁まで数字の順がわかり、その数字を書く。

MA20.3 4桁までの数字の順がわかり、その数字を書く。

MA21.0 実際の基本的な加減法の知識

MA21.1 呈示された2数を、合計を出した

めに、具体物を引いたり加えたりする。

MA21.2 具体物のいくつかを取り去り、残っている具体物の数を言う。

MA21.3 合計で12までを知る。

MA21.4 被減数の12までを知る。

MA21.5 合計で18までを知る。

MA21.6 被減数の18までを知る。

MA22.0 加法のスキルと その特性と数字による推論の理解

MA22.01 加法の特性である合併と等値を理解する。

MA22.02 0～19の数で、その数が同じ（例： $5 = 4 + 1 = 3 + 2$ ）であることがわかる。

MA22.03 0から18の数字で、抜けている加数量を言う

MA22.04 3つの加数（1桁の数字）を加える。（繰り上がり無し）

MA22.05 2桁同士の足し算をする。（繰り上がり無し）

MA22.06 3桁同士の足し算をする。（繰り上がり無し）

MA22.07 4桁同士の足し算をする。（繰り上がり無し）

MA22.08 3つの加数（2桁の数字）を加える。（繰り上がり有り）

MA22.09 2桁同士の足し算をする。（繰り上がり有り）

MA22.10 3桁同士の足し算で2つと3つの加数を加える。

MA22.11 貨幣の表記法（\$）で加える。

MA22.12 4桁同士または5桁同士の足し算をする。

MA23.0 減法のスキルと その特性と数字による推論

MA23.1 加法と逆の関係性にある概念を適用する。

MA23.2 抜けている符号（+・-）がわかる。

MA23.3 2桁同士の引き算をする。（繰り下がり無し）

MA23.4 3桁同士の引き算をし、足し算で検算をする。（繰り下がり無し）

MA23.5 4桁同士の引き算をする。（繰り下がり無し）。

MA23.6 2桁同士の引き算をする。（繰り下がり有り）

MA23.7 3桁同士の引き算をする。（繰り下がり有り）

MA23.8 3桁同士の引き算をする。（空位有り）

MA23.9 4桁同士または5桁同士の引き算をする。（繰り下がり有り）

MA24.0 基本的な乗法と除法の知識

MA24.1 積が45になる乗法がわかる。

MA24.2 45の除法との関係がわかる。

MA24.3 積が81になる乗法がわかる。

MA24.4 81の除法との関係がわかる。

MA24.5 乗法の特性が理解できるスキルを高める

MA24.6 乗法の特性である被乗数と乗数がわかる。

MA25.0 乗法の計算スキル

MA25.1 被乗数あるいは乗数の抜けている数とその積からわかる。

MA25.2 積の10または100がわかる。

MA25.3 2桁×1桁を計算する。

MA25.4 2桁×2桁を計算する。

MA25.5 3桁に2桁を掛ける。

MA26.0 除法の計算スキル

MA26.1 2桁÷1桁を計算する（余り無し）。

MA26.2 2桁÷1桁を計算する（余り有り）。

MA26.3 3桁÷1桁を計算する（余り無し）。

- MA26.4 3桁÷1桁を計算する(余り有り)。
- MA26.5 3桁÷2桁を計算する(余り無し)。
- MA26.6 3桁÷2桁を計算する(余り有り)。

MA27.0 分数スキル

- MA27.01 分数の図解がわかる。
- MA27.02 分子と分母がわかる。
- MA27.03 分数が読める。
- MA27.04 分数であることがわかる。
- MA27.05 仮分数を帯分数あるいは整数に変換する。
- MA27.06 帯分数を仮分数に変換する。
- MA27.07 同分母分数を比較する。
- MA27.08 異分母分数を比較する。
- MA27.09 同分母分数の加法を行う。
- MA27.10 異分母分数の加法を行う。
- MA27.11 同分母分数の減法を行う。
- MA27.12 同分母の帯分数の減法を行う。
(繰り下がり無し)
- MA27.13 異分母分数の減法を行う。
- MA27.14 同分母の帯分数の減法を行う。
(繰り下がり有り)
- MA27.15 分数の乗法を行う。
- MA27.16 帯分数同士の乗法を行う。
- MA27.17 分数の除法を行う。

MA28.0 小数スキル

- MA28.1 分数を小数に書く。
- MA28.2 小数の加減法を行う。
- MA28.3 ドルとセントの加減法を行う。
- MA28.4 小数×整数の乗法を行う。
- MA28.5 小数同士の乗法を行う。
- MA28.6 小数を10、100、1000で割る。
- MA28.7 小数を整数で割る。
- MA28.8 小数同士の除法を行う。
- MA28.9 分数を小数に変換する。

MA29.0 百分率の理解と活用

- MA29.1 百分率の概念を理解する。

- MA29.2 簡単な分数を百分率に変換する。
- MA29.3 複分数を百分率に変換する。
- MA29.4 小数を百分率に変換する。

MA30.0 文章題を解く

- MA29.1 文章題を読み、具体物を使って(口頭と筆記で)問題を解く。
- MA29.2 文章題を解くために必要な操作がわかる。
- MA29.3 ワンステップの文章題を(口頭と筆記で)解く。
- MA29.4 ツーステップの文章題を(口頭と筆記で)解く。

MA31.0 グラフと表の問題を解く

- MA31.1 グラフと表を正確に読む。
- MA31.2 グラフと表の問題を解く。

NT 目標に関する標準テスト

NT1.0 数学の標準テスト—数学スキル

- NT1.1 子どもの数学スキルがテストされ、標準的な評価結果が得られれば、各月ごとの数学の指導において、少なくとも1か月の進歩を示したと見なされる。
- NT1.2 子どもの数学スキルがテストされ、標準化された評価結果が得られれば、xxからxxxへ進歩したと見なされる。
- NT1.3 子どもの数学スキルがテストされ、年齢相当の得点を得られれば、少なくとも1年の進歩を示したと見なされる。
- NT1.4 子どもの数学スキルがテストされ、標準的得点以下であれば、最少の進歩しか示さなかった見なされる。

NT2.0 読みの標準テスト

—読みスキルの向上

- NT2.1 子どもの読みスキルがテストされ、

標準的な評価結果が得られれば、各月ごとの読みの指導において、少なくとも1か月の進歩を示したと見なされる。

NT2.2 子どもの読みスキルがテストされ、標準化された評価結果が得られれば、xxからxxxへ進歩したと見なされる。

NT2.3 子どもの読みスキルがテストされ、年齢相当の得点を得られれば、少なくとも1年の進歩を示したと見なされる。

NT2.4 子どもの読みスキルがテストされ、標準的得点以下であれば、最少の進歩でしか示さなかった見なされる。

NT3.0 書字言語の標準テスト —書字言語スキルの上達

NT3.1 子どもの書字言語スキルがテストされ、標準的な評価結果が得られれば、各月ごとの書字の指導において、少なくとも1か月の進歩を示したと見なされる。

NT3.2 子どもの書字言語スキルがテストされ、標準化された評価結果が得られれば、xxからxxxへ進歩したと見なされる。

NT3.3 子どもの書字言語スキルがテストされ、年齢相当の得点を得られれば、少なくとも1年の進歩を示したと見なされる。

NT3.4 子どもの書字言語スキルがテストされ、標準的得点以下であれば、最少の進歩しか示さなかった見なされる。

PM 知覚運動スキル

PM1.0 視覚運動の統合

NT3.1 粗大運動による協応動作の達成レベルを明らかにする。

NT3.2 目と手の協応の達成レベル。(*)

NT3.3 動作模倣の達成レベル。(*)

PM2.0 注意集中スキル

PM2.1 適切に注意を向けてそれを維持する

レベル。(*)

PM3.0 視覚認知スキル

PM3.1 視覚的形態の異同を弁別するレベル。(*)

PM3.2 具体物とその写真との細かい部分に気づくレベル。(*)

PM3.3 事物をいろいろな方向から見てそれが何であるかがわかるレベル。(*)

PM3.4 連続的な視覚記憶のレベル。(*)

PM4.0 聴覚認知スキル

PM4.1 環境音の弁別のレベル。(*)

PM4.2 連続的な聴覚記憶のレベル。(*)

PR 達成度

PR1.0 ビジネス文書の達成基準

PR1.1 ビジネス文書を正しく定型の様式と内容で書く。

PR2.0 職業（求人）応募の達成基準

PR2.1 求人応募書類を正しく書く。

PR3.0 数学の達成基準

PR3.1 整数の概念がわかり、その操作に75%の正答率を示す。(整数1.0)

PR3.2 小数の概念がわかり、その操作に75%の正答率を示す。(小数2.0)

PR3.3 分数の概念がわかり、その操作に75%の正答率を示す。(分数3.0)

PR3.4 小数から分数への変換、分数から小数への変換で75%の正答率を示す。(小数/分数4.0)

PR3.5 分数/小数から百分率への変換、与えられた数字の百分率の算出において、75%の正答率を示す。(百分率5.0)

PR3.6 両替、預金と銀行活用の問題、クレ

ジットと家計の問題、金利・消費税・割引・クレジットの問題で75%の正答率を示す。

PR3.7 グラフ・図・表・地図を読むことに75%の正答率を示す。(グラフ7.0)

PR3.8 時計・暦・温度計・幾何学図形の理解・メートル法と米国単位の測定と計算で75%の正答率を示す。(測量と幾何8.0)

PR4.0 パラグラフの達成基準

PR4.1 ある話題について定型の書式・方法・手順でパラグラフを書く。(パラグラフ)

PR5.0 読みの達成基準

PR5.1 参考書の中から必要な情報のある場所を特定することに75%の正答率を示す。(位置特定スキル1.1)

PR5.2 文脈の手がかりとなる単語を正しく同定することに75%の正答率を示す。(語の意味の断定1.2)。

PR5.3 書かれた物から情報を取得し要約することに75%の正答率を示す。(情報の要約1.2.2)

PR5.4 書いてある情報を説明することに75%の正答率を示す。(情報の説明1.2.3)

PR5.5 書いてある情報を分析し評価することに75%の正答率を示す。(情報分析1.2.4)

PR6.0 科学の達成基準

PR6.1 有機体・細胞・原生生物・哺乳動物・人体・生態等の科学的理解において65%の正答率を示す。(生命科学)

PR6.2 物質・エネルギー・地球?宇宙の科学的理解において65%の正答率を示す。(物理化学)

PR7.0 書きの達成基準

PR7.01 大文字化の規則を75%の正確さで適用する。(大文字化2-1)

PR7.02 75%の正確さで句読点の規則を適用

する。(句読法2.2)

PR7.03 75%の正確さで単語の正しい綴りを同定する。

PR7.04 75%の正確さで、文章に正しい単語が使われていることを同定する。(英語の活用2.3)

PR7.05 75%の正確さで完成文章と未完成文章を同定する。(文の構成2.4)

RE 読み／言語 教養科目

RE01.0 読み前の聴覚スキル

RE01.1 口頭で示された単語がわかる。(*)

RE01.2 言語音の類似点と相違点がわかる。(*)

RE01.3 口頭で一つ一つ呈示された音を単語に組み合わせる。(*)

RE01.4 口頭で呈示された単語の音節数がわかる。(*)

RE01.5 口頭で呈示された話の意味がわかる。(*)

RE02.0 読み前の視覚スキル

RE02.1 文字がわかる。(*)

RE02.2 左から右の方向へと漸進的に文字を連続させる。(*)

RE02.3 類似した単語を組み合わせる。(*)

RE02.4 文字の音がわかる。(*)

RE03.0 文字言語の語彙力

RE03.01 前初歩的なレベルの文字言語を読む。(*)

RE03.02 初歩的なレベルの文字言語を読む。(*)

RE03.03 第1学年レベルの文字言語を読む。(*)

RE03.04 第2学年レベルの文字言語を読む。(*)

- RE03.05 第3学年レベルの文字言語を読む。
(*)
- RE03.06 第4学年レベルの文字言語を読む。
(*)
- RE03.07 第5学年レベルの文字言語を読む。
(*)
- RE03.08 第6学年レベルの文字言語を読む。
- RE03.09 第7学年レベルの文字言語を読む。
- RE03.10 第8学年レベルの文字言語を読む。
- RE03.11 第9学年レベルの文字言語を読む。
- RE03.12 第10学年レベルの文字言語を読む。
- RE03.13 第11学年レベルの文字言語を読む。
- RE03.14 第12学年レベルの文字言語を読む。

RE04.0 音声スキル

- RE04.01 子音の音がわかる。(*)
- RE04.02 母音の音がわかる。(*)
- RE04.03 CVC (子音・母音・子音) の単語
がわかる。(*)
- RE04.04 語中のCVCの構成と発音がわか
る。(*)
- RE04.05 語中の二字一音と発音がわか
る。(*)
- RE04.06 CVCC (子音・母音・子音・子音)
の単語がわかる。(*)
- RE04.07 語中の長母音と発音がわか
る。(*)
- RE04.08 CVCV (子音・母音・子音・母音
無声音E) の単語がわかる。(*)
- RE04.09 語中のCVCVの最後の二字一音と
構成と発音がわかる。(*)
- RE04.10 語中のそれらの(CVCV)の語尾
の組合せと発音がわかる。(*)
- RE04.11 CVCCとCVCVの単語がわか
る。(*)
- RE04.12 語中のCVCCとCVCVの長母音と
の組合せとその発音がわかる。(*)
- RE04.13 単語の末尾の一音節が長母音とわ
かる。(*)
- RE04.14 ～がわかる。

- RE04.15 長母音の組合せであるew・ue・ui
がわかる。(*)
- RE04.16 CVVCとCVVの単語がわかる。
(*)
- RE04.17 ～がわかる。
- RE04.18 長音がわかる。
- RE04.19 母音の二文字一音であるea・oo
(book)・oo (cool)・au・awがわかる。(*)
- RE04.20 二重母音であるou・ow・oi・oyが
わかる。(*)
- RE04.21 例外的な組合せがわかる。(*)
- RE04.22 長母音であるey (they)・ei
(receiVe)の単語がわかる。(*)
- RE04.23 無声音となる子音の組合せと子音
の変形がわかる。(*)

RE05.0 複音節の単語を理解するスキル

- RE05.1 一音節以上の単語の理解。(*)

RE06.0 語の要素の理解

- RE06.1 一般的な語尾(-ing・-ed・-es・-s)
を伴う基本的な単語がわかる。(*)
- RE06.2 単数形あるいは複数形の正しい形
式がわかる。(*)
- RE06.3 複合語がわかりその語義がわかる。
(*)
- RE06.4 短縮形の元の単語がわかる。(*)
- RE06.5 複音節の単語を正しく分解する。
(*)

RE07.0 接頭辞と接尾辞の理解

- RE07.1 語の接頭辞、そして／または接尾辞
がわかる。(*)
- RE07.2 綴りが変化した場合の元の単語が
わかる。(*)

RE08.0 音読スキル

- RE08.1 第1学年レベルの流暢さで音読する。
(*)

- RE08.2 第2学年レベルの流暢さで音読する。
(*)
- RE08.3 第3学年レベルの流暢さで音読する。
(*)
- RE08.4 第4学年レベルの流暢さで音読する。
(*)
- RE08.5 第5学年レベルの流暢さで音読する。
(*)

RE09.0 文字の意味理解スキル

- RE09.1 課題図書に記述されている事実を思い出す。(*)
- RE09.2 読み物を読み、その筋道を追う。
(*)
- RE09.3 読み物に記述されている出来事の順が正しくわかる。(*)
- RE09.4 読んだ物の主な内容がわかる。(*)
- RE09.5 読んだ内容のノンフィクションとフィクションを区別をする。(*)
- RE09.6 読んだ物の内容と同じ内容の文章がわかる。(*)
- RE09.7 パラグラフや物語の状況がわかる。
(*)
- RE09.8 与えられた選択肢から作者の意図を選択する。(*)

RE10.0 理解したことを 解釈するスキル

- RE10.1 文脈の中での同義語がわかる。(*)
- RE10.2 文脈の中での反意語がわかる。(*)
- RE10.3 文脈の中での同音異義語がわかる。
(*)
- RE10.4 代名詞とその代名詞に先立つ言葉とをマッチさせる。(*)
- RE10.5 読んだ物の内容の関係性がわかる。
(*)
- RE10.6 読んだ物の内容で因果関係がわかる。
(*)
- RE10.07 読んだ物の内容と状況がわかる。

- (*)
- RE10.8 読んだ物に表現されている登場人物の感情を解釈する。(*)

RE11.0 理解したことを 批評するスキル

- RE11.1 読んだ物の内容について推論し結論を導き出す。(*)

RE12.0 手書きスキル

- RE12.1 適正な姿勢と筆記具の持ち方。(*)
- RE12.2 写本の文字と数字がわかり複写する。(*)
- RE12.3 口述された文字と数字を手書きする。(*)
- RE12.4 読みやすい手書き文字で文章を複写する。(*)
- RE12.5 筆記体の文字を読んで複写する。
(*)
- RE12.6 口述されたことを筆記体で書く。
(*)
- RE12.7 読みやすい筆記体で複写する。(*)

RE13.0 綴りスキル

- RE13.1 聞いた単語の発音を区別する。(*)
- RE13.10 口述された文章を綴り、大文字使用、句読点を使って適切なレベルで正しく書く。(*)
- RE13.2 口述された個々の子音と短母音の音素を書く。(*)
- RE13.3 音声学的に正しく単語を綴って書く。(*)
- RE13.4 スペリングに用いられるもっとも基本的な100単語を綴る。(*)
- RE13.5 第1学年レベルの単語を綴る。(*)
- RE13.6 第2学年レベルの単語を綴る。(*)
- RE13.7 第3学年レベルの単語を綴る。(*)
- RE13.8 第4学年レベルの単語を綴る。(*)
- RE13.9 第5学年レベルの単語を綴る。(*)

RE14.0 大文字使用と句読法スキル

- RE14.1 適切な名詞、祝日、所在地、日にちなどに大文字を使う。(*)
- RE14.2 文末の句読法を正しく使う。(*)
- RE14.3 一連の項目の間にコンマを使う。(*)
- RE14.4 住所、所在地、日にちなどに正しくコンマを使う。(*)
- RE14.5 短縮形や所有の語に正しくアポストロフィーを使う。(*)
- RE14.6 完成文、分解された文、作成中の文の違いがわかる。(*)

RE15.0 書字表現／言語のスキル

- RE15.1 個人名、住所などを書く。(*)
- RE15.2 個人的な考えを表現するパラグラフを書く。(*)
- RE15.3 話したことの一部分がわかり、それを利用する。(*)
- RE15.4 正しい文章構成で簡単な文章を書く。(*)
- RE15.5 正しい文法、大文字化、句読法を用いて個人的な考えを簡単なパラグラフに書く。(*)

RE16.0 XX～XXX学年レベルの逐語的理解スキル

- RE16.01 課題図書の実事の記述を思い出す。
- RE16.02 読んでその話の筋を追う。
- RE16.03 読んだ物の内容の出来事の順がわかる。
- RE16.04 読んだ物の主な考えがわかる。
- RE16.05 読んだ物のノンフィクションとフィクションを区別する。
- RE16.06 読んだ物の中かからその意味する文章がわかる。
- RE16.07 パラグラフあるいは話の状況がわかる。

RE16.08 書かれて呈示された選択肢から作者のねらいを選択する。

RE16.09 文脈から同義語がわかる。

RE16.10 文脈から反意語がわかる。

RE16.11 文脈から同音異義語がわかる。

RE16.12 読んだ物の内容の関係性がわかる。

RE17.0 XX～XXX学年レベルの理解したことを解釈するスキル

- RE17.1 読んだ物の内容の因果関係がわかる。
- RE17.2 読んだ物の内容と状況がわかる。
- RE17.3 読んだ物に表現されている登場人物の感情を解釈する。

RE18.0 XX～XXX学年レベルの理解したことを批判するスキル

- RE18.1 読んだ物の内容について推論し結論を導き出す。

RE19.0 音読スキル

- RE19.1 第6学年レベルの流暢さで音読する。
- RE19.2 第7学年レベルの流暢さで音読する。
- RE19.3 第8学年レベルの流暢さで音読する。
- RE19.4 第9学年レベルの流暢さで音読する。
- RE19.5 第10学年レベルの流暢さで音読する。
- RE19.6 第11学年レベルの流暢さで音読する。
- RE19.7 第12学年レベルの流暢さで音読する。

RE20.0 語の構造分析スキル～XX～XXX学年レベルの語の要素の理解

- RE20.1 一般的な語尾 (-ing・-ed・-es・-s) を伴う基本的な単語がわかる。
- RE20.2 単数形あるいは複数形の正しい形式がわかる。
- RE20.3 複合語がわかりその語義がわかる。
- RE20.4 短縮形の元の単語がわかる。
- RE20.5 複音節の単語を正しく分解する。

**RE21.0 語の構造分析スキル～XX～
XXX学年レベルの接頭辞と接尾辞の理解**

RE21.1 語の接頭辞、そして／または接尾辞がわかる。

RE21.2 綴りが変化した時の元の単語がわかる。

**RE22.0 生活のための読みスキル
－防衛的／機能的／生活的用語の理解**

RE22.1 安全と自立に関する文字言語とシンボルを読む。

RE22.2 一般的な交通と道路の標識を読む。

RE22.3 家庭で使われる一般的な電気製品と設備の文字言語とシンボルを読む。

RE22.4 簡単な伝言を読む。

RE22.5 通常の～の意味がわかる。

RE22.6 通常の～の意味がわかる。

RE22.7 通常の～の意味がわかる。

RE22.8 通常の～の意味がわかる。

RE22.9 通常の～の意味がわかる。

**RE23.0 生活のための読みスキル
－職業に関する語彙と略語の理解**

RE23.1 ～を読む。

RE23.2 ～に見られる一般的な略語を読む。

RE23.3 職業への応募に必要な個人情報に関するキーワードを読む。

RE23.4 職業現場での安全に関する標示／記号／規則を読む。

RE23.5 職業で一般的に見られる標示／記号を読む。

RE23.6 職業現場の状況で一般的に見られる職業上の手引き書を読む。

**RE24.0 生活のための読みのスキル
－消費に関する語彙とその意味の理解**

RE24.01 食料雑貨の買物一覧、店舗の標示、生産ラベル、割引クーポン、店のレシートを読む。

RE24.02 電気製品の指示書と注意書きを読む。

RE24.03 特売、娯楽、食料雑貨の情報を得るために新聞広告を読む。

RE24.04 職業現場の状況に見られる一般的な職業の手引き書を読む。

RE24.05 買い物のカタログを読む。

RE24.06 商品／サービスの掲載されている電話帳のイエローページを読む。

RE24.07 交通機関の時刻表を読みそれを利用する。

RE24.08 預金書類とその説明書のキーワードを読む。

RE24.09 公共料金請求書と注意書きのキーワードを読む。

RE24.10 レストランの標示とメニューを読む。

RE24.11 所得税（地方、州、連邦）と社会安全保障の注意書きを読む。

SB 社会性／行動

SB1.0 自己概念

SB1.1 適切な環境への働きかけに関する到達度。（*）

SB1.2 他者に対する適切な感情表現の到達度。（*）

SB1.3 情緒的な意識の発達。（*）

SB2.0 自制心と動機

SB2.1 規則の理解とそれへの応諾に関する到達度。（*）

SB2.2 個人の行為の結果を受容する。（*）

SB2.3 社会的に許容される行動の理解。（*）

SB2.4 責任を持ち、それを果たす。（*）

SB2.5 個人的な行為に関する適切な判断を行う。（*）

SB2.6 社会的に許容される方法でフラストレーションを処理する能力。（*）

SB3.0 社会的意識と社会的相互交渉

SB3.1 他者への積極的な態度を示す。(＊)

SB3.2 非言語的な自己表現の到達度。(＊)

SC 科学

SC1.0 生命科学の知識

SC1.1 生命科学の授業を5単位取得する。

SC2.0 生命科学の知識

SC2.1 地球に関する重要な事実を知る。

SC2.2 気象条件が風土と衣類に及ぼす影響と効果を知る。

SC2.3 物理学の授業を5単位取得する。

SI 指導モデルの方策

SI1.0 単語の理解スキル

－DISSECT (単語の理解の方略)

SI1.1 子音の発音を知る。(確立した方略の基準により評価する)

以降で同一の場合(＊＊)と表記する

SI1.2 短母音と長母音の発音を知る。

(＊＊)

SI1.3 文脈から未知の単語を理解する。

(＊＊)

SI1.4 単語を音節に分解する方法を知る。

(＊＊)

SI1.5 接頭辞と接尾辞がわかる。(＊＊)

SI1.6 読んだときに未知の単語だと理解する。(＊＊)

SI1.7 目次を教材にしてDISSECTを適用する。(＊＊)

SI2.0 記憶と勉学スキル

－FIRST (始まり－文字記憶の方略)

SI2.1 第4学年レベルの読解力を示す。

(＊＊)

SI2.2 章の見出しと副見出しがわかる。

(＊＊)

SI2.3 見出し以下の項目を正しく一覧にする。(＊＊)

SI2.4 項目の一覧を記憶する。(＊＊)

SI2.5 目次を教材にしてFIRSTを適用する。

(＊＊)

SI3.0 個人目標達成の推進

－Iプラン (動機付けの方略)

SI3.1 自分の学習面の強さ、弱さ、興味に気づく。(＊＊)

SI3.2 会議でのSHARE (共有) 行動を活用する。(＊＊)

SI3.3 適切な個人目標と教育目標を一覧にする。(＊＊)

SI3.4 選択した目標に対するその進歩の再評価／評価を行う。(＊＊)

SI3.5 他の場面状況でSHARE (共有) 行動、そして／又は、Iプランを適用する。(＊＊)

SI4.0 書字言語スキル

－PENS (作文の方略)

SI4.01 単文の中の名詞がわかる。(＊＊)

SI4.02 単文の中の行為を表す動詞がわかる。(＊＊)

SI4.03 単文の中の動詞の意味する状況がわかる。(＊＊)

SI4.04 単文の中の助動詞がわかる。(＊＊)

SI4.05 単文の中の主語と述語がわかる。

(＊＊)

SI4.06 単文の主語－述語の関係を表現する。(＊＊)

SI4.07 単文を書く。(＊＊)

SI4.08 重文を書く。(＊＊)

- SI4.09 主節／従属節を区別する。(**)
- SI4.10 複文を書く。(**)
- SI4.11 重文－複文を書く。(**)
- SI4.12 他の授業で書字による課題へPENS方略を適応する。(**)

SI5.0 テストを受けるスキル
－PIRATES (テストを受ける方略)

- SI5.1 いずれのテストにおいても、テスト時間とテスト問題の説明に特別の配慮がされる。(**)
- SI5.2 テストの説明と問題の重要な点について注意深く読み注目する。(**)
- SI5.3 このPIRATESとその他の学習方略(FIRST-Letter Mnemonic Strategy)を組み合わせ活用する。(**)
- SI5.4 質問に答えるか否かを選択し、素早くテストを受ける。(**)
- SI5.5 十分に納得した判断をする。(**)
- SI5.6 頭で答えるテストの支援体制を適用するかどうかを判断する。(**)

SI6.0 読解スキル
－RAP (パラグラフレーシング方略)

- SI6.1 第4学年レベルのパラグラフを音読する。(**)
- SI6.2 第4学年レベルのパラグラフの主な内容を理解する。(**)
- SI6.3 第XXX学年レベルのパラグラフの内容の少なくとも2点について詳細に理解する。(**)
- SI6.4 一つ又はそれ以上の授業でRAPスキルを適用する。(**)

SO ソーシャルスキル

SO1.0 主張スキル

- SO1.1 主張的／消極的／積極的行動が理解

- できる。
- SO1.2 要求を主張する。
- SO1.3 拒絶を主張する。
- SO1.4 批判を受け入れる。
- SO1.5 質問と自己開示をすることで議論を展開する。
- SO1.6 可能な歩み寄りの意思を表明する。
- SO1.7 自己／他者の怒りを収める能力を高める。

SO2.0 問題解決のスキル

- SO2.1 同意の意思を表明する。
- SO2.2 信念、感情、問題解決の相互の関係性に気づく。
- SO2.3 相互に論議できる能力を身につける。
- SO2.4 行動とその結果の関係性に気付く。
- SO2.5 問題解決法を活用する。
- SO2.6 適切な人物と問題を論議する。

SO3.0 ストレスマネジメントのスキル

- SO3.1 深呼吸の技法を知りそれを行う。
- SO3.2 漸進的弛緩の技法を知りそれを行う。
- SO3.3 イメージの技法を知りそれを行う。
- SO3.4 ストレス状況下における個人的(自分への)影響を理解する。
- SO3.5 自分に適したストレスを解消する方法を工夫する。

SO4.0 性格／学習スタイルの気付き

- SO4.1 自分の性格を知る。
- SO4.2 教師が評価した他者の性格を知る。
- SO4.3 性格が学習に及ぼす影響を知る。

SO5.0 思春期の問題点と気付き

- SO5.1 化学物質を使うことの結果に関する知識を知る。
- SO5.2 問題とならないように適切な行動をとる。
- SO5.3 責任の持てる性的な行動に関する知

識を持つ。

SO5.4 家族としての責任に気づく。

SO6.0 学級内の行動

SO6.01 規則正しく授業に出席する。

SO6.02 授業中はてきぱきとする。

SO6.03 学校の規則に従う。

SO6.04 教室では適切な身体的表現を示す。

SO6.05 授業中に破壊的な行動を示さない。

SO6.06 教師、そして／または、他のスタッフの指示に応答する。

SO6.07 級友の適切な要求に応じる。

SO6.08 要求には遅滞なく応じる。

SO6.09 教師と級友と交渉する。

SO6.10 適切な言葉遣いで断る。

SO6.11 不平を言わないで分担すべき課題を受け入れる。

SO6.12 教材を共有する。

SO6.13 課題従事行動を示す。

SO6.14 学習時間を有効に使う。

SO6.15 課題を完遂する。

SO6.16 行動の規律を守る。

SO6.17 付帯的強化刺激がなくても活動する。

SO6.18 適切で明確な責任ある態度を示す。

SO6.19 順番を待つ。

SO6.20 小グループの活動では協力をする。

SO6.21 他者の意見を尊重する。

SO6.22 個々の時空間を尊重する。

SO6.23 過ちを許容しそれを正す。

SO7.0 集団での協力スキル

SO7.1 情報と考えを共有する。

SO7.2 理解したことと言い換えを確認する。

SO7.3 説明と時刻表に従う。

SO7.4 同意を確認する。

SO7.5 他者を励ます。

SO7.6 感情を共有する。

SO7.7 他者の意見に応答する。

SO8.0 個人的マネージメントスキル

SO8.01 適切に出席を維持する。

SO8.02 校外では責任ある行動を示す。

SO8.03 新しい場面では適切に対応する。

SO8.04 現実的な個人目標を設定する。

SO8.05 自己決定によりもたらされる結果を受け入れる。

SO8.06 課題、学校、余暇などを含めた時間管理を行う。

SO8.07 自信を持つ。

SO8.08 危険な社会的場面を知る。

SO8.09 友人、家族、他人等との関係を知る。

SO8.10 大人と積極的な関係を結ぶ。

SO8.11 級友と積極的な関係を結ぶ。

SO8.12 適切な友人をつくる。

SO8.13 友達や大人には誠実である。

SO8.14 ~の概念を表現する。

SO8.15 他者を敬う

SS 社会科

SS1.0 学校と地域

SS1.1 学校の方針、授業の手続き、施設設備を知る。

SS1.2 地域の資源を知る。

SS2.0 地図を読むスキル

SS2.1 東西南北の方位がわかる。

SS2.2 地方、州、国を世界地図で示す。

SS3.0 居住する州の主な特徴の理解

SS3.1 地理的な特徴を知る。

SS3.2 政治の仕組みを知る。

SS3.3 初期の歴史と文化の違いを知る。

SS3.4 居住する地方の主な特徴を知る。

SS4.0 合衆国の主な特徴の理解

SS4.1 地理、歴史、政治について知る。

- SS4.2 市民としての公民権、権利と責任について知る。
- SS4.3 地方、州、連邦の政治に関する意見を届け出る方法について論じる。
- SS4.4 政党の機能について知る／説明する。
- SS4.5 選挙のプロセスを説明する。
- SS4.6 地方／州／連邦の選挙人名簿に登録する。
- SS4.7 マスメディアの機能／影響について論じる。

SS5.0 世界の地理的、文化的差異の理解

- SS5.1 地理的な事実を知る。
- SS5.2 世界の文化の多様性を知る。

SS6.0 消費者としての経済的スキル

- SS6.1 生活様式と資源に関する知識を持つ。
- SS6.2 商品選択とサービスの知識を持つ。
- SS6.3 消費者の権利と責任について知る。
- SS6.4 消費者としての財務について知る。

SS7.0 現在の問題点の気付き

- SS7.1 薬物／アルコール依存に関する知識を増やす。
- SS7.2 地方/州/連邦に関する知識を増やす。
- SS7.3 社会的問題に関する知識を増やす。
- SS7.4 結婚/家族問題に関する知識を増やす。
- SS7.5 多文化問題に関する知識を増やす。

ST 学習スキル

ST1.0 学習スキル（情報を探す、まとめる、説明するスキル）

- ST1.1 単語の一覧をアルファベット順に並べる。（*）
- ST1.2 辞書を引く。（*）
- ST1.3 参考書を使う。（*）
- ST1.4 百科事典を使う。（*）

- ST1.5 図書館を利用する。（*）
- ST1.6 図とグラフを説明する。（*）
- ST1.7 地図を読み説明する。（*）
- ST1.8 教科書と参考書の目次、用語集、索引を知る。（*）
- ST1.9 主題と副主題について集約し概説する。（*）

ST2.0 学習スキル（情報を探す、まとめる、説明するスキル）の適用

- ST2.1 学年の及第基準に達する報告書を仕上げる。（*）
- ST2.2 学年の及第基準に達する理解力を示す報告書を仕上げる。（*）
- ST2.3 学習課題でXXX学習方略を適用する。（*）
- ST2.4 授業中にノートをとる。（*）
- ST2.5 宿題とノートは別にまとめる。（*）
- ST2.6 毎日の宿題をして提出する。（*）
- ST2.7 授業のテストで適切な学習スキルを適用する。（*）

ST3.0 コンピュータスキル（情報を探す、まとめる、説明するスキル）

- ST3.1 授業の課題を仕上げるのにワープロを利用する。（*）
- ST3.2 報告書の作成にワープロを利用する。（*）
- ST3.3 誤りを正すのにスペルチェックを利用する。（*）
- ST3.4 授業中にコンピュータを利用する。（*）
- ST3.5 基本的なプログラミングを作成する。（*）

TR 移行

TR1.0 読みの理解

- TR1.1 参考書の中から必要な情報のある場所を見つける。
- TR1.2 文脈の手がかりを用いて単語の正しい定義を選択する。
- TR1.3 xxx学年レベルの図書教材から情報を得て集約する。
- TR1.4 xxx学年レベルの文書情報を説明する。
- TR1.5 xxx学年レベルの文書情報を分析して評価する。

TR2.0 社会性スキル

- TR2.1 適切な～がわかる
- TR2.2 授業のある時には出席し、毎日のポイントシートに評価されると記述されている課題を行う準備をする。

TR3.0 学習スキルの向上

- TR3.1 毎日のポイントシートに記述されているまとめるスキルが向上していることを示す日課の課題シートを整える。
- TR3.2 通常の学級で求められている課題に責任を持って努力していることが毎日のポイントシートに記述されていることで、一定の進歩を示している報告を伝える。
- TR3.3 毎日のポイントシートに記述されているように、適切に課題を完遂する／または、通常の学級で援助を受けた個別化の学習ができるようになる。

TR4.0 職業スキル

- TR4.1 T.A.が提供された教材と説明、ライフセンターの活動と説明を通して、職業選択肢を探す。

TR5.0 書字スキル

- TR5.1 大文字化の規則を適用する。
- TR5.2 句読法の規則を適用する。
- TR5.3 単語の正しい綴りを同定する。
- TR5.4 文中の正しい単語がわかる。
- TR5.5 完全な文章と分断化された文章がわかる。
- TR5.6 ある話題について、正しい書式、手順、連続性を用いてパラグラフを書く。

VO 前職業／職業

VO1.0 被雇用者に求められる職業上の期待

- VO1.1 被雇用者に保証されている3つの雇用権利を述べる。
- VO1.2 タイムカードに所定の書込みをする。
- VO1.3 給料小切手と給料支払い簿を読み理解する。
- VO1.4 ～の用語を知る。
- VO1.5 ～の用語を知る。
- VO1.6 被雇用者の福利をリストに作成する。

VO2.0 雇用者の職業上の期待

- VO2.01 割り当てられた仕事を正確に手際よく完遂する。
- VO2.02 指示と助言を受け入れる。
- VO2.03 他者の権利と感情を尊ぶ。
- VO2.04 適切に建設的に意見を表明する。
- VO2.05 規則の意味と必要性を尊ぶ。
- VO2.06 職務に対する積極的な態度／行動を知る。
- VO2.07 労使関係の重要性を知る。
- VO2.08 社則に耐えることの重要性を知る。
- VO2.09 他者と労働することにおいて、信頼の重要性について知る。
- VO2.10 チームワークでは協力を必要とす

ることの理由を理解する。

VO2.11 会社の生産品／サービスを知りそれを説明する。

VO 3.0 雇用に関連した 生活のためのスキル

VO3.01 職場における課業中と非課業中の基本的な安全規則を理解する。

VO3.02 雇用に関する契約を読む。

VO3.03 業務に関する用語を読み理解する。

VO3.04 業務用語の略語がわかる。

VO3.05 ホワイト／イエローページにある10の名前／仕事の記載場所を示す。

VO3.06 ドルを両替する。

VO3.07 公共交通機関を説明する。

VO3.08 公共交通機関を自力で利用する。

VO3.09 地域バスの巡行路を読みそれを説明する。

VO3.10 オペレーターを介して／介さないで長距離電話をかける。

VO3.11 業務に関連した伝言電話を受ける。

VO3.12 ソシアルセキュリティーカードの申請書を書く。

VO3.13 ソシアルセキュリティーカードを取得し携帯する。

VO3.14 自分の仕事ぶりを評価する。

VO3.15 被雇用者が解雇された理由を理解する。

VO3.16 業務の達成状況の評価目的を知る。

VO3.17 小切手、預金入金票、預金出金票を記入する。

VO3.18 高校での収入／支出に基づいて週毎の生活予算を立てる。

VO3.19 2つの生活スタイルを利用して月ごとの生活予算を比較／対照する。

VO4.0 職業維持スキル

VO4.1 学校生活にふさわしい整容の習慣を身につける。

VO4.2 ～に依存していることを示す。

VO4.3 ～に必要と思われる行動を知る。

VO4.4 職業を得る／維持するために、衣服、整容、衛生がなぜ重要であるかを理解する。

VO4.5 仕事を維持する能力を高めるためには、自分の長所を生かし進歩することが必要であることに気づく。

VO4.6 昇進能力を高めるためには、自分の長所を生かしと進歩することが必要であることに気づく。

VO5.0 求職スキル

VO5.01 校内の職業プログラムに参加する。

VO5.02 学校、縁故、雇用／行政機関、新聞、宣伝広告、そして／またはイエローページを含む雇用情報源の違いに気付く。

VO5.03 ～がどこにあるかを示す。

VO5.04 関心のある宣伝を選択する。

VO5.05 番地、市、電話番号を含んだ職業の書き出しを一覧にする。

VO5.06 職場へのバスルートを決めるために地図を活用する。

VO5.07 地方にある3つの雇用機関を知る。

VO5.08 正確に手際よく求人の応募書類を作成する。

VO5.09 適切な形式を用いて情報シートを作成する。

VO5.10 適切な書式で履歴書を作成する。

VO5.11 求人応募への書簡を作成する。

VO5.12 追筆の／感謝の書簡を作成する。

VO5.13 衣服と整容に関する問い合わせを行う。

VO5.14 ～に参加する。

VO5.15 学校外での面接に参加する。

VO5.16 職探しに必要な書類／教材を一覧にする。

VO5.17 雇用を登録する。

VO6.0 職業意識

VO6.1 職業を得る機会は多くあることに気

付く。

VO6.2 地域社会の様々な職種を調べる。

VO6.3 5種類の異なった職業をリストする。

VO6.4 なぜ人は働かなければならないかを説明する。

VO6.5 最も関心ある職域から職業を選択し、それに関連する3つの職業をリストする。

VO6.6 最も関心の高い3つの職業に求められる職業的要件（教養、技術、免許、年齢、健康）を比較する。

VO6.7 学校の職業センターを尋ねる。

VO6.8 職業に関するサービス内容を入手できる場所を2か所リストする。

VO6.9 職業的能力を初級レベルから専門レベルまで高める。

VO7.0 自己概念

VO7.01 良き学生／労働者であるための性格を知る。

VO7.02 他者と働く際に重要な特性をリストする。

VO7.03 新しい環境では、賛辞／上達するための助言を受け入れる。

VO7.04 グループでの課題に従事しているときは積極的な態度を示す。

VO7.05 良き従業員であるための性格を知る。

VO7.06 仕事に関する自分自身の長所／短所を説明する。

VO7.07 非難、弁解、ごまかし、上達と仕事の熟達度の限界などについて、その理由を述べる。

VO7.08 表／一覧を作成して、性格と共同労働者との関係性に差異があることを示す。

VO7.09 ロールプレイングにより、共同労働者との性格の違いに気付く。

VO7.10 仕事の熟達に影響する障壁があることを理解する。

VO8.0 自己概念

VO8.1 課題完成に関わり、完遂するために要する時間を調整することを表明する。

VO8.2 仕事／学級での適切な生産力について理解を深める。

VO8.3 仕事の内容について、より少ない時間で調整する方法の例を知る。

VO8.4 仕事を適切な時間調整を行うことの利点を知る。

WL 書字言語

WL1.0 職業応募スキル

WL1.1 個人情報に記述する。

WL1.2 職業応募書類を完成する。

WL1.3 授業以外で職業応募書類を完成する。

WL1.4 職業応募書類作成テストに合格する。

WL2.0 書簡作成スキル

WL2.1 正しいビジネス書簡の語調と書式を用いる。

WL2.2 ビジネス書簡作成テストに合格する。

WL2.3 個人的な書簡を作成する。

WL2.4 封筒に正しく宛名を書く。

WL3.0 パラグラフ作成スキル

WL3.1 与えられた話題について3つの文章を書く。

WL3.2 正しいパラグラフの書式を用いる。

WL3.3 話題となっている文章を起こす。

WL3.4 結論の文章を起こす。

WL3.5 パラグラフの形体に必要な4つあるいはそれ以上の文章を続ける。

WL3.6 5つの文章のパラグラフを構成する。

WL3.7 3つあるいはそれ以上のパラグラフを続ける。

WL3.8 パラグラフ作成テストに合格する。

WL3.9 1頁の作文を書く。

WL4.0 前書字スキル

WL4.1 請求に応じて仕分け簿の記入を完成させる。

WL4.2 与えられた話題の文書についてブレインストーミングを行う。

WL4.3 論点順に考えを書く。

WL4.4 発表内容に従って要約を書く。

WL5.0 校正／編集スキル

WL5.1 辞書を用いて綴りと慣用法を点検する。

WL5.2 他の参考書（類語辞典、百科事典）を活用する。

WL5.3 教師へ正しい綴り／慣用法を見てもらうように依頼する。

WL5.4 編集機能の付いたワードプロセッサーを利用する。

WL5.5 よくスペルを間違える単語にきづく。

WL5.6 自分の書いたものを校正する。

WL5.7 編集した文書を複写する。

WL6.0 生活のための綴りのスキル

WL6.1 最もよく使う200単語を正しく綴る。

WL6.2 日にち、月、数字、方角用語、個人情報、略語、そして／又は、職業用語を正しく綴る。

WL7.0 生活のための書字スキル

WL7.1 電話／個人的な伝言を正しく書く。

WL7.2 書類を正しく作成する。

WL7.3 所在場所の方角を書く。

WL7.4 他者の指示を書く。

WL7.5 日常生活書字課題を果たすための補正スキルを活用する。

WL7.6 授業のノートを十分にとる。

WL8.0 書字、文章構造

WL8.1 読みやすい字を書く。

WL8.2 正しく大文字化して句読点を打つ。

WL8.3 正しい文法を用いる。

WL8.4 完全な文章を書く。

WL8.5 主語／述語が一致した文章を書く。

WL8.6 完全／断片化した文章を同定する。

WL8.7 誤った綴りの単語を同定する。

WL8.8 書きの熟達テストに合格する。

(領域コードの略字)

CM	CLASSROOM MODIFICATIONS
CO	COLLABORATION
HH	HEALTH - Health Skills
IL	INDEPENDENT LIVING
LA	LANGUAGE DEVELOPMENT
LN	LANGUAGE-General Language Skill K-8
MA	MATHEMATICS
NT	NORM TEST RELATED OBJECTIVES
PM	PERCEPTUAL MOTOR SKILLS
PR	PROFICIENCIES
RE	READING/LANGUAGE ARTS
SB	SOCIAL/BEHAVIOR
SC	SCIENCE
SI	STRATEGIES INTERVENTION MODELE (SIM)
SO	SOCIAL SKILLS
SS	SOCIAL STUDIES
ST	STUDY SKILLS
TR	TRANSITION
VO	PRE-VOCATIONAL/VOCATIONAL
WL	WRITTEN LANGUAGE

教育相談事業報告 (第7-I号)

平成18年 3月31日 印刷
平成18年 3月31日 発行
発行所 大阪市教育センター
大阪市港区弁天1-1-6
電話 06 (6572) 0603

発行者 四 宮 良 三
